

2026年度
(令和8年度)

授 業 計 画

(シラバス)



TOHOKU
UNIVERSITY

東 北 大 学 歯 学 部

2026年度

授業計画(シラバス)目次一覧表

授業科目	開講 セ メスター	時間数	授業細目	代表担当教員	頁	科目番号
歯学概論	1	30		学部長	8	DDE-DEN201J
歯科臨床入門Ⅰ	1	30		学部教務委員長	9	DDE-DEN202J
歯科臨床入門Ⅱ	3	15		副病院長(教育 担当)	10	
人体の構造	3	180	解剖学総論・各論	畠山 雄次	11	DDE-DEN211J
			局所解剖(体幹・体肢)			
			局所解剖(頭部・頸部)			
歯のかたち	4	60	演習(講義・実習)		14	DDE-DEN212J
人体の発生	3	30	講義	細矢 明宏	15	DDE-DEN213J
人体の細胞と組織	3-4	30-60	講義(総論・各論)		16	DDE-DEN214J
			実習			
口腔の細胞組織と発生	4	60	講義		18	DDE-DEN215J
			実習			
生体分子の科学Ⅰ	3	60	生体構成分子の構造と機能	鷺尾 純平	20	DDE-DEN216J
			物質代謝			
			遺伝情報の発現と制御			
			栄養生化学			
生体分子の科学Ⅱ	4	90	情報伝達の分子機構		24	DDE-DEN221J
			口腔構成分子の構造と機能			
			口腔エコシステムと口腔の健康と疾患			
			生化学実習			
			口腔生化学実習			
生体の機能	4	60	生理学の基礎		29	DDE-DEN217J
			体液と血液の生理学			
			循環生理学			
			呼吸生理学			
			消化と吸収の生理学			
			神経生理学の基礎			
			筋生理学			
口腔の機能	5	60	感覚生理学	安藤 恵子	37	DDE-DEN222J
			口腔・顔面の感覚生理学			
			体温・高次神経機能生理学			
			自律神経生理学			
			咀嚼、嚥下、発声、吸啜の生理学			
			内分泌・生殖・代謝生理学			
生体の機能－応用	5	30	生理学実験		43	DDE-DEN223J
			運動生理学			
歯科生体材料の科学Ⅰ	4	60	歯科生体材料科の基礎		45	DDE-DEN218J
			歯科生体材料基礎実験			
歯科生体材料の科学Ⅱ	5	90	歯科生体材料の成形	岡田 正弘	47	DDE-DEN224J
			歯科生体材料			
			歯科生体材料実習			
くすりの科学	5	150	神経系、循環器系、腎臓、消化器系に作用する薬物	若森 実	50	DDE-DEN225J
			炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物			
			硬組織薬理学歯科臨床薬理学			
			くすりの科学総論			
			くすりの科学実習			
感染と免疫Ⅰ	4	90	微生物学入門	多田 浩之	55	DDE-DEN219J
			細菌学総論			
			細菌学各論(含真菌学)			
			ウイルス学			
			口腔感染症			
			細菌学実習			
			口腔細菌学実習			
感染と免疫Ⅱ	5	60	免疫学入門		62	DDE-DEN229J
			免疫学総論			
			免疫学各論1自然免疫と獲得免疫			
			免疫学各論2免疫機構の破綻/粘膜免疫			
			感染と免疫 特論			

病理総論	4	60	病理総論		67	DDE-DEN227J
			病理総論顕微鏡実習			
口腔病理	5	30-60	歯および歯周疾患の病理	熊本 裕行	69	DDE-DEN228J
			顎口腔の病理			
			歯および歯周疾患の病理・顎口腔の病理顕微鏡実習			
口腔修復学Ⅰ	5	90	保存修復学	齋藤 正寛	72	DDE-DEN301J
			保存修復学実習			
口腔修復学ⅡA	6	90	クラウンブリッジ補綴学 総論		76	DDE-DEN322J
			クラウンブリッジ補綴学 各論			
			クラウンブリッジ補綴学 実習1			
			クラウンブリッジ補綴学関連領域・先端技術論			
口腔修復学ⅡB	7	90	クラウンブリッジ補綴学 各論	江草 宏	80	DDN-DEN-323J
			クラウンブリッジ補綴学 関連領域・先端技術論			
			クラウンブリッジ補綴学 実習1			
			クラウンブリッジ補綴学 実習2			
			クラウンブリッジ補綴学 実習3			
口腔修復学Ⅲ	6	90	歯内治療学	齋藤 正寛	85	DDE-DEN302J
			歯内治療学実習	鎌野 優弥		
口腔機能回復学ⅠA	6	60	歯・周囲組織欠損による障害とその治療		89	DDE-DEN303J
			欠損歯列の診査・診断と治療方針			
			可撤性部分床義歯補綴学			
口腔機能回復学ⅠB	7	60	可撤性部分床義歯治療学1	依田 信裕	92	DDE-DEN313J
			可撤性部分床義歯治療学2			
			可撤性部分床義歯治療学3			
口腔機能回復学Ⅱ	8	60+90	老年歯科学総論・各論	山口 哲史	95	DDE-DEN314J
	7-8		全部床義歯補綴学総論・各論	服部 佳功		
			全部床義歯補綴学実習	田中 恭恵		
	8		老年歯科学実習			
口腔機能回復学Ⅲ	6	120	歯周病学	山田 聡	99	DDE-DEN315J
			歯周病学実習			
社会歯科学	5-6	60	医の原則と社会との関わり		101	DDE-DEN231J
			歯科の歴史と現在の医療			
			医療保障と歯科			
口腔保健学	7		環境学		104	DDE-DEN304J
			疫学・栄養学			
			衛生学実習			
予防歯科学	8	120	歯口の健康	小関 健由	107	DDE-DEN316J
			う蝕とその予防			
			歯周疾患の予防と疫学			
			口腔保健と社会			
			予防歯科学実習			
口腔発育学Ⅰ	7	75-30	小児歯科の講義と実習	齋藤 幹	112	DDE-DEN316J
	8		障害児者の歯科医療	高橋 温		
口腔発育学Ⅱ	7	75-30	咬合形成に関わる生物学		114	DDE-DEN304J
			顎顔面頭蓋部の成長発育			
			矯正歯科診断学			
			矯正歯科治療学			
			不正咬合1			
			不正咬合2			
	8		矯正診断学実習(1)			
			矯正診断学実習(2)			
			矯正治療学実習(1)			
			矯正治療学実習(2)			
口腔病態外科学Ⅰ	7	60	放射線物理学		124	DDE-DEN318J
			放射線生物学			
			画像診断学			
			画像診断学実習			
			口腔診断学			

口腔病態外科学Ⅱ	8	75	手術学 小手術、顎関節疾患	山内 健介	129	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
			高度医療を要する口腔顎顔面領域の疾患			DDE-DEN319J
口腔病態外科学Ⅲ	7-8	60-15	口腔外科診療の基本	杉浦 剛	131	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
			腫瘍および類似疾患			
			口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患			
口腔病態外科学ⅣA	7	30	歯科麻酔学Ⅰ（臨床生理と麻酔・全身管理の基礎）	水田 健太郎	134	DDE-DEN321J
口腔病態外科学ⅣB	8	30	歯科麻酔学Ⅱ（麻酔・全身管理の臨床）		135	DDE-DEN332J
隣接医学	9-10	100-80		教務委員長	136	DDE-DEN333J
総合歯科学Ⅰ	8	60	態度・臨床技能実習（1）	小川 徹	137	DDE-DEN334J
総合歯科学Ⅱ	9	60	態度・臨床技能実習（1）		138	DDE-DEN334J
			態度・臨床技能実習（2）			
			態度・臨床技能実習（3）			
アドバンスⅠ（生体材料学）	8	30	生体材料学	岡田 正弘	141	DDE-DEN801J
アドバンスⅠ（アントレプレナーシップ）	8	30		洪 光	142	
アドバンスⅡ（再生・創建医歯学Ⅰ）	9	30	再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ	鈴木 治	144	DDE-DEN811J
アドバンスⅢ（再生・創建医歯学Ⅱ）	9	30	再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ			DDE-DEN812J
アドバンスⅣ（口腔病態科学Ⅱ）	9	30	口腔と全身	山内 健介	145	DDE-DEN814J
アドバンスⅤ（災害歯科医学）	9	30	災害歯科医学総論・各論	鈴木 敏彦	147	DDE-DEN822J
合同講義	9	30		学部教務委員会	148	DDE-DEN815J
医の倫理・社会の倫理	9	30		鈴木 敏彦	149	DDE-DEN816J
イノベティブ基礎歯学	8	30	未来型歯学・歯科医療	小坂 健	150	DDE-DEN802J
イノベティブ展開歯学	9	30	未来型歯学・歯科医療	小坂 健 千葉 美麗	151	DDE-DEN817J
歯学臨床ゼミ	9	50	歯科医療管理学	小川 徹 小林 洋子	152	DDE-DEN819J
基礎研究実習（アントレプレナーシップ教育）（3年次）	6	210		基礎系分野	154	DDE-DEN820J
臨床シミュレーション実習	9	100	歯科治療の基礎（総合型実習）	山田 聡	155	DDE-DEN821J
	10		診断学実習（単独型実習）	飯久保 正弘		
			歯科矯正学・インフォームドコンセント実習（単独型実習）	金高 弘恭		
臨床講義A	10	40	（臨床実習要項参照）	臨床実習総責任者	159	DDE-DEN401J
臨床講義B	11-12	60-40			160	DDE-DEN211J
臨床実習A	10	360			161	DDE-DEN402J
臨床実習B	11-12	540-360			162	DDE-DEN412J
歯学海外研修				洪 光	163	DDE-DEN901J

2026_購入実習器具・材料リスト

在学中に購入が必要となる実習器具・材料は次のとおりです。

*実習内容や単価の変更等により、金額が変わることがあります。

*実際の購入にあたっては、事前に担当分野からの指示を受けてください。

歯科保存学分野				
保存修復学				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
顎模型 上下セット	ニッシン 顎模型 D 1 8 F E－5 0 0 E（G U B）	1	29,700	29,700
人工歯	ニッシン カリエス模型歯 A 2 6 A N－2 1	1	1,760	1,760
人工歯	ニッシン カリエス模型歯 A 2 6 A N－2 6 A	1	1,320	1,320
人工歯	ニッシン う蝕検知液可染模型歯 A 1 6 A N－3 4 B	1	1,122	1,122
ダイヤモンドポイント	歯牙固定用ネジ 1 1 m m	1	132	132
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # 4 4 0 S	1	473	473
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # 3 4 0	1	550	550
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # 3 0 1	1	550	550
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # 1 0 4	1	1,001	1,001
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # S F 2 1 7	1	759	759
ダイヤモンドポイント	F G ダイヤ # 2 0 2 R D	1	759	759
研磨材	コンポマスター 2 8	1	792	792
ホワイトポイント C A # 2 8	松風	1	154	154
カーボランダムポイント C A # 4 4	松風	1	154	154
スチールバー	ステンレスバーハード 2 2 m m # 2	1	583	583
スチールバー	ステンレスバーハード 2 2 m m # 4	1	583	583
スチールバー	ステンレスバーハード 2 2 m m # 6	1	583	583
ブラシ	ベンダブラシマイクロファイン	1	1,936	1,936
フュージョンバンド	スタンダード F X 2 0 0	1	1,408	1,408
クリアフィル メガバンド F A セット	# 1 9 1 0	1	3,300	3,300
ラバーダムシート	6 × 6 ミディアム グリーン	1	4,620	4,620
	松風 F G 用 空ケース	1	0	0
	松風 C A 用 空ケース	1	0	0
合計				52,239
歯内療法学				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
キャナルシーラー	ニシカキャナルシーラー B G m u l t i ペースト	1	1,243	1,243
注射針	27ゲージ 10本	1	99	99
アクセサリーポイント	GC 特	1	2,728	2,728
JMガッタパーチャポイント	#35	1	110	110
JMガッタパーチャポイント	#40	1	110	110
JMガッタパーチャポイント	#45	1	110	110
JMガッタパーチャポイント	#50	1	110	110
JMガッタパーチャポイント	#55	1	110	110
ラバーダムシート	6 × 6 ミディアム グリーン 15枚	1	1,760	1,760

ジッペラー・Kファイル	手用 25mm#10	1	2,310	2,310
ジッペラー・Kファイル	手用 25mm#15-40ASS	1	1,980	1,980
ジッペラー・Kファイル	手用 25mm#45-80ASS	1	2,310	2,310
マニー・ゲーツグリデンドリル	32mm #1	1	495	495
マニー・ゲーツグリデンドリル	32mm #2	1	495	495
マニー・ゲーツグリデンドリル	32mm #3	1	495	495
マニー・ゲーツグリデンドリル	32mm #4	1	495	495
JMペーパーポイント	モリタペーパーポイント 200入#15-40ASS	1	990	990
人工歯	S12AN-500-#26	1	1,100	1,100
人工歯	S12AN-500-#46	1	1,100	1,100
人工歯	ディーメック LPMW1-01 クリア有 2本組	1	4,950	4,950
人工歯	ディーメック UPMW3-01 クリア有 2本組	1	4,950	4,950
人工歯	ディーメック UMW3-03 クリア有	1	3,520	3,520
トレーニングブロック	ディーメック 東北大学モデルブロック クリア有	1	3,740	3,740
トレーニングブロック	デンツプライ エンドトレーニングブロック#15J	2	1,540	3,080
プロテーパーネクスト	プロテーパー・ネクスト XA-19mm	1	2,200	2,200
プロテーパーネクスト	X1#17 25mm 1本	1	2,640	2,640
プロテーパーネクスト	X2#25 25mm 1本	1	2,640	2,640
プログライダー	25mm 1本	1	2,640	2,640
マニー・ステンレスパーハード	28mm #5(016)	1	495	495
FGダイヤ	#F102R	1	825	825
ガッターカット	ミニ 共用	1	3,630	3,630
メラミンスポンジ	4cm角 共用	1	44	44
合計				53,504
歯内歯周治療学分野				
品名	規格	数量	単価 (円)	金額 (円)
歯周病基礎実習用顎模型	ニッシンPER1032-UL-SP-HM28	1	33,000	33,000
歯周病基礎実習用顎模型	オベガムセット T6-OPE. SET. 1	1	2,805	2,805
グレイシーキュレット	ヒューフレディー・#1/2スタンダード (SG1/2) #7	1	4,620	4,620
グレイシーキュレット	ヒューフレディー・#7/8スタンダード (SG7/8) #7	1	4,620	4,620
グレイシーキュレット	ヒューフレディー・#11/12スタンダード (SG11/12) #7	1	4,620	4,620
グレイシーキュレット	ヒューフレディー・#13/14スタンダード (SG13/14) #7	1	4,620	4,620
ダルインストルメント練習用	ヒューフレディー・SG13/14 #6 (ダルインストルメント)	1	2,475	2,475
プラスチックテストスティック	ヒューフレディー	1	440	440
シャープニングストーン	YDM 砥石F 13006	1	3,300	3,300
替刃メス	フェザー・#12	1	110	110
替刃メス	フェザー・#15	1	110	110
替刃メスハンドル	フェザー・#3	1	792	792
縫合針	マニー 逆角弱15mm 4個組	1	814	814
縫合糸	YDMナイロン縫合糸4-0 4.5m	1	880	880
滅菌済針付き縫合糸	マニー No.1 2個組	1	792	792
咬合紙 (青 12枚)	咬合紙 青	1	110	110
咬合紙 (赤 12枚)	咬合紙 赤	1	110	110
カーボランダムポイントCA #28	松風	1	330	330
スチールバーCA ラウンド023 (#8)	メルファー	1	176	176
小筆 (レジン用)	松風	1	440	440
合計				65,164

歯科医用情報学				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
テキスト	歯科医用情報学 Oral Diagnosis & Radiology テキスト	1	1,400	1,400
合計				1,400

加齢歯科学分野				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
石膏模型・蠟堤	N D－N 8 ベースプレート咬合堤付き石膏製無歯顎模型	1	7,458	7,458
人工歯	ベラシアS A アンテリア A 3 S T 5	1	737	737
人工歯	ベラシアS A アンテリア A 3 M A 4 下顎	1	737	737
人工歯	ベラシアS A ポステリアキュービックバック1 2組 A 3 S 3 0上	1	1,419	1,419
人工歯	ベラシアS A ポステリアキュービックバック1 2組 A 3 S 3 0下	1	1,419	1,419
技工用バー	カーボランダムポイント H P # 4 4	1	286	286
技工用バー	ビッグシリコンポイント H P R 2 # 1 4 7	1	352	352
技工用バー	スチールバーH P フィッシャー 0 1 6	1	198	198
歯科用研磨器材	ペーパーコーン 中 5本組	1	198	198
歯科用マンドレル	ペーパーコーン用 二股マンドレール	1	264	264
研磨用機材	フランネル ポイント # 1 0 2	1	528	528
樹脂用筆	樹脂類備品 レジン用筆混毛（プロビナイス用／3本入）	1	506	506
研磨剤	P－マルチソフト	1	264	264
技工用メジャー	デンタルメジャー 2	1	550	550
埋没材	アドバストーン	1	1,100	1,100
ワックス	パラフィンワックス 1 Kg	1	165	165
床用材料	ポリエチレンフィルム	1	33	33
レジン分離材	ニューアクロセップ 液	1	55	55
義歯床用レジン	アクロン MC 粉 シンプルパック # 3（ピンク）	1	374	374
義歯床用レジン	アクロン MC 粉 # 3（ピンク）	1	319	319
義歯床用レジン	アクロン MC 液	1	275	275
ワックス	ユーティリティーワックス レッド	1	44	44
機能検査器具	J M S 舌圧測定器 連結チューブ	1	220	220
機能検査器具	J M S 舌圧測定器 舌圧プローブ	1	1,034	1,034
機能検査器具	咀嚼機能検査キット ろ過セット	1	176	176
機能検査器具	グルコラム	1	165	165
機能検査器具	G S－II センサーチップ	1	825	825
機能検査器具	デンタルプレスケールII サイズM	1	814	814
機能検査器具	デンタルプレスケールII サイズL	1	814	814
機能検査器具	口腔水分計ムーカス 専用センサーカバー	1	253	253
合計				21,582

口腔システム補綴学分野				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
トレーレジン	トレーレジンⅡ 粉 ピンク	1	363	363
トレーレジン	トレーレジンⅡ 液	1	198	198
カーバイトバー	技工用カーバイトバー プレーンカット E Xコース # 2 2 5 1	1	3,322	3,322
人工歯	A 5 A N－5 0 0－# 3 5 左下5	1	363	363
人工歯	A 5 A N－5 0 0－# 3 7 左下7	1	363	363
人工歯	A 5 A N－5 0 0－# 4 4 右下4	1	363	363
ワックススパチュラ #31	ワックススパチュラ # 3 1 1 1－6 3 1	1	3,553	3,553
クラスプ線 2012800010.9	サンコバルト クラスプ線 0. 9mm	1	572	572
プライヤー 201510317	技工プライヤー クラスプベンディング# 1 1 8 4 8 1	1	13,090	13,090
プライヤー 201510319 三嘴	技工プライヤー 三嘴 1 8 4 8 3	1	13,090	13,090
人工歯	エフセラーP A 3－M 3 2 左下5	1	132	132
人工歯	エフセラーP A 3－M 3 2 左下6	1	132	132
人工歯	エフセラーP A 3－M 3 2 左下7	1	132	132
モリタ歯科用咬合紙（赤）	モリタ歯科用咬合紙 青	1	110	110
モリタ歯科用咬合紙（青）	モリタ歯科用咬合紙 赤	1	110	110
カーボランダムポイント	カーボランダムポイント H P # 2 4	1	143	143
インレーワックス 204310412H	マイティワックス ハード	1	22	22
パラフィンワックス 206490651	パラフィンワックス	1	121	121
ユーティリティワックス（レッド）	ニューステッキーワックス	1	33	33
スティッキーワックス	ユーティリティワックス	1	33	33
超硬石膏（100g）	デンサイト	1	297	297
普通石膏（400g）	ノリタケデンタルプラスター2	1	275	275
硬石膏 100g	ニューダイヤストーン イエロー	1	319	319
合計				37,136

口腔修復学Ⅱ（クラウンブリッジ補綴学）				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
人工歯	ニッシン A5AN-500 #11	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #14	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #15	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #16	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #17	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #21	1	638	638
人工歯	ニッシン A5AN-500 #22	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #24	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #25（4本入り）	1	638	638
人工歯	ニッシン A5AN-500 #26	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #27	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #34	1	319	319

人工歯	ニッシン A5AN-500 #35	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #36	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #37	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #44	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #45	1	319	319
人工歯	ニッシン A5AN-500 #46 (2本組)	1	638	638
人工歯	ニッシン A5AN-500 #47	1	319	319
既製ﾌﾟﾗｽチックｸﾗウン	JMﾎﾞﾘﾝｸﾞｸﾗウンNo,16(21XL)	1	88	88
ﾊﾞｰｽﾀﾝﾄﾞ	松風 ﾋﾞｰｽﾃｰｼｮﾝⅡ (青)	1	1,188	1,188
ﾀﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ﺗﺎﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG #102R	1	770	770
ﾀﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ﺗﺎﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG #104	1	770	770
ﾀﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ﺗﺎﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG #106RD	1	770	770
ﾀﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ﺗﺎﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG #SF114	1	770	770
ﾀﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ﺗﺎﾞｲﾓﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄFG #440SS	1	363	363
ｶｰﾎﾞﾗﾝﾀﾞﾑﾎﾟｲﾝﾄFG	松風 ｶｰﾎﾞﾗﾝﾀﾞﾑﾎﾟｲﾝﾄFG #24	1	132	132
ｶｰﾎﾞﾗﾝﾀﾞﾑﾎﾟｲﾝﾄHP	松風 ｶｰﾎﾞﾗﾝﾀﾞﾑﾎﾟｲﾝﾄHP #13	1	132	132
ﾎﾙﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄCA	松風 ﾎﾙﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄCA #28	1	132	132
ｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄ茶HP	松風 ﺷﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP M2 #13	1	143	143
ｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄ青HP	松風 ﺷﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP M3 #13	1	143	143
ﾋﾞｯｸｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP茶	松風 ﾋﾞｯｸｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP R2 147	1	330	330
ﾋﾞｯｸｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP白	松風 ﾋﾞｯｸｼﾘｺﾝﾎﾟｲﾝﾄHP R3 147	1	330	330
ﾍﾞｰﾊﾞｰｺｰﾝ 極細	大木 ﾍﾞｰﾊﾞｰｺｰﾝXF	1	55	55
手用器具	YDM ﾜｯｸｽｽﾊﾟﾁｭﾗ #7A	1	2,222	2,222
手用器具	YDM PKTｲﾝｽﾄﾙﾒﾝﾄJM型 #5	1	3,762	3,762
ﾗｳﾝﾄﾞﾊﾞｰHP	山八 ﾏﾞｰｽﾏｰﾄｶｰﾊﾞｲﾄﾊﾞｰ #018(No.6)	1	462	462
ﾌｨｯｼｬｰﾊﾞｰHP	山八 ﾏﾞｰｽﾏｰﾄｶｰﾊﾞｲﾄﾊﾞｰ #701	1	462	462
ｶｰﾊﾞｲﾄﾊﾞｰHP	ｴﾃﾞﾝﾀﾞﾌﾞﾚｰﾝｶｯﾄｺｰｽ #1550	1	2,145	2,145
埋没材	ｸﾘｽﾄﾊﾞﾗｲﾄPF	1	110	110
ﾎﾟｲﾝﾄ収納空ケース		1	0	0
ﾍﾞｰﾊﾞｰｺｰﾝ用ﾏﾝﾄﾞﾚｰﾙ	大木 ﾍﾞｰﾊﾞｰｺｰﾝ用二股ﾏﾝﾄﾞﾚｰﾙ	1	132	132
ﾗﾊﾞｰﾎﾞｳﾙ	ｸﾞﾘｰﾝ LL	1	847	847
ｱﾙｼﾞﾈｰﾄｽﾊﾟﾁｭﾗ	ﾀｲﾌﾟ3ｺｷﾞ YDM11725	1	2,640	2,640
彫刻刀 エバン	AT1 07165	1	3,630	3,630
ﾄﾘｷﾘﾄﾚｰ (ﾃﾞｲｽﾎﾟﾄﾚｰ)	下顎 ﾀﾞｲｽB2 16個/箱	1	176	176
鋳造リングライナー	松風ﾌｨｯﾃｨﾝｸﾞﾗｲﾅｰﾊﾞｲｵNo.1	1	44	44
GC共用材料	ﾆｭｰﾌﾞﾗｽﾄｰﾝⅡLEｲｴﾛｰ・ﾉｰﾏﾙ	1	177	177
GC共用材料	ｴｸﾞｻﾞﾐｯｸｽﾌｧｲﾝⅡ新ｶｰﾄ2個／1函	1	1,363	1,363
GC共用材料	ﾆｭｰﾌﾞﾗｽﾄｰﾝⅡﾎﾜｲﾄ・ﾉｰﾏﾙ	1	177	177
GC共用材料	ﾆｭｰﾌﾞﾗｽﾄｰﾝⅡﾎﾜｲﾄ・ﾌｧｽﾄ	1	237	237
GC共用材料	超硬石膏ﾆｭｰﾌﾞｼﾞﾛｯｸ	1	287	287
GC共用材料	ｼｭｰﾙｷﾞｬｽﾄｽﾌﾟﾚｰ	1	103	103
GC共用材料	ﾐｷｼﾝｸﾞﾁｯﾌﾟⅡSSｲｴﾛｰ 100個／1函	1	95	95

GC共用材料	ミキシングチップノズルSS用 100個／1函	1	97	97
GC共用材料	ラボコーン パテ	1	405	405
GC共用材料	エクザファイン パテタイプ	1	526	526
GC共用材料	実習用合金 Kメタル【10g】	1	528	528
GC共用材料	フュージョンII ヘビーボディ 2個／1函	1	734	734
GC共用材料	フュージョンII ウォッシュ 2個／1函	1	441	441
GC共用材料	フュージョンII アドヒーズィブ レジントレー用	1	197	197
GC共用材料	ジーセムOne 接着強化プライマー	1	108	108
GC共用材料	ジーセムOneEM 5本入りパック ユニバーサル	1	480	480
合計				35,721

小児歯科学分野				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
人工歯	ニッシン A2-327 左上C(#63)	1	352	352
人工歯	ニッシン A12-66 左上D (#64)	1	1,419	1,419
人工歯	ニッシン A2-129 右上D(#54)	1	352	352
人工歯	ニッシン A2-129 左上E(#65)	1	352	352
歯肉粘膜	T6-TO.K.8	1	2,090	2,090
人工歯	ミルキー 硬質レジン歯 乳歯白歯 下顎 A0.5	1	1,650	1,650
ダイカホルダー	JM ダイカホルダー	1	209	209
硬石膏	OM2 1 8 E オースマックス2 1 8 kg	1	385	385
ラバーダムシート	6×6 ミディアムグリーン	1	99	99
ナイクロ乳歯冠	右上DUR5	1	814	814
ナイクロ乳歯冠	右上DUR6	1	814	814
0.9mm矯正用ワイヤー	サンプラチナ矯正線 0.9	1	231	231
筆	レジン用筆混毛	1	605	605
ダイヤモンドポイント	ダイヤモンドポイントFG #204	1	132	132
器具	スチールバーCA フィッシャー 012 6入 701	1	44	44
器具	スチールバーCA ラウンド 012 6入 3	1	44	44
研磨器材	チャモイスホイール E用 12入（縫目あり）	1	22	22
ビッグシリコンポイントHP	ビッグシリコンポイントHP R2-147	1	132	132
ビッグシリコンポイントHP	ビッグシリコンポイントHP R3-147	1	132	132
瞬間接着剤	アロンアルファ	1	165	165
ガストーチ	ハンデイトーチ Labo （技工用） 22771	1	660	660
咬合紙	プリカット咬合紙 赤 1／2	1	33	33
トクヤマ A－1アルファN（ノーマル）	1kg×5個	1	330	330
レジン分離材	アクロセップ 液 300ML	1	44	44
ワックス	ユーティリティーワックス 100g レッド	1	66	66
レベアジン 粉	100g #3	1	209	209
レベアジン 液	100g	1	143	143
合計				11,528

歯科矯正学分野				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
STロック		1	4,158	4,158
ガスボンベ	YDM ハンディトーチトーチ用ガスボンベ	1	77	77
ダイヤスーパーマット	#200 A4	1	385	385
硬石膏	KND ノリタケデンタルプラスター2	1	242	242
アイディアルモラーバンド	上顎左側5入 3 6 1ー1 7	1	242	242
アイディアルモラーバンド	上顎右側5入 3 6 2ー1 7	1	242	242
アルジネート	アルフレックスダストフリーN	1	462	462
歯科矯正用レジン	オルソクリスタル粉	1	330	330
歯科矯正用レジン	オルソクリスタル液P	1	105	105
アクロセップ	アルギン酸バニッシュ	1	22	22
JM Ortho サンプラチナ矯正線	0.9mm線 SP09	1	1,947	1,947
ASO FINE SOLDER		1	55	55
TOMY ソルダリングフラックス 229ー61		1	176	176
合計				8,443
歯科生体材料学分野				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
彫刻刀	YDM 彫刻刀 エバン #AT1	1	2,916	2,916
ワックススパチュラ	YDM ワックスパチュラ #1	1	2,079	2,079
普通石膏	ノリタケ デンタルプラスター 1kg袋入り	0.188679245	486	92
硬質石膏	G C ニューブラストーンⅡ 【3kg】	0.188679245	1,287	243
超硬質石膏	G C ニューフジロック 【3kg】	0.188679245	1,804	340
歯科用セメント	G C エリートセメント100 粉末1本	0.188679245	2,268	428
歯科用セメント	G C エリートセメント100 液1本	0.188679245	1,123	212
光重合型コンポジットレジン	松風 ライトフィルⅡ	0.037735849	2,268	86
ワックス	G C インレーワックス ソフト 1箱 【60g】	0.188679245	1,868	352
ワックス	G C パラフィンワックス 【500g】	0.188679245	1,685	318
埋没材	G C イデアベスト ミクロ 【3kg】	0.188679245	2,041	385
埋没材	G C ソルダベストクイック 【1.2kg】	0.188679245	3,380	638
アルジネート印象材	G C アローマファイン プラス スロ	0.003773585	7,560	29
シリコーン印象材	G C エグザミックスファインR G 【2Ct】	0.094339623	3,089	291
シリコーン印象材	G C エグザミックスファインⅠ J 【2Ct】	0.037735849	3,089	117
義歯床用レジン	G C アクロンMC 粉末	0.188679245	3,758	709
義歯床用レジン	G C アクロンMC 液	0.188679245	1,274	240
実習用合金	K メタル 【1kg】	0.005	300（時価）	300
合計				9,774

臨床シミュレーション実習				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
左上4 透明根管模型歯	S12AN-270 #24	1	1,455	1,455
歯石付人工歯	右上6 A2A-233 #16 CM45	1	825	825
歯石付人工歯	左下1 A1A-500 #31 CM45	1	720	720
通常人工歯	A5A-500- # 34	1	310	310
通常人工歯	A5A-500- # 45	1	310	310
通常人工歯	A5A-500- # 47	1	310	310
支台歯形成人工歯	ニッシン 支台歯形成模型 A55A-120	1	410	410
支台歯形成人工歯	ニッシン 支台歯形成模型 A55A-210	1	410	410
ニッシン JMポリクラウン	10入(品番：4) 【右上1】 XL	1	85	85
ニッシン JMポリクラウン	10入(品番：44) 【右上2】 2XL	1	85	85
ニッシン JMポリクラウン	JMポリクラウン10入(品番：16) 【左上1】 XL	1	85	85
松風	レジン用筆 3 入り	1	337	337
合計				5,342

臨床実習				
品名	規格	数量	単価（円）	金額（円）
ニッシン A5A-500	#11, #14, #16, #21, #24, #26, #34, #36,#44, #46の10本	1	3,100	3,100
ディーメック精密模型	UMW3-03-2	1	1,500	1,500
合計				4,600

授業科目	歯学概論		授業担当	○歯学部長			
授業細目			責 任 者	歯学部教務委員長			
曜日一時限	月－１・２	対象年次 学期	１年次 １セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN201J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：導入科目として、新入生に将来の歯科医師として学ぶ自覚を持たせる。 概要：東北大学歯学部・歯学研究科と病院および今後学ぶ基礎歯学と臨床歯学の概要を各分野の教員が紹介する。						
学習の到達 目標	一般目標：将来の歯科医師として学ぶ自覚を持つ。 個別目標： （１）東北大学歯学部・歯学研究科と病院の概要を学ぶ。 （２）基礎歯学科目の概要を学ぶ。 （３）臨床歯学科目の概要を学ぶ。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯学とは				小坂 健	
	2	これからの歯科医療				総括副病院長	
	3	歯・顎骨・顔面の欠損の病態と治療				依田 信裕	
	4	グローバル社会における歯学				洪 光	
	5	歯原性間葉系幹細胞の機能と可能性				細矢 明宏	
	6	口腔疾患の病理				熊本 裕行	
	7	バイオマテリアルと生体材料学				鈴木 治	
	8	生体内の情報伝達と痛み				口腔生理学分野	
	9	歯の本数と健康寿命				江草 宏	
	10	矯正歯科治療				金高 弘恭	
	11	歯科口腔麻酔学				水田 健太郎	
	12	口腔と全身をつなぐ病気、歯周病				山田 聡	
	13	個人の尊厳と社会の安全を守る歯科法医学				鈴木 敏彦	
	14	次世代の保存修復治療 ～歯の再生医療～				齋藤 正寛	
15	口腔とがん				杉浦 剛		
アドバイス	・４月１３日（月）～６月８日（月）の８週で実施する。（１週あたり２回実施。） 必ず出席すること。講義の順番は変更になることもある。						
予習・復習	・復習を兼ねるレポートの提出を必須とする。						
テキスト・教材・ 参考書等	担当教員が適宜紹介する。						
成績評価の方法	出席及びレポート提出に基づいて教務委員会で判定する。						

授業科目		歯科臨床入門Ⅰ		授業担当 責任者	歯学部教務委員長		
授業細目							
曜日・時限	金一・2	対象年次 学期	1年次 1セメスター	講義室名	B3、B4 講義 室・実習室	科目番号	DDE-DEN202J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯科医師の業務や診療内容を理解させ、歯科医師としての将来像の確立を促す。 概要：歯科医師の職責や基本的資質を学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：歯科医師の職責を理解する。 個別目標： ①病院で行われている診療の内容を説明できる。 ② 歯科医師の職責を説明できる。 ③ 歯科医師に求められる基本的資質を説明できる。					
授 業 計 画	回数	授業内容			担当者		
	1	オリエンテーション【PR-01】【PR-02】【PR-03】 【LL-01】【H28:A-1-2, 1-3】			歯学イノベーション リエゾンセンター 先端教育開発部門担当者		
	2～14	下記の診療科・部が講義、演習、実習を担当する。【PR-01～03】【LL-01～04】【LL-04】【RE-01】【C-3-3】【D-2-4】【E-1-1】【H28:A-1-2, 1-3】 総合歯科診療部、顎口腔画像診断科、歯内療法科、歯周病科、咬合修復科、咬合回復科、歯科顎口腔外科、口腔機能回復科、小児歯科、障がい者歯科治療部、矯正歯科、顎口腔機能治療部、口腔支持療法科、歯科麻酔疼痛管理科、歯科インプラントセンター、顎顔面口腔再建治療部、歯科医療管理部			各診療科・部授業担当者		
	15	まとめ、総合討論など【PR-01】【PR-02】【PR-03】 【LL-01】【H28:A-1-2, 1-3】			歯学イノベーション リエゾンセンター 先端教育開発部門担当者		
アドバイス		・オリエンテーションの際に具体的な授業日程等を周知する。 ・各診療科・部の講義等を通して、歯科が対象とする疾患について理解し、歯科治療の目的である患者への貢献、歯科疾患の予防と歯・口を中心とした健康増進等について考える。 ・自己研鑽に向けた意欲や態度が歯科医師に求められる基本的資質の一つであることを意識し、講義等で生じた疑問は、当日の質問や復習により自己解決することが望まれる。					
授業時間外学習		担当教員より指示される場合があるので、それに従うこと。					
テキスト・教材・参考書等		担当教員が適宜紹介する。					
成績評価の方法		出席状況、課題等から総合的に判断する。					

授業科目		歯科臨床入門Ⅱ		授業担当責任者	○副病院長（教育担当）			
授業細目								
曜日一時限	月－3・4	対象年次 学期	2 年次 3 セメスター	講義室名	各診療科	科目番号	DDE-DEN202J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯科医師の業務を理解させ、歯科医師としての将来像の確立を促す。 概要：歯科医師の職責や基本的資質を学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：歯科医師の職責を理解する。 個別目標： ① 病院の機能および病院で行われている診療の内容を説明できる。 ② 歯科医師の職責を説明できる。 ③ 歯科医師に求められる基本的資質を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者		
	1	オリエンテーション【PR-01】【PR-02】【PR-03】【LL-01】				授業担当責任者		
	2～7	・ 6 グループに分かれ、下記診療科を見学する。 【PR-01～03】【LL-01～04】【LL-04】【RE-01】【C-3-3】【D-2-4】【E-1-1】 ① 歯内療法科/歯周病科 ② 咬合修復科/咬合回復科 ③ 歯科顎口腔外科 ④ 総合歯科診療部/口腔機能回復科 ⑤ 小児歯科/障がい者歯科/矯正歯科 ⑥ 口腔支持療法科/顎口腔画像診断科				各診療科・部授業担当者		
アドバイス		(1) 病院が病者のための場であることを理解すること。 (2) 清潔な白衣（上下）、白い靴を着用し、身だしなみに気をつけること。 (2) 医療者にふさわしい立ち居振る舞いを心がけること。 (3) 開始時間を厳守し、決して遅刻しないこと。 (4) 小児抗体検査を受診すること。抗体がない場合、少なくとも麻疹のワクチンを接種しない限り、受講を認めない。						
授業時間外学習		アーリー・エクスポージャー型授業は、スタディプログラム型のそれと異なり、内容が事前に設定されていないため、予習は不要である。学生は現場で、主体的に臨床の現実を感じ取るよう努めねばならない。また自己研鑽に向けた意欲や態度が歯科医師に求められる基本的資質の一つであることを意識し、現場で生じた疑問は、当日の質問や復習により自己解決することが望まれる。						
テキスト・教材・参考書等		清潔な白衣、白い靴を用意すること。デニム不可						
成績評価の方法		出席状況、課題等から総合的に判断する。						

授業科目		人体の構造		授業担当		畠山 雄次		
授業細目		解剖学総論・各論		責 任 者		口腔器官解剖学分野		
曜日一時限		火－3・4 水－3・4 金－3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター		講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号 DDE-DEN211J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：献体制度および人体の解剖学的構造を理解する。 概要：解剖実習の根幹である献体制度を理解し、解剖学用語、器官系の構成要素、および器官の構造を学修する。						
学習の到達 目標		一般目標：人体の構造と機能を系統解剖学的に理解する。 個別目標： ① 献体制度の概要について説明できる。 ② 人体における方向用語や部位の用語を説明できる。 ③ 骨・筋・脈管・神経・内臓の構成と解剖学的構造を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
	1～2	解剖学総論【A-3-1, 2, 3, A-3-2-1】					畠山 雄次	
	3～10	骨学・筋学【A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-2-2, A-3-2-8】					鈴木 敏彦 (歯科法医学情報学分野)	
	11～17	内臓学【A-3-1-6, A-3-1-7-1, -2, A-3-1-8-1, -2, A-3-1-9-1, A3-1-10-1, A-3-1-11-1, A-3-2-1, A-3-2-12, -13, -15, -16, A-3-3-1, -2, -3, -4, -7, -8】					畠山 雄次	
	18～29	神経学(脳実習を含む)【A-3-1-5-1, -2, -3, -4, A-3-2-6, -7】・脈管学【A-3-1-4-1, -2, -6, -7, A-3-2-5】					畠山 雄次	
	30	試験					教室員全員	
アドバイス		「人体の構造」の全てに共通する留意事項： ● 授業は実習を含み、シラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（講義初回に進行表を配布する）。 ● 解剖実習には講義および自己学習で学んだ知識を整理し、各自がおおよその三次元構造を再構築してから実習に臨むこと ● 解剖学実習で修得する知識は御献体より教授される。したがって医療従事者育成のために深い理解を示された御本人および御家族の皆様の期待に背いていてはならない。高い倫理観を持って実習に臨むこと。						
授業時間外学習		授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。また知識の整理のために毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等		参考書：グレイ解剖学原著第5版 エルセビアジャパン、伊藤 隆：解剖学講義 南山堂、浦良治：実習人体解剖図譜 南江堂、脇田稔ら：口腔解剖学第2版 医歯薬出版、松村譲児：イラスト口腔顔面解剖学 中外医学社、寺田春水、藤田恒夫：解剖実習の手びき改訂11版 南山堂						
成績評価の方法		試験(筆記・実習)および平常点(小テスト、出席、実習態度等)による。実習の出席が著しく不良の場合、試験の受験を認めない場合がある。筆記試験は複数回の中間試験が含まれる（講義初回に説明する）。再試験は1回限りとする。						

授業科目	人体の構造		授業担当	畠山 雄次			
授業細目	局所解剖（体幹・体肢）		責 任 者	口腔器官解剖学分野			
曜日一時限	火－３・４ 水－３・４ 金－３・４	対象年次 学期	２年次 ３セメスター	講義室名	B 1 講義室 B 1 実習室	科目番号	DDE-DEN211J
授業の目的 と概要	目標と目的：体幹・体肢の解剖学的構造を理解する。 概要：体幹・体肢を構成する骨・筋・関節・脈管・神経・内臓の構造を学修する。						
学習の到達 目標	一般目標：体肢と体幹を構成する運動器および臓器の構造と機能を理解する。 個別目標： ① 上肢の骨・筋・関節・脈管・神経の解剖学的構造を説明できる。 ② 下肢の骨・筋・関節・脈管・神経の解剖学的構造を説明できる。 ③ 胸部および腹部内臓の解剖学的構造と位置を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容			担 当 者		
	１～１６	上肢 【A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, -6, A-3-1-5-1】			畠山雄次 鈴木敏彦 教室員全員		
	１７～２６	胸部および腹部 【A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, -2, -6, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, -2, A-3-1-9-1, A-3-1-10-1, A-3-1-11-1】			畠山雄次 他 教室員全員		
	２７～４４	下肢および背部 【A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, -6, A-3-1-5-1】			畠山雄次 他 教室員全員		
	４５	試験			教室員全員		
アドバイス	「人体の構造」の全てに共通する留意事項： ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 解剖実習には講義および自己学習で学んだ知識を整理し、各自がおおよその三次元構造を再構築してから実習に臨むこと ● 解剖学実習で修得する知識は御献体より教授される。したがって医療従事者育成のために深い理解を示された御本人および御家族の皆様の期待に背いていてはならない。高い倫理観を持って実習に臨むこと。						
授業時間外学習	授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。また知識の整理のために毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	参考書：グレイ解剖学原著第５版 エルセビアジャパン、伊藤 隆：解剖学講義 南山堂、浦良治：実習人体解剖図譜 南江堂、脇田稔ら：口腔解剖学第２版 医歯薬出版、松村譲児：イラスト口腔顔面解剖学 中外医学社、寺田春水、藤田恒夫：解剖実習の手びき 改訂 11 版 南山堂						
成績評価の方法	試験（筆記・実習）および平常点（出席、実習態度等）による。実習の出席が著しく不良の場合、試験の受験を認めない場合がある。筆記試験は複数回の中間試験が含まれる（講義初回に説明する）。再試験は 1 回限りとする。						

授業科目		人体の構造		授業担当	畠山 雄次		
授業細目		局所解剖（頭部・頸部）		責 任 者	口腔器官解剖学分野		
曜日一時限	火－3・4 水－3・4 金－3・4	対象年次 学期	2 年次 3 セメスター	講義室名	B 1 講義室 B 1 実習室	科目番号	DDE-DEN211J
授業の目的 と概要		目標と目的：頭頸部の解剖学的構造を理解する。 概要：頭頸部を構成する骨・筋・関節・脈管・神経・内臓の構造を学修する。					
学習の到達 目標		一般目標：頭頸部の構造と機能を理解する。 個別目標： ① 頭頸部の骨・筋・脈管・神経の解剖学的構造を説明できる。 ② 頭部と頸部の筋膜隙を説明できる。 ③ 口腔の解剖学的構造を説明できる。 ④ 鼻腔と副鼻腔の解剖学的構造と交通、咽頭および喉頭の構造を説明できる。 ⑤ 平衡聴覚器・視覚器の解剖学的構造を説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～2	顔面浅層【A-3-2-1, -2, -3, -5, -6, -7, -8】				畠山雄次 他 教室員全員	
	3～6	顔面深層【A-3-2-1, -2, -3, -5, -6, -7, -8】				畠山雄次 他 教室員全員	
	7～10	口腔・鼻腔(副鼻腔)【A-3-1-8-1, A-3-2-16, A-3-3-1, -2, -3, -5, -7, -8】				畠山雄次 他 教室員全員	
	11～10	咽頭・喉頭【A-3-2-12, -13, -15】				畠山雄次 他 教室員全員	
	11～12	平衡聴覚器【A-3-1-6-1】				畠山雄次 他 教室員全員	
	13～14	視覚器【A-3-1-6-1】				畠山雄次 他 教室員全員	
	15	試験				教室員全員	
アドバイス		「人体の構造」の全てに共通する留意事項： ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 解剖実習には講義および自己学習で学んだ知識を整理し、各自がおおよその三次元構造を再構築してから実習に臨むこと ● 解剖学実習で修得する知識は御献体より教授される。したがって医療従事者育成のために深い理解を示された御本人および御家族の皆様の期待に背いていてはならない。高い倫理観を持って実習に臨むこと。					
授業時間外学習		授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。また知識の整理のために毎回の授業後の復習が必須である。					
テキスト・教材・参考書等		参考書：グレイ解剖学原著第 5 版 エルセビアジャパン、伊藤 隆：解剖学講義 南山堂、浦良治：実習人体解剖図譜 南江堂、脇田稔ら：口腔解剖学第 2 版 医歯薬出版、松村譲児：イラスト口腔顔面解剖学 中外医学社、寺田春水、藤田恒夫：解剖実習の手びき改訂 11 版 南山堂					
成績評価の方法		試験(筆記・実習)および平常点（出席、実習態度等）による。実習の出席が著しく不良の場合、試験の受験を認めない場合がある。筆記試験は複数回の中間試験が含まれる（講義初回に説明する）。再試験は 1 回限りとする。					

授業科目	歯のかたち			授業担当	畠山 雄次		
授業細目	演習（講義・実習）			責 任 者	口腔器官解剖学分野		
曜日一時限	水－3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号	DDE-DEN212J
授業の目的 と概要	目標と目的：歯科医療の基本となる、歯のかたち・歯列・咬合について理解する。 概要：個々の歯における構造の名称や肉眼的形態、歯列、および咬合と、それらにみられる変異を学修する。						
学習の到達 目標	一般目標：個々の歯の形態、歯列、および咬合について理解する。 個別目標： ① 歯の左右を識別する方法を説明できる。 ② 全ての歯について、個々の歯の形態的特徴を説明できる。 ③ 歯列弓の弯曲について説明できる。 ④ 上下顎の歯の基本的対咬関係を説明できる。 ⑤ 前歯部および臼歯部の咬合様式を分類できる。 ⑥ 接触点および隣在歯間の空隙について説明できる。 ⑦ 主な歯や歯列の変異形態について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	歯の鑑別の手順【A-3-4-2】				鈴木 敏彦 （歯科法医情報学分 野）	
	3・4	切歯【A-3-4-2】				畠山 雄次	
	5・6	犬歯【A-3-4-2】				畠山 雄次	
	7・8	小臼歯【A-3-4-2】				畠山 雄次	
	9～12	大臼歯【A-3-4-2】				鈴木 敏彦 （歯科法医情報学分 野）	
	13～16	乳歯【A-3-4-2】				畠山 雄次	
	17～20	歯列・咬合・歯の変異【A-3-3-5, A-3-4-2, -6】				鈴木 敏彦 （歯科法医情報学分 野）	
	21～30	鑑別実習【A-3-4-2】				教室員全員	
アドバイス	歯科医療に携わるものにとって、歯の形態的特徴に基づいて個々の歯を鑑別できることは基本中の基本である。確実な学修を望む。						
授業時間外学習	授業および実習に使用する資料は、授業日までに配布する。授業内容について参考書を用いて予習することがのぞましい。また歯牙形態の理解には3次元構造の理解が必要である。歯牙模型、歯列模型、3D画像などを利用すること。さらに歯に関する解剖用語の理解が必須であることから毎回授業後に復習すること。						
テキスト・教材・ 参考書等	参考書：藤田恒太郎:歯の解剖学 第22版 金原出版						
成績評価の方法	筆記試験、実習試験、および平常点（出席、実習態度等）による。筆記試験、および実習試験には中間試験が含まれる。再試験は1回限りとする。						

授業科目		人体の発生		授業担当 責 任 者	細矢 明宏 顎口腔組織発生学分野			
授業細目		講義						
曜日一時限	金-1, 2	対象年次 学期	3 セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN213J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：人体の形成過程と先天異常の成り立ちを理解する。 概要：配偶子である卵子と精子の発生、受精から出生までのヒトの個体発生、先天異常の発生機序、再生医療で用いられる幹細胞について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：人体の構造の形成過程と先天異常の成り立ちを理解する。 個別目標： ① 配偶子（精子・卵子）形成について説明できる。 ② ヒトの個体発生を概説できる。 ③ 代表的な先天異常の成因や特徴を説明できる。 ④ 幹細胞の種類や特性について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1	発生学概要 【A-2-1-1】				細矢 明宏		
	2	配偶子形成 【A-2-1】				細矢 明宏		
	3、4	二層性胚盤と三層性胚盤 【A-2-1-1】				細矢 明宏		
	5	神経堤 【A-2-1-1】				細矢 明宏		
	6、7	鰓弓 【A-2-1-2】				細矢 明宏		
	8、9	骨格と筋の形成 【A-2-1-3】				細矢 明宏		
	10、11	循環器系、呼吸器系、消化器系の形成 【A-2-1-4】				細矢 明宏		
	12、13	泌尿生殖器系、内分泌系、神経系の形成 【A-2-1-4】				細矢 明宏		
	14	幹細胞 【A-2-1-5】				細矢 明宏		
	15	先天異常 【A-2-1-6】【A-2-1-7】				細矢 明宏		
アドバイス		● 本科目の理解には「人体の細胞と組織（総論）」で習得する知識が必要である。授業に際し、十分に復習しておくこと。 ● 不明な点は教員に積極的に質問すること。						
授業時間外学習		● テキストを読み、予習・復習する。 ● 「人体の細胞と組織（総論）」を復習する。						
テキスト・教材・参考書等		● 「口腔組織・発生学 第3版」前田健康 ほか 編（医歯薬出版） ● 「ラングマン人体発生学第12版」安田峯生 ほか（メディカルサイエンスインターナショナル）						
成績評価の方法		筆記試験に加え、小テスト、出席から総合的に評価する。再試験は1回のみとする。2/3以上の出席を「人体の発生」の単位取得要件とする。						

授業科目		人体の細胞と組織		授業担当		細矢 明宏	
授業細目		A. 講義（総論・各論）		責 任 者		顎口腔組織発生学分野	
曜日一時限		金-1,2 火-1,2 金-3,4	対象年次 学期	3セメスター 4セメスター	講義室名	B 1 講義室 B 2 講義室	科目番号 DDE-DEN214J
授 業 の 目 標 並 び に 目 的 と 概 要		目標と目的：人体を構成する細胞および組織の形態と機能を理解する。 概要：総論では人体の基本単位である細胞と組織について、各論では細胞と組織がどのように器官を構成し、人体を構築するのかについて学ぶ。					
学 習 の 到 達 目 標		一般目標：人体を構成する細胞および組織の形態と機能を理解する。 個別目標： ① 細胞、組織、器官の関係を理解する。 ② 各器官を構成する細胞と組織の形態と機能が説明できる。 ③ 各器官に特徴的な構造について説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～3	（総論）細胞 【A-1-4-1】 【A-1-4-4】 【A-1-4-5】				細矢 明宏	
	4、5	（総論）上皮組織 【A-3-1-1-1】 【A-3-1-1-3】				細矢 明宏	
	6	（総論）結合組織 【A-3-1-2-2】				細矢 明宏	
	7～9	（総論）軟骨・骨 【A-3-1-2-3】 【A-3-1-2-4】 【A-3-1-2-5】				細矢 明宏	
	10	（総論）筋組織 【A-3-1-3-1】 【A-3-1-3-2】				細矢 明宏	
	11	（総論）神経組織 【A-3-1-5-6】				細矢 明宏	
	12	（各論）脈管系 【A-3-1-4-1】 【A-3-1-4-3】				細矢 明宏	
	13	（各論）血液・骨髄 【A-3-1-4-5】 【A-3-1-4-7】				細矢 明宏	
	14	（各論）リンパ組織 【A-3-1-4-6】				細矢 明宏	
	15～17	（各論）消化器系 【A-3-1-7-1】 【A-3-1-7-2】				細矢 明宏	
	18	（各論）呼吸器系 【A-3-1-8-1】 【A-3-1-8-2】				細矢 明宏	
	19	（各論）泌尿器系 【A-3-1-10-1】				細矢 明宏	
	20、21	（各論）生殖器系 【A-3-1-11-1】				細矢 明宏	
	22	（各論）内分泌系 【A-3-1-9-1】				細矢 明宏	
	23	（各論）皮膚 【A-3-1-1-2】				細矢 明宏	
	24	（各論）感覚器系 【A-3-1-6-1】				細矢 明宏	
アドバイス		● 本科目の理解には全身解剖学の知識が必要である。授業科目「人体の構造」をしっかり勉強すること。 ● 「人体の細胞と組織（実習）」と関連させながら学習すること。 ● 「入門組織学 改訂第2版」は組織学のエッセンスが平易な言葉で説明されているので理解し易く、テキストとしてお薦めする。 ● 不明な点は教員に積極的に質問すること。					
授業時間外学習		テキストを読み、予習・復習する。					
テキスト・教材・参考書等		● 「入門組織学 改訂第2版」牛木辰男（南江堂） ● 「組織学 改訂20版」阿部和厚・牛木辰男（南山堂） ● 「標準組織学：総論・各論 第6版」岩永敏彦 ほか（医学書院）					
成績評価の方法		筆記試験に加え、小テスト、出席から総合的に評価する。再試験は1回のみとする。 2/3以上の出席を「人体の細胞と組織」の単位取得要件とし、講義と実習の両方の合格をもって「人体の細胞と組織」の単位取得を認める。					

授業科目		人体の細胞と組織		授業担当 責 任 者		細矢 明宏 顎口腔組織発生学分野	
授業細目		B. 実習					
曜日一時限	金-1,2 火-1,2 金-3,4	対象年次 学期	3セメスター 4セメスター	講義室名	B 2 実習室	科目番号	DDE-DEN214J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：組織標本から得られる、各器官を構成する細胞と組織の形態学的特徴を理解する。 概要：組織標本を観察し、各器官を構成する細胞と組織の形態学的特徴を学ぶ。また組織像をスケッチすること で、細胞や組織の特徴を捉えて所見をまとめる能力を養う。						
学習の到達 目標	一般目標：組織標本から得られる、各器官を構成する細胞と組織の形態学的特徴を理解する。 個別目標： ① 光学顕微鏡による組織標本の観察法を習得する。 ② 各器官を構成する細胞と組織の形態的特徴を顕微鏡レベルで説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～4	（総論）上皮組織 【A-3-1-1-1】 【A-3-1-1-3】				細矢 明宏 Han Yu	
	5	（総論）結合組織 【A-3-1-2-2】				細矢 明宏 Han Yu	
	6	（総論）軟骨組織 【A-3-1-2-3】				細矢 明宏 Han Yu	
	7、8	（総論）骨組織 【A-3-1-2-3】 【A-3-1-2-4】				細矢 明宏 Han Yu	
	9	（総論）筋組織 【A-3-1-3-1】 【A-3-1-3-2】				細矢 明宏 Han Yu	
	10	（総論）神経組織 【A-3-1-5-6】				細矢 明宏 Han Yu	
	11	（各論）脈管系 【A-3-1-4-3】				細矢 明宏 Han Yu	
	12	（各論）血液・骨髄【A-3-1-4-5】 【A-3-1-4-7】				細矢 明宏 Han Yu	
	13	（各論）リンパ組織【A-3-1-4-6】				細矢 明宏 Han Yu	
	14、15	（各論）消化器系 【A-3-1-7-1】 【A-3-1-7-2】				細矢 明宏 Han Yu	
	16	（各論）呼吸器系 【A-3-1-8-1】 【A-3-1-8-2】				細矢 明宏 Han Yu	
	17	（各論）泌尿器系 【A-3-1-10-1】				細矢 明宏 Han Yu	
	18	（各論）生殖器系 【A-3-1-11-1】				細矢 明宏 Han Yu	
	19	（各論）内分泌系 【A-3-1-9-1】				細矢 明宏 Han Yu	
	20	（各論）皮膚 【A-3-1-1-2】				細矢 明宏 Han Yu	
	21	（各論）感覚器系 【A-3-1-6-1】				細矢 明宏 Han Yu	
アドバイス		● 「人体の細胞と組織（講義）」と関連させながら学習すること。 ● 該当する講義で使用した教科書、講義ノート、配布プリントを持参すること。 ● 不明な点は教員に積極的に質問すること。					
授業時間外学習		● 対応する講義内容について予習・復習する。 ● 実習時にスケッチした組織像をテキストやアトラスで確認し、復習する。					
テキスト・教材・ 参考書等		● 「入門組織学 改訂第2版」牛木辰男（南江堂） ● 「An Atlas of Histology」Shu-Xin Zhang（Springer）					
成績評価の方法		筆記試験に加え、小テスト、出席から総合的に評価する。再試験は1回のみとする。2/3以上の出席を 「人体の細胞と組織」の単位取得要件とし、講義と実習の両方の合格をもって「人体の細胞と組織」の 単位取得を認める。					

授業科目	口腔の細胞組織と発生			細矢 明宏 顎口腔組織発生学分野			
授業細目	A. 講義			責任者			
曜日一時限	火-1, 2 金-3, 4	対象年次 学期	4 セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN215J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：口腔を構成する細胞・組織の形態と機能および口腔諸器官の発生過程を学ぶことにより、人体における口腔の細胞・組織の特徴を理解する。 概要：口腔を構成する細胞・組織の形態と機能および口腔諸器官の発生過程を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔を構成する細胞・組織の形態と機能および口腔諸器官の発生過程を学ぶことにより、人体における口腔の細胞・組織の特徴を理解する。 個別目標： ① 口腔の細胞と組織の形態と機能を説明できる。 ② 口腔の組織や器官の発生過程を説明できる。 ③ 口腔諸器官に特徴的な構造を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1、2	エナメル質 【A-3-4-4】					細矢 明宏
	3、4	象牙質 【A-3-4-4】					細矢 明宏
	5	歯髄 【A-3-4-5】					細矢 明宏
	6	セメント質 【A-3-4-7】					細矢 明宏
	7	歯根膜 【A-3-4-7】					細矢 明宏
	8	歯槽骨 【A-3-4-7】					細矢 明宏
	9	歯肉 【A-3-4-7】					細矢 明宏
	10	顎関節 【A-3-2-8】					細矢 明宏
	11	口腔粘膜 【A-3-3-2】					細矢 明宏
	12	唾液腺 【A-3-3-7】					細矢 明宏
	13	顎顔面の発生 【A-2-4-1】 【A-2-4-2】 【A-2-4-3】 【A-2-4-4】					細矢 明宏
	14	歯の発生 【A-2-4-1】 【A-2-4-8】 【A-3-4-1】					細矢 明宏
	15	歯周組織の発生 【A-2-4-1】 【A-2-4-8】					細矢 明宏
アドバイス		● 本科目の理解には「人体の細胞と組織（総論）」で習得する知識が必要である。授業に際し、十分に復習しておくこと。 ● 「口腔の細胞組織と発生（実習）」と関連させながら学習すること。 ● 不明な点は教員に積極的に質問すること。					
授業時間外学習		● テキストを読み、予習・復習する。 ● 「人体の細胞と組織（総論）」を復習する。					
テキスト・教材・参考書等		● 「口腔組織・発生学 第3版」前田健康 ほか 編（医歯薬出版）					
成績評価の方法		筆記試験に加え、小テスト、出席から総合的に評価する。再試験は1回のみとする。 2/3 以上の出席を「口腔の細胞組織と発生」の単位取得要件とし、講義と実習の両方の合格をもって、「口腔の細胞組織と発生」の単位取得を認める。					

授業科目		口腔の細胞組織と発生		授業担当 責 任 者	細矢 明宏 顎口腔組織発生学分野		
授業細目		B. 実習					
曜日一時限	火-1, 2 金-3, 4	対象年次 学期	4 セメスター	講義室名	B 2 実習室	科目番号	DDE-DEN215J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：組織標本から得られる、口腔を構成する細胞と組織の形態学的特徴を理解する。 概要：光学顕微鏡を用いて組織標本を観察し、口腔諸器官を構成する細胞と組織の形態学的特徴を学ぶ。また顕微鏡像をスケッチすることで、細胞や組織の特徴を捉えて所見をまとめる能力を養う。						
学習の到達 目標	一般目標：組織標本から得られる、口腔を構成する細胞と組織の形態学的特徴を理解する。 個別目標： ① 口腔諸器官を構成する細胞と組織の形態的特徴を顕微鏡レベルで説明できる。 ② 口腔の組織や器官の発生ステージを顕微鏡像で判断できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1、2	エナメル質 【A-3-4-4】					細矢 明宏 Han Yu
	3、4	象牙質 【A-3-4-4】					細矢 明宏 Han Yu
	5	歯髄 【A-3-4-5】					細矢 明宏 Han Yu
	6	セメント質 【A-3-4-7】					細矢 明宏 Han Yu
	7	歯根膜 【A-3-4-7】					細矢 明宏 Han Yu
	8	歯槽骨 【A-3-4-7】					細矢 明宏 Han Yu
	9	歯肉 【A-3-4-7】					細矢 明宏 Han Yu
	10	顎関節 【A-3-2-8】					細矢 明宏 Han Yu
	11	口腔粘膜 【A-3-3-2】					細矢 明宏 Han Yu
	12	唾液腺 【A-3-3-7】					細矢 明宏 Han Yu
	13	顎顔面の発生 【A-2-4-1】【A-2-4-2】【A-2-4-3】					細矢 明宏 Han Yu
	14	歯の発生 【A-2-4-1】					細矢 明宏 Han Yu
	15	歯周組織の発生【A-2-4-1】					細矢 明宏 Han Yu
アドバイス		● 「口腔の細胞組織と発生（講義）」と関連させながら学習すること。 ● 該当する講義で使用した教科書、講義ノート、配布プリントを持参すること。 ● 不明な点は教員に積極的に質問すること。					
授業時間外学習		● 対応する講義内容について予習・復習する。 ● 実習時にスケッチした組織像をテキストやアトラスで確認し、復習する。					
テキスト・教材・ 参考書等		● 「口腔組織・発生学 第3版」前田健康 ほか 編（医歯薬出版）					
成績評価の方法		筆記試験に加え、小テスト、出席から総合的に評価する。再試験は1回のみとする。 2/3 以上の出席を「口腔の細胞組織と発生」の単位取得要件とし、講義と実習の両方の合格をもって、「口腔の細胞組織と発生」の単位取得を認める。					

授業科目		生体分子の科学Ⅰ (生体分子の構造と機能)		授業担当 責 任 者	鷲 尾 純 平 口腔生化学分野			
授業細目		生体構成分子の 構造と機能						
曜日－時限		水－１・２	対象年次 学期	２年次 ３セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要		ヒトをはじめ、生物の身体を形作り存在ならしめる「生体構成分子」である核酸、タンパク質、糖質、脂質の構造を分子レベルで学び、分子構造から生体構成成分の機能を理解することを目指す。なお、核酸の分子構造とその機能については授業細目「遺伝情報の発現と制御」で学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：生命を構成する基本物質について理解する。 個別目標： ① アミノ酸とタンパク質の構造および機能について説明できる。 ② 糖質の構造および機能について説明できる。 ③ 脂質の構造および機能について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		生化学序論：歴史と概要 【 A-1-1-1, A-1-1-2, A-1-1-3 】 【 H28: C-1-1), C-2-1】				鷲尾純平	
	2		タンパク質の構造 【 A-1-2-1 】 【 H28: C-2-1)】				鷲尾純平	
	3		タンパク質の機能 【 A-1-2-1, A-1-2-5 】 【 H28: C-2-1)】				鷲尾純平	
	4		糖質の構造 【 A-1-2-2 】 【 H28: C-2-1)】				安彦友希	
	5		糖質の機能 【 A-1-2-2 】 【 H28: C-2-1)】				安彦友希	
	6		脂質の構造 【 A-1-2-3 】 【 H28: C-2-1)】				鷲尾純平	
アドバイス			●具体的な授業日程については授業初回に周知する。 ●本授業内容の理解には、基本的な物理、化学、生物学の修得を必要とする。一見複雑な生体構成分子も、生体においては理にかなった構造をとっており、優れた機能を発揮している事実を理解したい。					
授業時間外学習			「一般医化学」「ビジュアル生化学・分子生物学」の該当箇所の通読を勧める。					
テキスト・教材・参考書等			テキスト：一般医化学（南山堂）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本医事新報社） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法			筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）					

授業科目	生体分子の科学Ⅰ (生体分子の構造と機能)			授業担当	鷲 尾 純 平		
授業細目	物質代謝			責 任 者	口腔生化学分野		
曜日・時限	水１・２	対象年次 学期	２年次 ３セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	ヒトをはじめ生物は生存に必要なエネルギーを「化学反応」によって得ている。この一連の化学反応を「物質代謝」あるいは「代謝」といい、代謝反応は「酵素」によって制御される。本授業では、エネルギー産生の仕組みと、主要なエネルギー産生基質である糖質と脂質の代謝過程、さらに、多様なアミノ酸代謝過程を理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：生命を構成する基本物質について理解する。 個別目標： ① 生体内におけるエネルギー利用について説明できる。 ② アミノ酸とタンパク質の代謝について説明できる。 ③ 糖質の代謝について説明できる。 ④ 脂質の代謝について説明できる。 ⑤ 酵素の機能と主な代謝異常について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	１・２	生体エネルギー論 【 A-1-1-1, A-1-1-2, A-1-1-3 】 【 H28: C-1-1)】					鷲尾純平
	３・４	酵素と酵素反応論 【 A-1-2-5 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					鷲尾純平
	５・６	糖代謝経路 【 A-1-2-2 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					安彦友希
	７・８	電子伝達系と酸化的リン酸化 【 A-1-2-4 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					安彦友希
	９・１０	脂質の代謝分解と合成および糖質代謝との相関 【 A-1-2-3 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					安彦友希
	１１・１２	タンパク質代謝と代謝回転 【 A-1-2-1 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					安彦友希
	１３・１４	アミノ酸の代謝分解と合成および代謝疾患 【 A-1-2-8 】 【 H28: C-1-1), C-2-1)】					安彦友希
アドバイス	本授業の理解には、基本的な物理、化学の知識を必要とする。一見複雑な代謝反応も物理、化学の原則に沿った巧妙な化学反応からなっており、生物とは効率の高いエネルギー機関であることを理解したい。						
授業時間外学習	「一般医化学」「ビジュアル生化学・分子生物学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本医事新報社） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）						

授業科目	生体分子の科学 I (生体分子の構造と機能)			授業担当	鷲 尾 純 平		
授業細目	遺伝情報の発現 と制御			責 任 者	口腔生化学分野		
曜日一時限	水 1・2	対象年次 学期	2 年次 3 セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	生物の特徴は、「物質・エネルギーの流れ」と「情報の流れ」を持つことである。情報の流れの中心となるものは遺伝子であり、その本態は「核酸（DNA）」である。本授業では、ゲノム（染色体）や核酸の構造、さらに、その複製、転写、翻訳といった一連の遺伝情報が読みとられ発現する過程を理解することを目指す。さらに、近年長足の進歩が見られる遺伝子工学、遺伝子診断、遺伝子治療の基礎を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：遺伝子と遺伝について理解する。 個別目標： ① ゲノム（染色体）の構造とセントラルドグマについて説明できる。 ② DNAの複製と修復の機序について説明できる。 ③ 転写と転写調節の機序について説明できる。 ④ 翻訳の機序について説明できる。 ⑤ 遺伝性疾患の発生の機序について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1	核酸の構造、合成と分解 【 A-1-3-2, A-1-4-1 】 【 H28: C-2-2), C-2-3) 】					鷲尾純平
	2	DNAの複製と修復 【 A-1-3-3 】 【 H28: C-2-2) 】					鷲尾純平
	3・4	RNAの合成（原核細胞と真核細胞の転写） 【 A-1-3-3 】 【 H28: C-2-2) 】					鷲尾純平
	5	タンパク質の合成（翻訳） 【 A-1-3-3 】 【 H28: C-2-1), C-2-2) 】					鷲尾純平
	6	タンパク質の修飾と分泌 【 A-1-3-3 】 【 H28: C-2-1), C-2-2) 】					鷲尾純平
アドバイス		現代の最先端生命科学の 1 領域である遺伝子も、これまで学んできた生化学の知識から十分理解することが可能である。しかし、その理解には論理的思考力や洞察力が求められる。					
授業時間外学習		「一般医化学」「ビジュアル生化学・分子生物学」の該当箇所の通読を勧める。					
テキスト・教材・参考書等		テキスト：一般医化学（南山堂）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本医事新報社） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法		筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）					

授業科目	生体分子の科学Ⅰ (生体分子の構造と機能)			授業担当	鷲 尾 純 平		
授業細目	栄養生化学			責 任 者	口腔生化学分野		
曜日一時限	水１・２	対象年次 学期	２年次 ３セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	ヒト体内で生じる物質代謝を健康科学から見れば、栄養学となる。私たちヒトは、「栄養」として口から物質を取り込み、そこからエネルギーと必要な物質を得ている。本授業では、三大栄養素とビタミン・ミネラルの役割を栄養生化学的に理解し、さらに口腔の健康に関わる食物について理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：三大栄養素とビタミン・ミネラルの役割を栄養生化学的に理解する。 個別目標： ① 生体内におけるエネルギー利用について説明できる。 ② 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状について列挙できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１－４	栄養学の基礎（生体内におけるエネルギーの利用、三大栄養素、ビタミン、ミネラル） 【A-1-2-6, A-1-2-8, A-1-2-9】 【H28: C-2-1)】				安彦友希	
	５	ビタミンの生化学 【A-1-2-6】 【H28: C-2-1)】				安彦友希	
アドバイス	日常何気なく使っている「栄養」という言葉の意味を理解するためには、これまでに学んできた生化学の知識とその考え方が不可欠である。 口は栄養の入り口であり、将来、臨床に関わるものの常識として栄養学を確実に修めて欲しい。さらに、食事と口腔疾患との関わりについて理解を深めて欲しい。						
授業時間外学習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、 ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）、						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ （口腔エコシステムの科学）			授業担当	鷲 尾 純 平		
授業細目	情報伝達の分子機構			責 任 者	口腔生化学分野		
曜日一時限	月—1 火—3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	生物は、遺伝子という時空を越えた情報伝達に加え、短期間の情報伝達である細胞内、細胞間、そして組織・臓器間の情報伝達によって統合されている。本授業では、その機構と特徴を分子レベルで理解し、それが身体の分化・発育、外的刺激に対する恒常性維持等の多くの生命現象と関連していることを理解する。さらに、情報伝達の異常がその原因のひとつとなるがんについて理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：細胞のコミュニケーションについて理解する。 個別目標：受容体を介するホルモン、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	情報伝達の基本システム 【 A-1-5-1, A-1-5-2 】 【 H28: C-2-4), C-3-4) 】				鷲尾純平	
	2	各種ホルモンの情報伝達システム 【 A-1-5-2, A-3-1-9-1, A-3-1-9-2, A-3-1-9-3 】 【 H28: C-2-4), C-3-4) 】				鷲尾純平	
	3	アポトーシスとサイトカインネットワーク 【 A-1-4-4, A-1-4-5, A-1-5-2 】 【 H28: C-2-3), C-2-4) 】				鷲尾純平	
	4・5	がんの生化学 【 A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-3, A-5-6-4, A-5-6-5 】 【 H28: C-2-3), C-5-6) 】				本橋ほづみ （加齢医学研究所）	
アドバイス	●具体的な授業日程については授業初回に周知する。 ●現在進展が著しい生化学の一領域である情報伝達機構も、これまで学んできた生化学の知識で理解することが可能である。しかし、情報伝達の統合的理解には組織・臓器に関する「解剖学」「組織学」「生理学」との知識の統合が必要である。						
授業時間外学習	「一般医化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	鷺 尾 純 平			
授業細目	口腔構成分子の 構造と機能		責 任 者	口腔生化学分野			
曜日一時限	月—1 火—3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	本授業では、顎顔面口腔領域を形作る諸器官・組織の構造と機能を分子レベルで理解することを目的とする。とくに歯学の対象となる歯などの硬組織、歯周組織、口腔粘膜、顎骨・筋、唾液等を生化学的に学ぶことを通して、歯学学問領域の重要性とその特徴を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔構成分子の構造と機能について理解する。 個別目標： ① 血液循環について説明できる。 ② 赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能について説明できる。 ③ 腎臓と尿路の構造と機能について説明できる。 ④ 唾液の性状と役割について説明できる。 ⑤ 骨格筋の構造と機能について説明できる。 ⑥ 結合組織の線維要素と細胞要素について説明できる。 ⑦ 炎症に関与する細胞の種類と機能について説明できる。 ⑧ 硬組織石灰化の基本的機序について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1－3	全身と口腔組織の血液循環、血液成分、老廃物処理機構 【A-1-2-7, A-3-1-4-2, A-3-1-4-4, A-3-1-4-5, A-3-1-4-8, A-3-1-8, A-3-1-10, A-5-4-2, A-5-4-3, A-5-4-5】 【H28: C-3-4】					鷺尾純平
	4	唾液 【A-3-3-6, A-3-3-7】 【H28: C-3-4), E-2-2)】					鷺尾純平
	5	筋と神経 【A-3-1-3-2】 【H28: C-3-4)】					鷺尾純平
	6	結合組織と歯周組織 【A-1-5-3, A-1-5-4, A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-4-7】 【H28: C-3-4)】					鷺尾純平
	7	結合組織の代謝動態 【A-3-4-7】 【H28: C-3-4)】					鷺尾純平
	8	炎症反応 【A-5-5-1, A-5-5-2, A-5-5-5】 【H28: C-5-5)】					鷺尾純平
	9・10	歯と硬組織 【A-3-1-2-4, A-3-1-2-5, A-3-4-4】 【H28: C-3-4)】					安彦友希
	11・12	硬組織の代謝 【A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5, A-3-4-4】 【H28: C-3-4)】					安彦友希
アドバイス		口腔の生化学を学ぶためには、これまでに学習した生化学一般の理解に加え、解剖学、組織学、生理学等、基礎系科目全般にわたる科目の理解が必要となる。これら基礎系科目で学習した内容の統合的理解によって、はじめて口腔を含めた生命体の理解が可能となる。					
授業時間外学習		「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。					
テキスト・教材・参考書等		テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、 ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法		筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）					

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当 責 任 者	鷲 尾 純 平 口腔生化学分野			
授業細目	口腔エコシステムと 口腔の健康と疾患						
曜日－時限	月－1 火－3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科医療で頻繁に遭遇する疾患、う蝕と歯周病は、口腔全体を生態系として捉えることで理解が容易になる。本授業では、口腔全体をホスト（歯、粘膜、唾液等）とパラサイト（口腔共生微生物叢：口腔マイクロバイーム）からなる1つのエコシステム（生態系）として捉え、口腔の健康とともに、上記口腔疾患や口腔関連疾患の発症機序を理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔エコシステムと口腔の健康と疾患について理解する。 個別目標： ① 口腔エコシステムについて説明できる。 ② 歯の硬組織の疾患、歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態について説明できる。 ③ 歯周疾患の病因と病態について説明できる。 ④ 他の口腔関連疾患について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔エコシステムと口腔周囲器官 【 D-3-2-1, D-3-2-2, D-3-2-3, D-3-2-4 】 【 H28: E-3-1), E-3-2), E-3-3)】				安彦友希	
	2－4	う蝕 【 D-3-2-1 】 【 H28: E-3-2)】				安彦友希	
	5・6	歯周病 【 D-5-1-1, D-5-1-2, D-5-1-3, D-5-1-5, D-5-1-6】 【 H28: E-3-2)】				鷲尾純平	
	7・8	その他の口腔関連疾患（口臭症、顎顔面口腔領域感染症など） 【 D-3-2-4 , D-5-2-2-1, D-5-2-3-1】 【 H28: E-2-4), E-3-2)】				鷲尾純平	
アドバイス	口腔を1つのエコシステム（生態系）として捉える考え方は新しく、今後の歯学の方向の1つと思われる。とりわけそのエコシステムの構成メンバーである莫大な数のパラサイト（口腔共生微生物叢：マイクロバイーム）は、私たちホストと巧妙なバランスをとりながら共存しており、その理解は口腔のみならず全身の健康を考える上で重要である。						
授業時間外学習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、 ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)			授業担当 責 任 者	鷲 尾 純 平 口腔生化学分野		
授業細目	生化学実習						
曜日一時限	月—1 火—3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3 講義室 A3 実習室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	本実習は、生化学・分子生物学実験法の原理・手技を理解し、実践することを通して、実験科学の基礎を学ぶことを目標とする。さらに、得られた実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表する力を修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：生化学・分子生物学実験法の原理・手技について理解する。 個別目標： ①生化学・分子生物学実験法の原理・手技について説明できる。 ②実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表することができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1	実習概論：生化学的研究の基礎理論 【 C-2-1, C-2-3, C-2-4 】 【 H28: A-2-1)】					安彦友希 他
	2・3	生化学実習機器概論：生化学実験機器の基礎原理 【 C-2-4 】 【 H28: A-2-1)】					安彦友希 他
	4・5	生化学実習Ⅰ：生体分子の分離定量法 (比色法と分光スペクトラム) 【 C-2-5, C-2-7 】 【 H28: A-2-1)】					安彦友希 他
	6・7	生化学実習Ⅱ：生体分子の機能 (タンパク質の酵素機能) 【 A-1-2-5 】 【 H28: C-2-1)】					安彦友希 他
	8・9	遺伝子工学・遺伝子診断・遺伝子治療 【 A-1-3-1, A-1-3-4, A-1-3-5 】 【 H28: C-2-2), C-2-3)】 (講義形式)					佐藤拓一 (新潟大学)
	10・11	生化学実習Ⅲ：分子生物学(核酸抽出とPCR) 【 A-1-3-5, A-1-3-6 】 【 H28: C-2-2)】					鷲尾純平 他
アドバイス	●実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。 ●オンライン型学習を併用予定。能動的な学びの習慣を身に着けてほしい。						
授業時間外学習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。 配信する動画教材の視聴などを通じ、レポートを作成。						
テキスト・教材・ 参考書等	テキスト：実習書 参考書：一般医化学(南山堂)、口腔生化学(医歯薬出版)、 ビジュアル生化学・分子生物学(日本醫事新報社)、 ヴォート生化学(東京化学同人)、ハーバー生化学(丸善)						
成績評価の方法	筆記試験(講義への出席率を加味する場合がある。)						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)			授業担当 責任者	鷲 尾 純 平 口腔生化学分野		
授業細目	口腔生化学実習						
曜日－時 限	月－1 火－3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3 講義室 A3 実習室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目 標並びに 目的と概 要	本実習は、生化学実習での修得内容を応用し、口腔生化学、とりわけう蝕や歯周病といった口腔疾患に関する実習を行うことを通して、歯学研究の一端を体験し理解することを目標とする。						
学 習 の 到 達 目 標	一般目標：口腔生化学に関する実験法の原理・手技について理解する。 個別目標： ①口腔生化学に関する実験法の原理・手技について説明できる。 ②実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表することができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	口腔生化学実習Ⅰ：歯質脱灰試験と無機質分析 【D-3-2-1】【H28:E-3-2)】				安彦友希 他	
	3・4	口腔生化学実習Ⅱ：デンタルプラークの酸産生能 【D-3-2-1, D-3-2-4】【H28:E-3-2)】				安彦友希 他	
	5・6	口腔生化学実習Ⅲ：唾液の機能 (緩衝能と酵素活性) 【A-3-3-6, A-3-3-7】【H28: C-2-1), C-3-4)】				安彦友希 他	
アドバイス		●実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。 ●オンライン型学習を併用予定。能動的な学びの習慣を身に付けてほしい。					
授業時間外学習		「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。 配信する動画教材の視聴などを通じ、レポートを作成。					
テキスト・教材・参考書等		テキスト：実習書 参考書：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、 ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、 ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）					
成績評価の方法		筆記試験（講義への出席率を加味する場合がある。）					

授業科目		生体の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目		生理学の基礎		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日一時限		月－３・４	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：生理学という学問を概観し、その基礎となる一般的な分子生物学的・細胞生物学的知識、人体の老化を習得する。 概要：「生理学とはどういう学問か」、ホメオスタシス、成長と機能的発達、老化、細胞が共通して持っている機能について解説する。						
学習の到達 目標		一般目標：生理学における総論的内容を理解する。 個別目標： ① 生理学という学問がどういう学問か、その特徴を説明できる。 ② ホメオスタシスを説明できる。 ③ 人体の成長、機能的発達を説明できる。 ④ 老化、寿命、老化に伴う細胞・組織の機能的変化を説明できる。 ⑤ 細胞内小器官の働きや細胞膜の一般的性質を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1	生理学総論、生体の恒常性、人体の成長と老化【A-2-2-1, A-2-3-1, A-2-3-2, A-3-1-9-3】				安藤 恵子		
	2	細胞内小器官の機能、細胞周期【A-1-4-1, A-1-4-2, A-1-4-3, A-1-4-4】				安藤 恵子		
	3	遺伝子発現、エネルギー代謝【A-1-3-1, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-2-1, A-1-2-2, A-1-2-3】				安藤 恵子		
アドバイス		「生体の機能」の全てに共通する留意事項 ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 生理学は、生命が維持される“しくみ”の理解を目指す学問であり、分子レベルから器官レベル、さらには個体レベルの行動発現に至る、多岐にわたる内容を含んでいる。発生、解剖学や生化学の知識も必要となる。高校理科３科目、すなわち、物理、化学、生物の全てが関係する分野でもある。必要に応じて、高校理科の教科書、参考書に遡って予習、復習すると、一見遠回りな様でかえって学習効率が向上する場合もある。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(細胞の構造とはたらき、生命活動とエネルギーなど)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は6割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は1回のみ行う。)						

授業科目		生体の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		体液と血液の生理学						
曜日・時限		月－3・4	対象年次 学期	2 年次 4 セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：植物機能の基礎となる体液、血液のはたらきについて理解させる。 概要：体液、血液の構成要素(成分)のはたらきについて解説する。						
学習の到達 目標		一般目標：体液や血液の機能を理解する。 個別目標： ① 体液、血液の構成要素(成分)と、その役割について説明できる。 ② 体液、血液のイオン組成について説明できる。 ③ 造血器官と造血機構を説明できる。 ④ 止血および線溶の過程や血液型について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1		体液(細胞外液と細胞内液)【A-1-4-3, A-3-1-10-2, A-3-1-10-3, A-1-4-3, A-3-1-4-5, A-3-1-4-7】			工藤 忠明		
	2		血液、血液型【A-2-1-5, A-3-1-4-5, A-4-2-1, A-4-2-2】			工藤 忠明		
	3		リンパ液、脳脊髄液【A-3-1-4-6】			工藤 忠明		
	4		血小板・凝固系、線溶系【A-3-1-4-8】			工藤 忠明		
アドバイス		● 本細目は生体内部の恒常性の維持(ホメオスタシス)を考える上で重要である。循環、呼吸、尿生成、消化などの植物機能を学習する際の基礎となる。 ● 血液は、“流動性のある器官”と考えるべきものであり、多様な細胞や物質が含まれて循環している。体液の恒常性維持に、血液は必須の役割を担う。 ● 傷口からの出血を防ぐための小血管の閉鎖にも血液の機能が必要となる。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物体内の輸送系など)が挙げられる。						
テキスト・教材・ 参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)						

授業科目		生体の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		循環生理学						
曜日・時限		月－３・４	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：循環機能における心臓と血管の役割について理解させる。 概要：心臓、血管系の構造を確認した後、それぞれの機能、メカニズムについて解説する。						
学習の到達 目標		一般目標：循環機能における心臓と血管の役割、動作機序を理解する。 個別目標： ① 心臓のポンプ作用を構造に基づいて説明できる。 ② 心臓の自動能と興奮伝導系について説明できる。 ③ 心筋活動電位の発生機序(分子機構)の特徴を説明できる。 ④ 心電図の基本原則、心電図波形について説明できる。 ⑤ 血圧を決める因子、血圧調節のしくみについて説明できる。 ⑥ 循環調節に関与する神経系、ホルモンについて説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1－2	血液循環、心機能、自動能【A-3-1-4-1, A-3-1-4-2, D-2-3-2, D-2-3-3】				安藤 恵子		
	3	刺激伝導系、イオン機構、心電図、【A-3-1-4-1】				安藤 恵子		
	4	血管、血圧調節、循環調節【A-3-1-4-3, A-3-1-4-4】				安藤 恵子		
アドバイス		● 心臓のポンプ作用を理解するためには、心臓の構造の理解が必須である。 ● 心筋の活動電位と、神経細胞や骨格筋の活動電位を比較してみるとよい。固有心筋と特殊心筋の波形の違い、イオン機構の違いも理解すること。 ● 心電図波形を理解するためには、活動電位を理解すると共に、刺激伝導系から心臓内部での興奮伝播の様子を立体的に頭の中に想起できるとよい。 ● 血圧の維持、物質交換においては、細動脈、毛細血管が重要な役割を担っていることに留意すること。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として、解剖学的知識、イオンチャネルの構造と機能、ナトリウムポンプの働き、物理(流体の運動・力学)が挙げられる。						
テキスト・教材・ 参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)						

授業科目		生体の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		呼吸生理学						
曜日一時限		月－3・4	対象年次 学期	2 年次 4 セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：呼吸機能の意義、呼吸運動やガス交換のしくみについて理解する。 概要：呼吸器系の構造を確認した後、呼吸のしくみ、気道防衛機構、肺気量の測定、ヘモグロビン、酸塩基平衡、呼吸運動の調節について説明する。						
学習の到達 目標		一般目標：呼吸機能の意義、呼吸運動やガス交換のしくみについて理解する。 個別目標： ① 呼吸運動を司る駆動系(神経、筋、肺、胸郭)について説明できる。 ② 肺気量分画、死腔量、肺胞換気量について説明できる。 ③ 肺胞気や血液中のガス組成(ガス分圧)について説明できる。 ④ 呼吸調節に関与する神経系について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1		呼吸器、肺胞換気、ガス交換【A-3-1-8-1, A-3-1-8-2, D-2-3-2, D-2-3-3, D-2-3-6】			工藤 忠明		
	2		呼吸運動、肺気量の測定【A-3-1-8-2】			工藤 忠明		
	3		ヘモグロビン、酸塩基平衡、呼吸調節【A-3-1-8-2】			工藤 忠明		
アドバイス		● 健常者の安静呼吸時には、呼吸運動に使われるエネルギーが少なくてすむようなしくみが備わっている。 ● 呼吸は、循環と密接な関連があることに注目する。呼吸運動に目が奪われがちであるが、ガス交換と血液循環が正常に機能して初めて呼吸が成立する。 ● 呼吸が生体内の恒常性の維持にどう関わっているか、を考える。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として、解剖学的知識、生化学の知識、化学(ガス分圧、緩衝系)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験(講義への出席率は6割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は1回のみ行う。)						

授業科目	生体の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目	消化と吸収の生理学		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日一時限	月－3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標並びに目的と概要	目標と目的：腎臓における尿生成、排尿と、体温調節のしくみについて理解する。 概要：腎臓の構造を復習した後、腎系球体における濾過、尿細管での再吸収や分泌、排尿の機序について説明する。水・電解質、浸透圧調節機能、酸塩基平衡、腎障害について説明する。						
学習の到達目標	一般目標：腎臓における尿生成、排尿と、恒常性維持、体温調節のしくみについて理解する。 個別目標： ① 腎血流の調節、腎系球体における濾過について説明できる。 ② 腎尿細管における再吸収と分泌を説明できる。 ③ 腎による調節(水、電解質、浸透圧、pH調節など)を説明できる。 ④ 排尿機序を説明できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	腎臓の構造と機能、尿の性状、体液量・電解質・浸透圧調節機序と異常【A-1-4-3, A-3-1-10-1, A-3-1-10-2, A-3-1-10-3, A-2-1-4, D-2-3-6】				工藤 忠明	
	2-3	濾過、再吸収、分泌、レニン－アンギオテンシン－アルドステロン系【A-3-1-9-3, A-3-1-10-1, A-3-1-10-2, A-3-1-10-3】				工藤 忠明	
	4	酸塩基平衡、エリスロポエチン、ビタミンD、カルシウム代謝調節、排尿の機序【A-3-1-9-3, A-3-1-10-1, A-3-1-10-2, A-3-1-10-3】				工藤 忠明	
アドバイス	● 腎臓の構造に関する解剖学的、組織学的知識を復習しておくこと。さらに、毛細血管での物質交換をよく復習し、憤死レベルでは能動輸送、受動輸送など物質の移動を復習しておくこと。循環器、内分泌との関係（レニン－アンギオテンシン－アルドステロン系）を復習しておくこと。 ● ビタミンDについて、活性化、欠乏症をおさえておくこと。						
授業時間外学習	毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として解剖学、組織学、生化学が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率は6割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は1回のみ行う。）						

授業科目		生体の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		消化と吸収の生理学						
曜日・時限		月－3・4	対象年次 学期	2 年次 4 セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：消化管における消化、吸収のしくみについて理解させる。 概要：消化管の構造を確認した後、消化管の運動や、各栄養素が消化される過程（消化酵素の役割を含む）について説明する。						
学習の到達 目標		一般目標：消化管における消化、吸収のしくみについて理解する。 個別目標： ① 消化管の神経系（腸管神経系と外来性自律神経系）について説明できる。 ② 消化管運動、調節機序を説明できる。 ③ 消化液の分泌調節機序を説明できる。 ④ 三大栄養素の消化・吸収と、それに関連する消化酵素を説明できる。 ⑤ ビタミンの吸収、ビタミン欠乏症を説明できる。 ⑥ 排便の機序を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1		消化器系総論、消化管の構造、機能【A-3-1-7-1, A-3-1-7-2】			工藤 忠明		
	2-3		消化、吸収、ビタミン【A-1-2-1, A-1-2-2, A-1-2-3, A-1-2-6, A-1-2-9, A-3-1-7-1, A-3-1-7-2】			工藤 忠明		
	4		消化管運動、排便、調節機構【A-1-2-9, A-3-1-7-1】			工藤 忠明		
アドバイス		● 消化管機能の自律性、すなわち外来性神経の指令がなくともかなりのことができる、ということに注目する。 ● 各栄養素の消化、吸収をしっかりと理解する。 ● 消化には、管腔内消化と膜消化があることに留意する。 ● 神経性調節、消化管ホルモンを介した調節に留意する。 ● 排便には、体性神経と自律神経の両者が関与する。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物（動物の栄養など）が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学（医歯薬出版）：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験（講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。）						

授業科目		生体の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		神経生理学の基礎						
曜日・時限		月－3・4	対象年次 学期	2 年次 4 セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：興奮性細胞における興奮現象と神経細胞間の情報伝達について理解する。 概要：細胞内外のイオン組成、細胞膜の基本的性質、受容体、チャネル、輸送体、平衡電位、静止膜電位、電気緊張性電位と活動電位、興奮伝導、シナプス伝達、統合、可塑性について説明する。						
学習の到達 目標		一般目標：興奮性細胞における興奮現象と神経細胞間の情報伝達について理解する。 個別目標： ① 細胞内外のイオン組成、平衡電位、電気化学的勾配について説明できる。 ② 受容体、イオンチャネルの構造と機能、輸送体について説明できる。 ③ 静止電位とその発生機序を説明できる。 ④ 電気緊張性電位と活動電位を説明できる。 ⑤ 興奮伝導のしくみを説明できる。 ⑥ 電気シナプスと化学シナプスでの伝達とそのしくみについて説明できる。 ⑦ シナプスにおける統合、可塑性について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1－2		イオン組成、膜の性質、受容体、チャネル、輸送体【A-1-2-3, A-1-5-2】			安藤 恵子		
	3－4		神経細胞・グリアの構造と機能、静止電位、膜電位変化、興奮伝導【A-3-1-5-1, A-3-1-5-2, A-1-4-3, A-3-1-5-4, A-3-1-5-6, A-3-1-5-7】			安藤 恵子		
	5－6		興奮の伝達、情報の統合、可塑性【A-3-1-5-5, A-3-1-5-4, A-3-1-5-8】			安藤 恵子		
アドバイス		● 神経や筋肉の興奮に関連する重要細目であり、十分理解を深める必要がある。 ● 高校理科の電気物理(オームの法則など)を復習しておくといよい。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物の神経系)や物理(電気物理)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)						

授業科目	生体の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目	筋生理学		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日・時限	月－３・４	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：筋収縮の様式、収縮の分子機構について理解させる。 概要：まず骨格筋について説明を行う。筋の構造を確認した後、筋収縮の型の種類、収縮の分子機構について説明する。最後に、骨格筋、心筋、平滑筋の３者について、収縮機構などの違いについて説明する。						
学習の到達 目標	一般目標：筋収縮の様式、収縮の分子機構について理解する。 個別目標： ① 膜の構造と筋原線維の構造について説明できる。 ② 筋収縮の型（強縮、等尺性、等張性収縮）について説明できる。 ③ 筋収縮の分子機構と、筋節の“長さ－張力関係”について説明できる。 ④ 筋線維の構造と機能に基づく分類と、筋の疲労について説明できる。 ⑤ 筋紡錘の役割と、その感度を調節するしくみについて説明できる。 ⑥ 骨格筋、心筋、平滑筋の構造や機能の共通点、相違点について説明できる。						
授業 計画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	筋の構造と機能【A-3-1-3-1, A-3-1-3-2】				安藤 恵子	
	2	筋収縮のメカニズム、筋の疲労とエネルギー代謝【A-3-1-3-2】				安藤 恵子	
アドバイス	● 生理学授業細目「神経生理学の基礎」と、解剖学の筋の構造の細目をよく復習しておくこと。筋収縮の分子機構の理解に必須である。 ● 骨格筋についてまず理解を深めた上で心筋や平滑筋をながめ、共通点、相違点を検討するとよい。 ● この細目で扱う筋の疲労とは、主観的な“疲労感”をいっているのではない。 ● 骨格筋には、筋紡錘という感覚受容器が備わっていることに注目する。 ● 口腔生理学の咀嚼筋機能の理解に必須の細目である。						
授業時間外学習	毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な関連事項としてイオンチャネルの構造と機能、輸送体、生化学の知識が挙げられる。						
テキスト・教材・ 参考書等	教科書：基礎歯科生理学（医歯薬出版）：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率は６割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は１回のみ行う。）						

授業科目		口腔の機能		授業担当 責 任 者	安藤 恵子 口腔生理学分野			
授業細目		感覚生理学						
曜日－時限		火－2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：感覚機能全般に通ずる事項と各種感覚機能の役割や機序について理解する。 概要：感覚機能全般に共通する事項を説明した後、各種感覚を受容する末梢機序や感覚情報処理の中枢機序について説明する。						
学習の到達 目標		一般目標：感覚機能全般に通ずる事項と各種感覚機能の役割や機序について理解する。 個別目標： ① 感覚の種類、閾値について説明できる。 ② 各種感覚を受容する末梢機序（受容器など）や伝導路、感覚情報処理の中枢機序について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1		感覚総論【A-3-1-6】			安藤 恵子		
	2-3		体性感覚、内臓感覚【A-3-1-5-2, A-3-1-6-2, A-3-1-6-3】			安藤 恵子		
	4		視覚【A-3-1-6-1】			安藤 恵子		
	5		聴覚・平衡感覚【A-3-1-6-1】			安藤 恵子		
アドバイス			「口腔の機能」の全てに共通する留意事項 ● 本科目には全身生理学に関する細目も含まれている。授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 細目「感覚生理学」に関して ● 各種感覚の受容機構と伝導路、中枢をしっかりと学習すること。 ● 受容された感覚情報のごく一部が意識にのぼり知覚されることに注意する。 物理化学的な刺激の強さと知覚の大きさとの関係は一定ではない。					
授業時間外学習			毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として解剖学的知識、組織学の知識が挙げられる。					
テキスト・教材・参考書等			教科書：基礎歯科生理学（医歯薬出版）：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書					
成績評価の方法			筆記試験（講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。）					

授業科目		口腔の機能		授業担当	安藤 恵子		
授業細目		口腔・顔面の感覚生理学		責任者	口腔生理学分野		
曜日・時限		火－2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号 DDE-DEN222J
授業の目標並びに目的と概要		目標と目的： 口腔機能に関連した感覚種の役割や受容機序について理解する。 概要： 口腔感覚に関する総論的説明をした後、各種口腔感覚を受容する末梢機序や感覚情報処理の中核機序について説明する。					
学習の到達目標		一般目標： 口腔機能に関連した感覚種の役割や受容のしくみについて理解する。 個別目標： ① 口腔体性感覚の特徴について説明できる。 ② 歯根膜感覚の受容機構について説明できる。 ③ 歯髄と象牙質の痛みの受容機構について説明できる。 ④ 痛みと鎮痛に関わる末梢・中枢機序を説明できる。 ⑤ 味覚・嗅覚に関わる末梢・中枢機序を説明できる。 ⑥ 下顎位や顎関節の運動に関する感覚の受容機構について説明できる。					
授業計画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔感覚, 痛みと鎮痛【A-3-1-6-4, A-3-3-9, A-3-4-5, A-3-4-7, D-3-2-5】				安藤 恵子	
	2-3	味覚【A-3-3-3, A-3-3-4, A-3-1-6-1】				工藤 忠明	
	4	嗅覚【A-3-1-6-1】				工藤 忠明	
アドバイス		● 細目“感覚生理学”の体性感覚を復習しておくこと。 ● 歯髄、歯根膜や顎関節と他の身体部位の体性感覚との類似点や相違点に注目する。 ● 化学感覚(味覚、嗅覚)の障害は食欲、延いては全身の健康状態にも影響を及ぼすため、その受容機構の理解は重要である。					
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。					
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書					
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)					

授業科目	口腔の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目	体温・高次神経機能生理学		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日－時限	火－2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標並びに目的と概要	目標と目的：覚醒・睡眠や高次脳機能について理解する。 概要：大脳皮質の機能局在と視床下部、脳幹網様体賦活系、脳波の発生機序、睡眠・覚醒について説明する。さらに言語、学習、記憶について説明する。体温調節では、体熱の産生・放散、発熱とその調節の中核機序について説明する。						
学習の到達目標	一般目標：高次脳機能とそれを支える脳部位について理解する。 個別目標： ① 睡眠と脳波、脳波の発生機序について説明できる。 ② 睡眠・覚醒に関与する脳部位と神経機構について説明できる。 ③ 言語中枢を説明できる。 ④ 記憶の種類、記憶の過程、学習の機序を説明できる。 ⑤ 熱産生、発汗、発熱、体温調節の機序を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	睡眠・覚醒、脳波【A-3-1-5-4】				安藤 恵子	
	2	脳機能の全体論と局在論、言語機能【A-3-1-5-4, A-3-2-14】				安藤 恵子	
	3	学習と記憶、高次脳機能【A-3-1-5-4】				安藤 恵子	
	4	熱産生・放散、皮膚血流、発汗、発熱、体温の調節機構【A-3-1-9-4, D-2-3-3】				安藤 恵子	
アドバイス		● 睡眠は脳波上で特徴的な波形が現れるため、脳波との関連を意識して学習すること。 ● 言語中枢の局在の機能をしっかり勉強すること。 ● “学習と記憶”の項目は、LTP や LTD などの素過程を意識して学習すること。					
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として解剖学的知識、特に神経系の解剖学的知識が必要である。					
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書					
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)					

授業科目		口腔の機能		授業担当		安藤 恵子	
授業細目		自律神経生理学		責 任 者		口腔生理学分野	
曜日一時限		火－２・ ３・４	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号 DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：生体内の恒常性を自動的に維持する神経系のしくみについて理解する。 概要：自律神経系の解剖学的な構成を確認した後、自律神経の遠心路と求心路の機能について説明する。					
学習の到達 目標		一般目標：生体内の恒常性を自動的に維持する神経系のしくみについて理解する。 個別目標： ① 自律神経系の構成について説明できる。 ② 二重神経支配と拮抗性支配について説明できる。 ③ 各器官への具体的作用について説明できる。 ④ ②が当てはまらない器官について説明できる。 ⑤ 自律神経遠心路の神経伝達物質と受容体について説明できる。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1		自律神経系総論【A-3-1-5-1, A-3-1-5-3】			安藤 恵子	
	2-3		交感神経系、副交感神経系【A-3-1-5-3, A-3-1-9-3, A-3-1-9-4, A-3-1-9-5】			安藤 恵子	
アドバイス		● 自律機能は、自律神経系と内分泌系が車の両輪のように担っている。 ● 交感、副交感神経の各器官への作用については、“交感神経は緊急事態で働く”、“副交感神経はリラックスしたときに働く”と理解すると、器官ごとに逐一記憶しないで済む。 ● 神経伝達物質と受容体に関する知識は、作用機序を理解する際に必要となる。 ● 自律神経は体性神経と協調して実際の機能を担うことが少なくない(呼吸、排尿や排便)。					
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、解剖学的知識を必要とする。					
テキスト・教材・ 参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書					
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。)					

授業科目		口腔の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目		咀嚼、嚥下、発声、吸 嚥の生理学		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日・時限		火－2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的： 顎、顔面、口腔領域で発現する運動の役割やその発現機序を理解させる。 概要： 顎、顔面、口腔に関する筋や神経系の確認をした後、各運動の特徴やその発現機序 について説明する。また、唾液の性状、作用について説明する。						
学習の到達 目標		一般目標： 顎、顔面、口腔領域で発現する運動の役割やその発現機序を理解する。 個別目標： ① 顎反射、下顎位、舌反射、および、顎運動や舌運動の神経・筋メカニズ ムについて 説明できる。 ② 咀嚼の意義、咀嚼時の顎運動、咀嚼能率、咀嚼過程、咀嚼のパターン発生機構、咀嚼 運動の調節要素、咀嚼の加齢変化について説明できる。 ③ 発声、吸嚥、嘔吐に関わる神経・筋メカニズムについて説明できる。 ④ 嚥下の神経・筋メカニズムと誤嚥防止のしくみについて説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1－3	顎運動、下顎反射・舌反射【A-2-4-1, A-2-4-7, A-2-4-8, A-3-2-4, A-3-2-8, A-3-2-9, A-3-3-3】				工藤 忠明		
	4－6	咀嚼、吸嚥、嚥下【A-2-4-5, A-2-4-7, A-2-4-8, A-3-2-4, A-3-2-8, A-3-2-10, A-3-2-12, A-3-2-13】				工藤 忠明		
	7	嘔吐(おうと) 【A-3-2-11】				安藤 恵子		
	8	発声、構音【A-3-2-12, A-3-2-13, A-3-2-14】				安藤 恵子		
	9	唾液の性状、作用、異常【A-3-3-6, A-3-3-7, D-3-1-8-7】				安藤 恵子		
アドバイス		● 顎運動は食物の摂取、咀嚼、嚥下、呼吸、発声まで非常に精巧に組み立てら れた口腔・顔面領域の複雑な運動であることに注目すること。 ● 咀嚼は、生命維持に直接関わる行動であるだけでなく、ホルモン分泌や歯槽 骨の維持、顔貌・審美性、脳神経機能・精神機能などにも関係するため、 広くとらえて学ぶこと。 ● 高齢者では誤嚥性肺炎が死亡原因となることが多いため、嚥下のメカニズ ム、誤嚥防止のしくみについてよく理解すること。						
授業時間外学習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な高校理科 の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。						
テキスト・教材・ 参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通り カバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要にな ることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト(文光堂)入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法		筆記試験 (講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めな い。再試験は 1 回のみ行う。)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	安藤 恵子			
授業細目	内分泌・生殖・代謝生理学		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日－時限	火－2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標並びに目的と概要	目標と目的： 性腺や生殖器、内分泌器官、ホルモンとその制御、異常について理解する。 概要：性腺、生殖器、性決定、減数分裂、生殖細胞の形成、女性の性周期について説明する。また、内分泌組織、ホルモン、ホルモン作用、調節、異常について説明する。						
学習の到達目標	一般目標：性腺と生殖器、受精、内分泌組織、ホルモン作用、内分泌調節、異常について理解する。 個別目標： ① 性腺、生殖器の構造、機能と性ホルモンについて説明できる。 ② 卵巣や子宮の性周期とホルモン分泌、制御を説明できる。 ③ 内分泌組織の構造と機能について説明できる。 ④ ホルモン作用、ホルモンの調節、分泌異常ついて説明できる。						
授業計画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	性腺、生殖器の構造、性の決定、減数分裂、排卵周期、受精【A-3-1-11-1】				工藤 忠明	
	2	性ホルモン、ホルモンによる制御、乳汁分泌、脳の性分化、発育、思春期の成長、加齢変化【A-2-1-4, A-3-1-11-1, A-3-1-9-1, A-3-1-9-4】				工藤 忠明	
	3	内分泌組織（視床下部、脳下垂体、副腎、膵臓、甲状腺、副甲状腺、その他）の構造と機能【A-3-1-9-1, A-3-1-9-2, A-3-1-9-5】、				工藤 忠明	
	4－5	ホルモンの作用、異常、分泌調節【A-3-1-9-2, A-3-1-9-3】				工藤 忠明	
アドバイス	● 月経周期と子宮内膜の変化、ホルモン分泌を対応付けて理解すること。 ● ホルモンはたくさんあり、作用也多岐に及ぶものがあるので個々のホルモンについてしっかり理解する必要がある。						
授業時間外学習	毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として解剖学的知識、組織学の知識、ステロイドホルモンの生化学な知識が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよりよく理解するために他のテキストも参照すると良い。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書						
成績評価の方法	筆記試験（講義への出席率は 6 割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は 1 回のみ行う。）						

授業科目	生体の機能－応用		授業担当	安藤 恵子			
授業細目	生理学実験		責 任 者	口腔生理学分野			
曜日－時限	火－2・3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室 A 2 実習室	科目番号	DDE-DEN223J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：「生体の機能」と「口腔の機能」で学習した内容の一部について、実際に実験を行うことによって確認し、より深く生理学を理解する。 概要：班分けし、各実習項目をローテーションですべて回り実習を行う。1週間後までに実習レポートを提出する。						
学習の到達 目標	一般目標：「生体の機能」と「口腔の機能」で学習した内容の一部について、実際に実験を行うことによって確認し、より深く生理学を理解する。 個別目標： ① 各実習項目で行う実習内容について、各学生が説明でき実際に実験を行うことができる。 ② 座学で学習した知識を基に、実験データの解析や、結果の解釈を行うことができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1－2	唾液分泌量の測定【A-3-3-6, A-3-3-7】				分野全教員	
	3－4	唾液反射【A-3-3-3, A-3-3-6, A-3-3-7, A-3-3-9】				分野全教員	
	5－6	咀嚼能率測定【A-3-2-4, A-3-2-10】				分野全教員	
	7－8	皮膚感覚点の計測【A-3-1-6-2】				分野全教員	
	9－10	皮膚二点識別閾【A-3-1-5-1, A-3-1-6-2】				分野全教員	
	11－12	深部感覚（重量感覚）【A-3-1-5-2, A-3-1-6-2】				分野全教員	
	13	実習総括				安藤 恵子	
アドバイス	● 各実習項目の担当教員から説明や注意を聞いた上で、積極的に取り組んでください。 ● 実習項目は変更される場合がある(実習開始に先立って周知する)。 ● 実験では、必ずしも座学の知識から予想される実験結果が得られるとは限らない。その違いの理由あるいは原因をよく考察してみる姿勢が大事である。						
予習・復習	実習書を事前によく読んでくること。 実習後のレポート作成を通して、座学で得られた知識を再確認すること。						
テキスト・教材・ 参考書等	テキスト： 実習書(教員作成) 参考書： 基礎歯科生理学(医歯薬出版) 生理学実習書(日本生理学会教育委員会監修、南江堂)						
成績評価の方法	実習への参加とレポート。実習に参加してもレポート提出がない場合出席とは認めない。(注意： 実習への出席は出席率3／4以上必要 。座学の講義の出席率6割以上必要とは異なるので注意すること) 筆記試験（「口腔の機能」の講義の試験と合わせて試験を行う。「口腔の機能」への出席を含めて、座学、実習どちらか一方でも出席不足の場合、受験資格を認めない。再試験は1回のみ行う。）						

授業科目		生体の機能—応用		授業担当		安藤 恵子	
授業細目		運動生理学		責 任 者		口腔生理学分野	
曜日—時限		火—2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A 1 講義室 A 2 実習室	科目番号 DDE-DEN223J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：姿勢制御や随意運動が達成されるしくみを理解する。 概要：伝導路や反射、姿勢の維持、リズム運動、随意運動の企画と遂行について説明する。					
学習の到達 目標		一般目標：運動には様々な水準があること、さらにその発現を調節している脊髄や脳のしくみについて理解する。 個別目標： ① 脳幹を介する姿勢維持に関係した反射について説明できる ② 高次の運動中枢（一次運動野、運動前野、補足運動野）について説明できる。 ③ 運動調節における小脳、大脳基底核の役割を説明できる。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1		運動野、伝導路、運動制御【A-3-1-5-2, A-3-1-5-4, A-3-1-5-5】			安藤 恵子	
	2		小脳運動学習、大脳基底核【A-3-1-5-2, A-3-1-5-4, A-3-1-5-5】			安藤 恵子	
アドバイス		● 中枢神経系の解剖をよく復習しておくこと。 ● 反射は重要なので確実に理解するように努めること。 ● 大脳基底核ループや小脳ループは複雑であるがその意義を考えること。					
予習・復習		毎回の授業後の復習は非常に大切である。また、本細目の学習に必要な事項として神経解剖学、組織学が挙げられる。					
テキスト・教材・参考書等		教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学（医学書院）：非常に詳しい。一般生理の参考書 生理学テキスト（文光堂）入門書として最適。一般生理の参考書					
成績評価の方法		筆記試験（「口腔の機能」の講義の試験と合わせて試験を行う。出席の評価は「口腔の機能」の講義と合わせて評価する。「口腔の機能」の講義と合わせて出席率6割以上必要。出席不足者には受験資格を認めない。再試験は1回のみ行う。）					

授業科目		歯科生体材料の科学Ⅰ		授業担当 責 任 者	○岡田 正弘、鈴木 治			
授業細目		歯科生体材料科の基礎			生体材料理工学分野 (歯科生体材料学分野)			
曜日一時限		木－３・４	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	Ｂ２講義室	科目番号	DDE-DEN218J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯科治療で用いられる生体材料を使用するために必要な知識を修得し、医療の提供や発展に必要な考え方を身に付ける。						
学習の到達 目標		・ 生体材料を組成や構造によって分類できる。 ・ 生体材料の性質（機械的性質、レオロジー、物理的性質、化学的性質、表面の性質）を説明できる。 ・ 生体材料の安全性について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	１		概論【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-2】【Ｂ-3-4】				鈴木 治	
	２～４		物質の種類と構造【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】				岡田正弘	
	５～１０		材料の性質【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】				岡田正弘 濱井 瞭	
	１１・１２		生体材料の安全性【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】				岡田正弘	
	１３～１８		物質の種類（有機高分子材料、金属材料、無機材料、複合材料）【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】				岡田正弘 濱井 瞭	
	１９・２０		接着の基礎【Ｂ-2-1】【Ｂ-2-3】				岡田正弘	
	２１・２２		まとめ【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-2-1】【Ｂ-2-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-2】【Ｂ-3-4】				岡田正弘	
アドバイス		基礎教育科目の物理、化学、生物が基礎となっている。 遠隔講義となる場合がある。						
授業時間外学習		配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。演習問題等は必ず復習すること。						
テキスト・教材・ 参考書等		教科書：スタンダード歯科理工学第８版（学建書院） 参考書：現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Pubulishing Co, Inc）、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等						
成績評価の方法		歯科生体材料の科学Ⅰとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は１度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。						

授業科目		歯科生体材料の科学Ⅰ		授業担当 責 任 者	○岡田 正弘、鈴木 治 生体材料理工学分野 (歯科生体材料学分野)			
授業細目		歯科生体材料基礎実験						
曜日一時限		木－３・４	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	Ｂ２実習室	科目番号	DDE-DEN218J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯科治療で用いられる生体材料を使用するために必要な知識について実験を通して修得し、医療の提供や発展に必要な考え方を身に付ける。						
学習の到達 目標		歯科生体材料の基礎的な性質を説明することができ、実験結果と考察を正しくレポートにまとめることができる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	１・２		オリエンテーション【Ｂ-1-1】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-2】				鈴木 治、岡田正弘 濱井瞭、他	
	３・４		応力ひずみ曲線の解析【Ｂ-1-1】				岡田正弘、濱井瞭、他	
	５・６		レオロジー【Ｂ-1-1】【Ｂ-3-1】				岡田正弘、濱井瞭、他	
	７・８		熱分析【Ｂ-1-1】【Ｂ-3-2】				岡田正弘、濱井瞭、他	
アドバイス			実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。レポートを必ず提出すること。レポート未提出の場合も不合格となるので十分に注意すること。遠隔講義となる場合がある。					
授業時間外学習			十分予習をしてから実験に臨むこと。実験・実習内容も定期試験に含まれているので、復習を兼ねてレポート作成に当たること。					
テキスト・教材・参考書等			実験テキストを配布する。スタンダード歯科理工学（学建書院）、現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)					
成績評価の方法			歯科生体材料の科学Ⅰとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は１度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。					

授業科目		歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当 責 任 者	○岡田 正弘、鈴木 治			
授業細目		歯科生体材料の成形			生体材料理工学分野 (歯科生体材料学分野)			
曜日一時限		月－３・４ 木－１	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	Ｂ２講義室	科目番号	DDE-DEN224J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯科生体材料の科学Ⅰで学んだことを基礎に、歯科臨床における保存修復物、補綴物の成形加工法の理論および成形用材料の構造と物性について学ぶ。						
学習の到達 目標		歯科臨床における保存修復物、補綴物の成形加工法の理論および成形用材料の構造と物性を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	１～３		印象用材料【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】				岡田正弘	
	４		模型用材料【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】				岡田正弘 濱井 瞭	
	５		歯科用ワックス【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】				岡田正弘	
	７～９		鋳造用材料【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】				岡田正弘	
	１０		切削・研削・研磨材【Ｂ-1-1】【Ｂ-1-2】【Ｂ-1-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】				岡田正弘 濱井 瞭	
アドバイス		２年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっている。これを良く復習して理解し講義に臨むこと。遠隔講義となる場合がある。						
授業時間外学習		配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。						
テキスト・教材・参考書等		教科書：スタンダード歯科理工学第８版（学建書院） 参考書：現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Pubulishing Co, Inc）、目で見る歯科理工学（医歯薬出版）等						
成績評価の方法		歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は１度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）						

授業科目		歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	○岡田 正弘、鈴木 治		
授業細目		歯科生体材料		責 任 者	生体材料理工学分野 (歯科生体材料学分野)		
曜日一時限	月－３・４ 木－１	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	Ｂ２講義室	科目番号	DDE-DEN224J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯科生体材料の科学Ⅰで学んだことを基礎に、歯科臨床で使用される歯科生体材料の化学組成、特徴、物性、用途等を基礎的に学ぶことを目的とする。					
学習の到達 目標		歯科臨床における歯科生体材料についての化学組成、特徴、物性、用途等を説明でき、臨床においてこれらの歯科生体材料を適切に選択して使用できる。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	１		概論【Ｂ-1-1～3】【Ｂ-2-1～6】【Ｂ-3-1～4】			鈴木 治	
	２・３		歯科用金属材料【Ｂ-2-1】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】			岡田正弘	
	４・５		歯冠用セラミックス【Ｂ-2-1】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】			岡田正弘 濱井 瞭	
	６～８		義歯用材料【Ｂ-2-2】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】			岡田正弘	
	９～１１		成形修復材料【Ｂ-2-1】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-4】			岡田正弘	
	１２		接着・合着用材料【Ｂ-2-3】【Ｂ-3-1】【Ｂ-3-2】			岡田正弘	
	１３		歯冠補綴用レジン【Ｂ-2-1】			岡田正弘	
	１４		矯正用材料【Ｂ-2-4】			岡田正弘	
	１５		予防歯科材料と歯内療法関連材料【Ｂ-2-5】			岡田正弘	
	１６		歯科用器械【Ｂ-3-2】【Ｂ-3-3】【Ｂ-3-4】			岡田正弘	
	１７		インプラント材料【Ｂ-2-6】			鈴木 治	
	１８・１９		総合復習【Ｂ-1-1～3】【Ｂ-2-1～6】【Ｂ-3-1～4】			岡田正弘	
アドバイス			２年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっている。これを良く復習して理解し講義に臨むこと。遠隔講義となる場合がある。				
授業時間外学習			配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。				
テキスト・教材・参考書等			教科書：スタンダード歯科理工学第８版（学建書院） 参考書：現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition（Quintessence Publishing Co, Inc）、目で見る歯科理工学（医歯薬出版）等				
成績評価の方法			歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は１度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。				

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当 責 任 者	○岡田 正弘、鈴木 治 生体材料理工学分野 (歯科生体材料学分野)						
授業細目	歯科生体材料実習									
曜日一時限	月－３・４	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	B 2 実習室	科目番号	DDE-DEN224J			
授業の目標 並びに目的 と概要	実験実習を通して、歯科臨床における保存修復物、補綴物、合着・接着用材料など各種歯科生体材料を材料科学的に理解し、臨床応用できる基礎力を養う。									
学習の到達 目標	歯科臨床における保存修復物、補綴物、合着・接着用材料など各種歯科生体材料を実際に使用できる基礎的技術を身に付け、実験結果と考察を正しくレポートにまとめることができる。									
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容			担 当 者					
	１・２	ガイダンス【 B-1-1～3 】【 B-2-1～6 】【 B-3-1～4 】			鈴木 治、岡田正弘、濱井 瞭、他					
	３・４	鋳【 B-1-1～3 】【 B-2-1 】【 B-2-2 】【 B-3-1 】 【 B-3-2 】			岡田正弘、濱井 瞭、他					
	５・６	印象材【 B-1-1～3 】【 B-2-1 】【 B-2-2 】			岡田正弘、濱井 瞭、他					
	７・８	石膏と埋没材【 B-1-1～3 】【 B-2-1 】【 B-2-2 】 【 B-3-1 】			岡田正弘、濱井 瞭、他					
	９～１６	修復材料と接着・合着用材料【 B-1-1～3 】【 B-2-1 】 【 B-2-3 】【 B-3-2 】			岡田正弘、濱井 瞭、他					
アドバイス		十分予習をしてから実験に臨むこと。実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。遠隔講義となる場合がある。								
授業時間外学習		十分予習をしてから実験に臨むこと。実験・実習内容も定期試験に含まれているので、復習を兼ねてレポート作成に当たること。								
テキスト・教材・参考書等		実験テキストを配布する。スタンダード歯科理工学（学建書院）、現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)								
成績評価の方法		歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席、筆記試験（再試験は１度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）								

授業科目	くすりの科学			授業担当	若森 実		
授業細目	神経系、循環器系、腎臓、消化器系に作用する薬物			責 任 者	歯科薬理学分野		
曜日一時限	水－3・4 木－2 金－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯科医療を適切に行うために原因疾患に対応した薬物療法を理解させる。 概要：化学的神経伝達物質、薬物受容体、細胞内情報伝達系等について理解した上で、末梢神経系に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、循環器系・呼吸器系・腎臓・消化器に作用する薬物、血液凝固に関わる薬物、ビタミン・ホルモン等の作用と作用機序、臨床応用について理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：各種疾患に対する薬物療法を理解する。 個別目標： ① 各種疾患の病因と病態を説明できる。 ② 各種疾患に用いる薬物とその作用機序を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1～3	末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経筋接合部に作用する薬物）【A-3-1-3-1】【A-3-1-3-2】【A-3-1-5-3】【H28:C-3-4）-(3)①②】【H28:C-3-4）-(5)②③】					若森 実
	4～13	中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬・鎮静薬、麻薬性鎮痛薬、向精神薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬、脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬）【A-6-2-2】【H28:C-3-4）-(5)⑦⑧⑨】【H28:C-3-4）-(6)④】【H28:E-1-4）-(2)①②③】【H28:E-1-4）-(4)②】【H28:E-2-4）-(9)②③④】					若森 実 兼松 隆
	14～18	循環器系・呼吸器系に作用する薬物、体液調節に関わる薬物、救急用薬剤【A-6-2-2】【H28:C-3-4）-(3)②】【H28:C-3-4）-(4)①③④】【H28:C-3-4）-(10)①②③】【H28:C-5-4)⑤⑥】【H28:E-1-6)③】					若森 実
	19	止血薬、抗凝血薬【A-6-2-2】【H28:C-3-4）-(4)⑦】【H28:C-5-4)②③】					小林 真之
	20	消化器系に作用する薬物【A-6-2-2】【H28:C-3-4）-(7)①②③】					中村 卓史
	21～22	ビタミン・ホルモンおよびホルモン拮抗薬【A-6-2-2】【H28:C-3-4）-(9)①②】【H28:E-2-4）-(10)⑨】					中村 卓史
アドバイス	「くすりの科学」の全てに共通する留意事項 ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学、生理学、生化学の知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。						
授業時間外学習	● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・ 参考書等	テキスト：現代歯科薬理学第7版（鈴木邦明監修、医歯薬出版） 参考書：イラストレイテッド薬理学 原書8版（Karen Whalen 著、Wolters Kluwer Health）、Basic and Clinical Pharmacology 原著16版（Vanderah Todd W 著、McGraw-Hill）、薬がみえる第2版（医療情報科学研究所）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 原著14版（Laurence L Brunton、Bjorn C Knollmann 著、McGraw-Hill）、Principles of Pharmacology 原著4版（David E Golan 著、Wolters Kluwer）						
成績評価の方法	筆記試験による（再試験は1回のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。						

授業科目		くすりの科学		授業担当		若森 実		
授業細目		炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物		責 任 者		歯科薬理学分野		
曜日一時限		水－3・4 木－2 金－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター		講義室名	B 2 講義室	科目番号 DDE-DEN225J
授業の目標並びに目的と概要		目標と目的：顎口腔領域の疾患に対応した薬物療法を理解させる。 概要：腫瘍・炎症・痛み・発熱・アレルギーの発生機序について学び、化学療法薬、抗悪性腫瘍薬、ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬、消毒薬、抗生物質、抗ウイルス薬、局所麻酔薬等の薬理作用、作用機序、臨床的用途について理解する。						
学習の到達目標		一般目標：上記病態に対する薬物療法を理解する。 個別目標： ① 各種疾患の病因と病態を説明できる。 ② 各種疾患に用いる薬物とその作用機序を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1～3		抗炎症薬および解熱鎮痛薬【A-6-2-2】【H28:C-3-4)-(6)④】【H28:C-5-5)②】【H28:E-2-4)-(3)⑤】				高橋 かおり	
	4		局所麻酔薬【A-6-2-2】【D-1-2-1-1～D-1-2-1-5】【H28:C-3-4)-(5)⑧】【H28:E-1-4)-(3)①②③④⑤】				若森 実	
	5～8		抗感染症薬【A-6-2-2】【A-6-4-6】【E-1-1-8】【H28:C-4-1)④⑤】【H28:C-6-4)②】				吉田 卓史	
	9		免疫薬理学（免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬）【A-6-2-2】【H28:C-6-2)②】				高橋 かおり	
	10～11		抗悪性腫瘍薬【A-6-2-2】【H28:C-5-6)②⑥】				中村 卓史	
	12		唾液腺に作用する薬物【A-6-2-2】【H28:E-2-2)⑤⑥】				谷村 明彦	
	13		局所的抗感染症薬（消毒薬）【A-6-2-2】【H28:C-4-1)④】				高橋 かおり	
アドバイス		「くすりの科学」の全てに共通する留意事項 ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学、生理学、生化学の知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。						
授業時間外学習		● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等		テキスト：現代歯科薬理学第7版（鈴木邦明監修、医歯薬出版） 参考書：イラストレイテッド薬理学 原書8版（Karen Whalen 著、Wolters Kluwer Health）、Basic and Clinical Pharmacology 原著16版（Vanderah Todd W 著、McGraw-Hill）、薬がみえる第2版（医療情報科学研究所）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 原著14版（Laurence L Brunton、Bjorn C Knollmann 著、McGraw-Hill）、Principles of Pharmacology 原著4版（David E Golan 著、Wolters Kluwer）						
成績評価の方法		筆記試験による（再試験は1回のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。						

授業科目		くすりの科学		授業担当 責 任 者	若森 実			
授業細目		硬組織薬理学 歯科臨床薬理学			歯科薬理学分野			
曜日一時限		水－3・4 木－2 金－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯科医療を適切に行うために原因疾患に対応した薬物療法を理解させる。 概要：齲蝕予防薬、根管治療薬、歯周病治療薬、カルシウム調節ホルモン、骨粗鬆症治療薬、骨代謝に影響を与える薬物・ホルモン・成長因子等の作用、作用機序について理解する。						
学習の到達 目標		一般目標：齲蝕予防・根管治療・歯周病治療時の薬物療法を理解させる。 個別目標： ① 齲蝕予防に用いる薬物について説明できる。 ② 歯髄保存療法に用いる薬物について説明できる。 ③ 感染根管治療に用いる薬物について説明できる。 ④ 歯周疾患治療に用いる薬物について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1・2	齲蝕予防薬・硬組織薬理学【A-6-2-2】【H28:C-3-4)-(9)①】				中村 卓史		
	3	歯周病治療薬【A-6-2-2】【H28:C-4-1)④⑤】				高橋 かおり		
	4	根管治療薬【A-6-2-2】【H28:C-4-1)④⑤】				高橋 かおり		
	5・6	臨床薬理学				梶岡 俊一		
アドバイス		「くすりの科学」の全てに共通する留意事項 ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学、生理学、生化学の知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。						
授業時間外学習		● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・ 参考書等		テキスト：現代歯科薬理学第7版（鈴木邦明監修、医歯薬出版） 参考書：Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 原著14版(Laurence L Brunton、Bjorn C Knollmann 著、McGraw-Hill)						
成績評価の方法		筆記試験による（再試験は1回のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない）。						

授業科目		くすりの科学		授業担当 責 任 者	若森 実 歯科薬理学分野		
授業細目		くすりの科学総論					
曜日－時限	水－３・４ 木－２ 金－３・４	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：疾病の回復を促進する薬物の基本について理解させる。 概要：くすりの歴史と薬理学の成立、薬物の適用法、薬物動態学、薬理作用を規定する要因、細胞内情報伝達系、薬物の連用と併用に関わる問題点、新薬の開発、薬物の有害性と安全性について学び、日本薬局方、薬機法、処方箋等について理解する。					
学習の到達 目標		一般目標：薬理学における総論的内容を理解する。 個別目標： ① 薬理作用・作用機序の基本形式、薬理作用を規定する因子を説明できる。 ② 薬力学と薬物動態学の基本を概説できる。 ③ 薬物の連用と薬物の併用と相互作用を説明できる。 ④ 薬物の副作用・有害作用、医薬品適用上の注意を説明できる。 ⑤ 日本薬局方、薬機法を説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１～１１	くすりの科学入門、薬理作用、用量と薬理作用、薬理作用機序、細胞内情報伝達系【A-1-3-3】 【A-1-5-2】 【A-6-1-1】 【A-6-2-1】 【A-6-2-2】 【A-6-2-3】 【A-6-2-4】 【H28:A-1-3-3】 【H28:A-1-5-2】 【H28:A-6-1-1】 【H28:A-6-2-1】 【H28:A6-2-2】 【H28:A-6-2-3】 【H28:A-6-2-4】				若森 実, 野口 拓也	
	１２～１６	薬物の適用法、薬物動態学（薬物の吸収、分布、代謝、排泄（ADME）） 【A-1-4-2】 【A-6-3-1】 【A-6-3-2】 【A-6-3-3】 【A-6-4-4】 【A-6-4-5】 【H28:C-2-3】② 【H28:C6-3】①②】				若森 実	
	１７～１８	薬物の連用と薬物の併用と相互作用、薬力学【A-6-2-5】 【A-6-4-3】 【H28:C-6-2】①④⑤】				若森 実	
	１９～２０	薬物の副作用・有害作用、医薬品適用上の注意【A-6-4-1】 【A-6-4-2】 【H28:C-6-1】②】 【H28:C-6-4】①②】 【H28:E-1-4）-(1)⑤】 【H28:E-2-4）-(10)⑦】 【H28:E5-1)②)】				若森 実	
	２１～２２	日本薬局方、薬機法、処方箋、ゲノム薬理学【A-1-3-7】 【A-6-1-2】 【C-4-2-4】 【D-4-1-2】 【H28:B-2-1)④】 【H28:C-6-1)③】				中村 卓史	
アドバイス		「くすりの科学」の全てに共通する留意事項 ● 授業はシラバスの順序に従わないことがあるので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学的知識、生理学的知識、生化学的知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認すること。					
授業時間外学習		● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。					
テキスト・教材・ 参考書等		テキスト：現代歯科薬理学第7版（鈴木邦明監修、医歯薬出版） 参考書：イラストレイテッド薬理学 原書8版（Karen Whalen 著、Wolters Kluwer Health）、Basic and Clinical Pharmacology 原著16版（Vanderah Todd W 著、McGraw-Hill）、薬がみえる第2版（医療情報科学研究所）、Goodman and Gilman’s The Pharmacological Basis of Therapeutics 原著14版（Laurence L Brunton、Bjorn C Knollmann 著、McGraw-Hill）					

授業科目		くすりの科学		授業担当	若森 実		
授業細目		くすりの科学実習		責 任 者	歯科薬理学分野		
曜日一時限		水－３・４ 金－３・４	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A 2 実習室	科目番号 DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：薬理作用機序を理解させる。 概要：各種薬物の薬理作用の発現を、動物実験を通して自分の目で観察し、その結果をまとめて考察する訓練を行う。					
学習の到達 目標		一般目標：薬理作用機序を理解する。 個別目標： ① 動物実験における３Rを説明できる。 ② 実験動物を正しく取り扱うことができる。 ③ 薬理作用機序を説明できる。 ④ 実験ノートを正確に過不足なく記載、実験結果を正しく解析できる。 ⑤ 実験結果から結論に至るまで深く考察する習慣を身に付ける。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１・２	実験動物の扱い方と薬物投与法（全身麻酔薬の効果） 【A-6-2-2】 【H28:C-3-4）-(5) ②③】				教員全員	
	３・４	薬物の協力作用と拮抗作用（唾液分泌に影響を与える薬物） 【A-6-2-2】 【A-6-2-5】 【H28:C-6-2) ⑤】				教員全員	
	５・６	止血作用【A-6-2-2】 【H28:C-3-4）-(4) ③⑦】				教員全員	
	７・８	フッ化物の作用、消毒薬の効果【A-6-2-2】 【H28:C-4-1) ④⑤】				教員全員	
アドバイス		● 薬理学における動物実験の重要性を理解する。 ● 実験の目的を事前に十分に理解し実験を実施すること。 ● 実験に際しては観察を丁寧に行い、記録することを心がける。 ● 予期に反した結果を得た場合でも、その結果をありのまま受け止め考察する態度が必要である。					
授業時間外学習		● 薬理学実習用プリントは前日までに配布するので、必ず該当する項目をテキストや参考書で予習を行うこと。					
テキスト・教材・参考書等		薬理学実習用プリント、薬理学実習書第３版（松本・千葉・松本編、学建書院）、現代歯科薬理学第７版（鈴木邦明監修、医歯薬出版）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics 原著 14 版(Laurence L Brunton、Bjorn C Knollmann 著、McGraw-Hill)					
成績評価の方法		レポート提出。実習の内容は期末の筆記試験の一部として出題する（再試験は１回のみ。欠席者には再試験受験資格を認めない）。					

授業科目		感染と免疫Ⅰ		授業担当 責 任 者	多田 浩之			
授業細目		微生物学入門			口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限		月－2 木－1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：現代の医療における微生物学の位置づけと概要を把握し、病原微生物学の歴史を理解する。 概要：微生物学の対象となる微生物の分類法、構造、生態ならびに性状に関して全体像を概観する。病原微生物学の歴史を通して、宿主-微生物関係・感染症の変遷について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：微生物学における概論を理解する。 個別目標： ① 微生物（細菌、真菌、ウイルス、原虫）を分類し、概説できる。 ② 病原微生物学の歴史を概説できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1・2	微生物の世界【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1）①、②】				多田 浩之		
	3・4	病原微生物学の歴史【A-4-1-3】【H28：C-4-1）③】				多田 浩之		
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 これまでに学んできた生物学ならびに生命科学の知識と統合することが望ましい。						
授業時間外学習		高等生物および生命科学Aを復習しておくことが望ましい。 下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。なお、細菌学総論を理解するには、本講義を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・ 参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫Ⅰ			授業担当	多田 浩之		
授業細目	細菌学総論			責 任 者	口腔微生物・免疫学分野		
曜日一時限	月－2 木－1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：細菌の生態、共生・寄生関係および感染症予防を理解する。 概要：細菌の自然界の中での生態、細菌の構造・機能、増殖・代謝、病原因子および細菌感染機構・感染 予防法について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：細菌の生態、病原性および化学療法に関する微生物学を理解する。 個別目標： ① 細菌の構造・機能、増殖・代謝、病原因子について、自然界での生態と宿主の中での病原性について 説明できる。 ② 化学療法の定義、化学療法薬、薬剤耐性、歯科診療に際して留意すべき感染症、標準予防策、滅菌と 消毒、細菌感染機構について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	細菌の構造と機能【A-4-1-1】【H28：C-4-1)①】				多田 浩之	
	3・4	細菌の増殖と代謝【A-4-1-1】【H28：C-4-1)①】				多田 浩之	
	5・6	細菌の遺伝/バクテリオファージ【A-4-1-1】【H28：C-4-1)①】				多田 浩之	
	7・8	細菌毒素(内毒素/外毒素)【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、 ②】				多田 浩之	
	9・10	化学療法/院内感染対策/滅菌・消毒【A-4-1-5】【A-4-1-6】【A-4- 1-7】【A-4-1-8】【A-4-1-9】【H28：C-4-1)②、③、④、⑤】				多田 浩之	
	11・12	細菌感染機構/感染症対策【A-4-1-2】【A-4-1-3】【A-4-1-4】【A-4- 1-9】【H28：C-4-1)②、③】				多田 浩之	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 細菌学を体系的に把握するとともに、これまでに学んできた生命科学、基礎医学の知識と統合す ることが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが 重要である。						
授業時間外学習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復 習が必要である。 なお、細菌学各論を理解するには、本講義を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・ 参考書等	口腔微生物学・免疫学(医歯薬出版)、戸田新細菌学(南山堂)等						
成績評価の方法	筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫Ⅰ		授業担当	多田 浩之			
授業細目	細菌学各論（含真菌学）		責 任 者	口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限	月－2 木－1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：ヒトに関連する代表的な病原微生物と感染症の特徴を理解する。 概要：臨床で一般的に見られる細菌・真菌による感染症に関連する微生物の性状・発症機序・病因について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：代表的な病原微生物と感染症の特徴を理解する。 個別目標： ①代表的な病原細菌（グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌）の性状・発症機序・病因について説明できる。 ②真菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマの性状・発症機序・病因ならびに一般的な細菌との相違について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	臓器別感染症の概観【A-4-1-3】【A-4-1-5】【H28：C-4-1)②、③】				多田 浩之	
	2・3	グラム陽性球菌（レンサ球菌、ブドウ球菌）【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、②】				黒石 智誠	
	4・5	グラム陽性桿菌（ジフテリア菌、リステリア菌、バシラス属、クロストリジウム属、抗酸菌）【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、②】				黒石 智誠	
	6・7	グラム陰性球菌（ナイセリア属、モクラセラ属） グラム陰性桿菌（腸内細菌科、ビブリオ科、らせん状桿菌、緑膿菌、百日咳菌、レジオネラ属、ブルセラ属、パスツレラ属）【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、②】				黒石 智誠	
	8・9	スピロヘータ・リケッチア・クラミジア・マイコプラズマ【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、②】				黒石 智誠	
	10	真菌・原虫【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1)①、②】				黒石 智誠	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 個々の病原性微生物の特徴を体系的に把握し、これまでに学んできた細菌学総論の知識と統合することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。 なお、個々の病原微生物の理解には、細菌学総論の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法	筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目		感染と免疫Ⅰ		授業担当 責 任 者	多田 浩之			
授業細目		ウイルス学			口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限		月－２ 木－１・２	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：ウイルスの性状およびウイルス感染症の特徴を理解させる。 概要：医療従事者として必須のウイルス学の基本的な知識を身につけ、実際の臨床で遭遇する可能性があるウイルス感染症について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：ウイルスの性状およびウイルス感染症を理解する。 個別目標： ① ウイルスの生物学的特徴を説明できる。 ② ウイルスの構造を説明できる。 ③ ウイルスの増殖方法を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	１・２	ウイルス学総論【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1）①、②】				多田 浩之		
	３・４	ウイルス学各論（DNA ウイルス、RNA ウイルス）【A-4-1-1】【A-4-1-2】【H28：C-4-1）①、②】				多田 浩之		
	５・６	ウイルス学各論（レトロウイルス[HIV, HTLV]、肝炎ウイルス、新型コロナウイルス）【A-4-1-1】【A-4-1-2】【A-4-1-3】【H28：C-4-1）①、②、③】				多田 浩之		
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 ウイルスの特殊性を理解し、これまでに学んできた細菌・真菌・原虫と比較しながら把握することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習		下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後には配布資料を中心とした復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目		感染と免疫Ⅰ		授業担当 責 任 者	多田 浩之 口腔微生物・免疫学分野			
授業細目		口腔感染症						
曜日一時限		月－2 木－1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：う蝕と歯周病に関連する細菌の性状およびう蝕と歯周病の特徴について理解させる。 概要：う蝕と歯周病は口腔の二大感染症である。う蝕と歯周病に関わる病原細菌の性状、病像・予防法について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：口腔細菌学におけるう蝕と歯周病に関わる細菌について理解する。 個別目標： ① 口腔細菌叢の生態について説明できる。 ② う蝕に関わる細菌の性状、病像・予防について説明できる。 ③ 歯周病に関わる細菌の性状、病像・予防について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1・2		口腔の微生物【A-4-1-1】【A-4-1-2】【A-4-1-5】【H28：C-4-1） ①、②、③】			多田 浩之		
	3・4		デンタルプラーク・う蝕【A-4-1-2】【A-4-1-3】【H28：C-4-1） ②、③】			多田 浩之		
	5・6		歯周病・歯内疾患【A-4-1-2】【A-4-1-3】【H28：C-4-1）②、③】			多田 浩之		
	7・8		口腔微生物と全身疾患【A-4-1-2】【A-4-1-3】【A-4-2-1】【A-4-2-2】【H28：C-4-1）②、③】【H28：C-4-2）①、②】			多田 浩之		
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 口腔感染症の特殊性を理解し、全身感染症と比較しながら把握することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習		下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後には配布資料を中心とした復習が必要である。						
テキスト・教材・ 参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目		感染と免疫Ⅰ		授業担当 責 任 者	多田 浩之 口腔微生物・免疫学分野		
授業細目		細菌学実習					
曜日－時限	集中実習	対象年次 学期	2 年次 4 セメスター	講義室名	A 3 実習室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：細菌学研究の基本的な手技について理解させる。 概要：細菌を扱うための基本的な手技および細菌を観察するための培養法・染色法について学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：細菌を扱うための基本操作を理解する。 個別目標： ① 白金耳を用いた火炎滅菌法を修得する。 ② 細菌の接種法・培養法を修得する。 ③ グラム染色法を修得する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容			担 当 者		
	1 ～ 4	グラム染色法【A-4-1-1】【H28：C-4-1）①】			多田 浩之 黒石 智誠		
アドバイス		細菌を扱うための基本手技とグラム染色法は、細菌学研究の重要な基本手技となるため必ず出席すること。本実習では病原細菌を取り扱うため、実習前の説明をよく聞いた上で実習に臨んで欲しい。また、実習で得られた実験結果を考察してレポートを作成する過程で、科学論文における論理的思考を学んで欲しい。					
授業時間外学習		これまで学習した細菌学総論・各論の理解なくしては、実りある実習とならないため、実習前に微生物学の総復習を行っておくこと。					
テキスト・教材・ 参考書等		実習書ならびに資料を配布する。					
成績評価の方法		出席とレポートに加えて、筆記試験により評価する。					

授業科目		感染と免疫Ⅰ		授業担当 責 任 者	多田 浩之 口腔微生物・免疫学分野			
授業細目		口腔細菌学実習						
曜日一時限		集中実習	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3実習室	科目番号	DDE-DEN219J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：口腔の病原細菌の性状について理解させる。 概要：う蝕と歯周病に関連する病原細菌を培養・観察し、細菌学実験を通して性状を確認することで病原性について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：口腔の病原細菌の性状を理解する。 個別目標： ① う蝕と歯周病に関連する病原細菌の性状（グラム染色性、形態、配列、大きさ、コロニー性状）、培養法を説明できる。 ② う蝕に関連する病原細菌の酸産生能、多糖形成能について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1・2	口腔細菌の観察（グラム染色）【A-4-1-1】【H28：C-4-1）①】				多田 浩之 黒石 智誠		
	3・4	口腔レンサ細菌の性状（糖分解能、多糖産生能）【A-4-1-1】【H28：C-4-1）①】				多田 浩之 黒石 智誠		
	5・6	歯周病原細菌の観察（グラム染色）【A-4-1-1】【H28：C-4-1）①】				多田 浩之 黒石 智誠		
アドバイス		実習は各回の連続した実験で構成されるため、毎回の出席が必須である。 実習で得られた実験結果を元にレポートを作成するため、確実に実験結果を記録しておくこと。						
授業時間外学習		う蝕および歯周病の病原細菌の性状に関する総復習を実習前にしておくことが望ましい。						
テキスト・教材・ 参考書等		実習書ならびに資料を配布する。						
成績評価の方法		出席とレポートに加えて、筆記試験により評価する。						

授業科目	感染と免疫Ⅱ			授業担当	多田 浩之		
授業細目	免疫学入門			責 任 者	口腔微生物・免疫学分野		
曜日一時限	月－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN229J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：免疫学は生命科学のなかで歯学・医学と密接に関わる領域である。免疫の本質である「自己」と「非自己」の認識と、病原微生物に対する生体防御機構を理解する。 概要：免疫の根幹を成す「自然免疫」・「抗原提示」・「獲得免疫」・「免疫記憶」の全体像を体系的に学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：免疫学における概論を理解する。 個別目標： ① 免疫の本質と全体像を概説できる。 ② 免疫学の歴史を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	免疫学の基礎【A-4-2-1】【A-4-2-2】【H28:C-4-2)-①】【H28:C-4-2)-②】【H28:C-4-2)-③】				多田 浩之	
	2	免疫学の歴史【A-4-1-3】【H28 : C-4-1)③】				多田 浩之	
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 免疫の基本原則を体系的に把握するとともに、これまでに学んできた生命科学、基礎医学の知識と統合することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。					
授業時間外学習		あらかじめ、高等学校の生物基礎を復習することが望ましい。 さらに、下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配付資料の復習が必要である。					
テキスト・教材・参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、エッセンシャル免疫学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、戸田新細菌学（南山堂）					
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。					

授業科目		感染と免疫Ⅱ		授業担当	多田 浩之			
授業細目		免疫学総論		責 任 者	口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限		月－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN229J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：免疫学は生命科学のなかで歯学・医学と密接に関わる領域である。免疫の本質である「自己」と「非自己」の認識と、病原微生物に対する生体防御機構を理解する。 概要：免疫の根幹を成す「自然免疫」・「抗原提示」・「獲得免疫」・「免疫記憶」の全体像を体系的に学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：免疫の根幹を成す自然免疫・抗原提示・獲得免疫・免疫記憶を理解する。 個別目標： ① 自然免疫と獲得免疫、能動免疫と受動免疫を説明できる。 ② 免疫系を構成する因子（免疫担当臓器・免疫担当細胞・サイトカイン・サイトカイン受容体）について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	3	自然免疫と獲得免疫、能動免疫と受動免疫【A-4-2-1】 【A-4-2-2】【A-4-2-3】【H28:C-4-2）-①】【H28:C-4-2）-②】 【H28:C-4-2）-③】				多田 浩之		
	4	免疫系を構成する因子【A-4-2-1】【A-4-2-2】【A-4-2-3】 【H28:C-4-2）-①】【H28:C-4-2）-②】【H28:C-4-2）-③】				多田 浩之		
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 免疫の基本原理を体系的に把握するとともに、これまでに学んできた生命科学、基礎医学の知識と統合することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習		下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。なお、免疫学各論を理解するには、本講義を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、エッセンシャル免疫学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、戸田新細菌学（南山堂）						
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目		感染と免疫Ⅱ		授業担当 責 任 者	多田 浩之			
授業細目		免疫学各論 1 自然免疫と獲得免疫			口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限		月－1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN229J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：自然免疫系と獲得免疫系を理解する。 概要：免疫の根幹を成す免疫機構（自然免疫・抗原認識・獲得免疫）を中心に、最新の知見も含めて学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：免疫学における宿主の防御機構を理解する。 個別目標： ① 自然免疫における微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 ② 補体の機能と活性化経路を説明できる。 ③ 抗原認識の機序について説明できる。 ④ 獲得免疫応答（体液性免疫・細胞性免疫）の機序について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1・2		自然免疫 1 【A-4-2-1】【H28:C-4-2)-①】【H28:C-4-2)-③】				多田 浩之	
	3・4		自然免疫 2 / 補体 【A-4-2-1】【H28:C-4-2)-①】 【H28:C-4-2)-③】				多田 浩之	
	5・6		抗原認識（自然免疫から獲得免疫へ）【A-4-2-1】【A-4-2-2】 【A-4-2-3】【H28:C-4-2)-①】【H28:C-4-2)-②】 【H28:C-4-2)-③】【H28:C-4-2)-④】				多田 浩之	
	5・6		体液性免疫 【A-4-2-2】【A-4-2-3】【H28:C-4-2)-②】 【H28:C-4-2)-③】【H28:C-4-2)-④】				多田 浩之	
	7・8		細胞性免疫 【A-4-2-2】【A-4-2-3】【H28:C-4-2)-②】 【H28:C-4-2)-③】【H28:C-4-2)-④】				多田 浩之	
アドバイス		講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 免疫の基本原則を体系的に把握するとともに、これまでに学んできた生命科学、 基礎医学の知識と統合することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義 内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習		下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料 を中心とした復習が必要である。なお、免疫機構の破綻および粘膜の感染防御を 理解するには、本講義を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・ 参考書等		口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、エッセンシャル免疫学（メディカル・サイ エンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、戸田新細菌学（南山堂）						
成績評価の方法		筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫Ⅱ		授業担当	多田 浩之			
授業細目	免疫学各論2 免疫機構の破綻/粘膜免疫		責 任 者	口腔微生物・免疫学分野			
曜日一時限	月－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A３講義室	科目番号	DDE-DEN229J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：免疫機構の破綻および粘膜における感染防御を理解する。 概要：免疫機構の破綻である過敏症反応、自己免疫疾患、免疫不全症ならびに口腔粘膜を含む粘膜における免疫機構について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：免疫機構の破綻による生体防御機構の破綻および粘膜における感染防御機構について理解する。 個別目標： ① 過敏症反応、自己免疫疾患、免疫不全症を説明できる。 ② 粘膜免疫を説明できる。 ③ 口腔粘膜における免疫応答を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	９・１０	過敏症反応（アレルギー）【A-4-2-6】【H28:C-4-2）-⑤】				多田 浩之	
	１１・１２	自己免疫疾患/免疫不全症【A-4-2-5】【A-4-2-6】 【H28:C-4-2）-⑥】				黒石 智誠	
	１３・１４	粘膜免疫【A-4-2-4】【H28:C-4-2）-⑦】				黒石 智誠	
	１５・１６	ワクチン/抗原非特異的免疫療法【A-4-2-7】【H28:C-4-2）-⑧】				黒石 智誠	
	１７・１８	口腔免疫学【A-4-2-4】【H28:C-4-2）-⑦】				多田 浩之	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。 免疫の基本原則を体系的に把握するとともに、これまでに学んできた生命科学、基礎医学の知識と統合することが望ましい。そのためには、暗記に頼らずに講義内容を理解してノートにまとめることが重要である。						
授業時間外学習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。なお、本講義を理解するには、これまでの学習内容を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、エッセンシャル免疫学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、戸田新細菌学（南山堂）						
成績評価の方法	筆記試験と出席により総合的に評価する。						

授業科目		感染と免疫Ⅱ		授業担当	多田 浩之		
授業細目		感染と免疫 特論		責 任 者	口腔微生物・免疫学分野		
曜日一時限	月－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	A 3 講義室	科目番号	DDE-DEN229J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：生体防御免疫に関する先端研究について理解する。 概要：生体防御機構の解明には多年にわたる微生物学・免疫学研究の発展による貢献があるが、今なお多くの未解明な科学的課題がある。大学における研究ではその課題解決のため先端的研究が進められていることを学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：生体防御機構に関する異分野の先端研究を学習し、微生物学・免疫学の重要性を理解する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１・２	免疫を標的とした皮膚創傷治癒・バイオフィルムを含めた感染の制御【RE-02】【RE-03】【A-4-1-5】【A-4-2-1】【H28:C-4-1】-③【H28:C-4-2】-①】				菅野恵美 (医学系研究科)	
	３・４	食生産現場における感染と免疫【RE-02】【RE-03】【A-4-2-2】【A-4-2-4】【H28:C-4-2】-②【H28:C-4-2】-⑦】				野地智法 (農学研究科)	
アドバイス		医学および農学における微生物学・免疫学に関する先端的研究に触れることで、これまでの学びと関連させて学習することで「学際的思考」を修得して欲しい。					
授業時間外学習		受講に際して、これまで受けた講義の内容を再確認しておくことが望ましい。さらに、受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。					
テキスト・教材・参考書等		資料を配布する。					
成績評価の方法		出席とレポートにより総合的に評価する。					

授業科目		病理総論		授業担当		熊本 裕行			
授業細目		病理総論		責 任 者		口腔病理学分野			
曜日一時限		金－１・２	対象年次 学期	２年次 ４セメスター		講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN227J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：各組織、臓器に共通して生じうる基本となる疾病の体系を理解する。 概要：病理学の体系で基本となる循環障害、先天異常、代謝障害、修復、炎症（免疫異常を含む）、腫瘍について、用語、概念、分類等の基礎的知識を習得する。							
学習の到達 目標		一般目標：各分類項目で病理学用語および分類を用いて基本的な考え方が理解できる。 個別目標：各分類を代表する疾病を通じて総論で学んだ知識を応用して病態を説明する力をつける。							
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者		
	1		概論				熊本 裕行		
	2・3		代謝障害【A-5-2-1, A-5-2-2, A-5-2-3, A-5-2-4, A-5-2-5】				熊本 裕行		
	4・5		循環障害【A-5-4-1, A-5-4-2, A-5-4-3, A-5-4-4, A-5-4-5, A-5-4-6】				熊本 裕行		
	6～9		炎症【A-5-5-1, A-5-5-2, A-5-5-3, A-5-5-4, A-5-5-5】				熊本 裕行		
	10・11		修復【A-5-3-1, A-5-3-2, A-5-3-3, A-5-3-4, A-5-3-5】				熊本 裕行		
	12		先天異常【A-5-1-1, A-5-1-2】				熊本 裕行		
	13～15		腫瘍【A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-3, A-5-6-4, A-5-6-5, A-5-6-6】				熊本 裕行		
アドバイス		病理学の理解には、正常の人体の構造・機能、組織学の知識が不可欠である。また病理総論では、まずは病理学用語、概念、分類について自分の言葉で説明できるようにする。							
授業時間外学習		予習としては平易な教科書を読んで全体をつかんでおく。復習として講義内容について複数の参考書を読み多様な表現から理解を深めるとよい。							
テキスト・教材・参考書等		平易な教科書：わかりやすい病理学（恒吉正澄他）南江堂、シンプル病理学（笹野公伸ほか）南江堂、比較的詳しい教科書：エッセンシャル病理学（笹野公伸他）医歯薬、標準病理学（北川昌伸他）医学書院、参考書：Pathologic Basis of Disease(Kumar V 他)Saunders							
成績評価の方法		筆記試験にて評価を行う。試験は病理総論顕微鏡実習の内容を含む。（再試験は１回まで行う。）							

授業科目	病理総論		授業担当	熊本 裕行			
授業細目	病理総論顕微鏡実習		責 任 者	口腔病理学分野			
曜日一時限	金－１・２	対象年次 学期	２年次 ４セメスター	講義室名	B2 実習室	科目番号	DDE-DEN227J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：病理学総論で学んだ体系において、代表的な疾患を顕微鏡で観察し、正常との違いや病態の特徴を確認、説明できるようにする。 概要：病理学の体系で基本となる循環障害、先天異常、代謝障害、修復、炎症（免疫異常を含む）、腫瘍における特徴となる所見を探してスケッチを行う。						
学習の到達 目標	一般目標：様々な疾患について、まずは臓器名を確認し、そこに含まれる正常組織と特徴となる病態を探することができる。 個別目標：各標本で病態の時間的経過が異なるため、発症から治癒までの流れを踏まえて、観察する疾患の進行状況を考える力をつける。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	１・２	代謝障害 【A-5-2-1, A-5-2-2, A-5-2-3, A-5-2-4, A-5-2-5】					熊本 裕行
	３・４	循環障害 【A-5-4-1, A-5-4-2, A-5-4-3, A-5-4-4, A-5-4-5, A-5-4-6】					
	５・６	修復 【A-5-3-1, A-5-3-2, A-5-3-3, A-5-3-4, A-5-3-5】					
	７～１０	炎症 【A-5-5-1, A-5-5-2, A-5-5-3, A-5-5-4, A-5-5-5】					
	１１～１４	腫瘍 【A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-3, A-5-6-4, A-5-6-5, A-5-6-6】					
アドバイス	標本観察において正常組織の理解は不可欠である。組織学の教科書も持参して正常構造との違いについて時間をかけてみていくこと。また常に観察する標本から立体像と時間経過を考える。組織学が未修のため、必要に応じて説明するため、組織学の教科書、アトラスなども用意すること。						
授業時間外学習	予習としては事前に配布する標本の疾患名リストを教科書で調べて、原因、病態などを事前に理解しておくことよい。復習についてはアトラスに加え実習で書いたスケッチまたバーチャルスライドを利用し、各疾患の特徴を整理する。						
テキスト・教材・参考書等	カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断（赤木 忠厚他）医歯薬出版						
成績評価の方法	病理総論の筆記試験に含ませ病理総論と一括で評価する。（再試験は１回まで行う。）すべての出席を原則とする。欠席時は担当者の指示を仰ぐこと。						

授業科目		口腔病理		授業担当	熊本 裕行		
授業細目		歯および歯周疾患の病理		責 任 者	口腔病理学分野		
曜日一時限	火－１ 水－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN228J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯および歯周組織にみられる多様な疾患について、原因、病態、予後を理解する。 概要：歯にみられる疾患と歯を支える歯周組織にみられる疾患について、原因を整理し、病態を分類、予後を考えることを学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：歯および歯周組織の疾病について病因、病態、病理学用語および分類を理解する。 個別目標：各項目を代表する多彩な疾病について肉眼的、病理組織学的に説明できる。病理総論での知識が活用できるようにする。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１・２	歯の発育異常・損傷・付着 【D-3-2-1】				熊本 裕行	
	３	齲蝕 【D-3-2-1】				熊本 裕行	
	４	歯髄・根尖病変 【D-3-2-2】				熊本 裕行	
	５	辺縁性歯周組織病変 【D-3-2-3】				熊本 裕行	
アドバイス		歯および歯周組織疾患は臨床でも最も重要な治療対象の１つである。臨床につながる肉眼的所見を病理組織学的所見と重ね合わせて考えるように意識することが重要である。					
授業時間外学習		予習としては参考資料として紹介する成書を読んで概略、分類を把握しておくとうよい。病理診断は改定されることがあるので、最新刊の参考書で確認しなければならないこともある。					
テキスト・教材・参考書等		新口腔病理学（下野正基ほか）医歯薬出版 Oral and Maxillofacial Pathology (Neville BW ほか) Saunders Oral Pathology (Regezi JA ほか) Saunders					
成績評価の方法		口腔病理学として顎口腔の病理と合わせて筆記試験にて評価を行う。試験は口腔病理学実習の内容を含む。（再試験は１回まで行う。）					

授業科目		口腔病理		授業担当 責 任 者	熊本 裕行		
授業細目		顎口腔の病理			口腔病理学分野		
曜日一時限	火－1 水－1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN228J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：顎口腔領域における硬組織、軟組織に発症する多彩な疾病について原因、病態、分類等を修得する。 概要：口腔粘膜、顎骨、唾液腺など歯、歯周組織を除く口腔構成諸組織にみられる疾患の分類、病態を体系的に習得する。					
学習の到達 目標		一般目標：顎口腔領域の硬組織、軟組織に発症する多彩な疾病の病名とその原因、病態、分類などの特徴を理解する。 個別目標：顎口腔領域の疾病について、病理総論の知識を活用して説明できるようにする。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	顎口腔の発育異常 【D-3-1-1-1, D-3-1-1-4】				熊本 裕行	
	2・3	口腔粘膜病変 【D-3-1-4-1】				熊本 裕行	
	4・5	顎骨・顎関節病変【D-3-1-2-5, D-3-1-7-1】				熊本 裕行	
	6・7	嚢胞 【D-3-1-5-1】				熊本 裕行	
	8・9	歯原性腫瘍 【D-3-1-6-1】				熊本 裕行	
	10・11	口腔腫瘍 【D-3-1-6-1, D-3-1-6-2, D-3-1-6-5, D-3-1-6-6】				熊本 裕行	
	12・13	唾液腺病変【D-3-1-8-1～7】				熊本 裕行	
	14・15	口腔病理学特論				熊本 裕行	
アドバイス		顎口腔領域には特異的な疾病も多く、正常構造、発生に加え、総論的な疾病の理解が不可欠である。様々な分類があり、分類の理解は疾患そのものの理解にもつながることが多いのでしっかり勉強する。					
授業時間外学習		講義内容については参考書などを参照して復習する必要がある。実習については予め観察する疾患名を記した資料を配付するので予習を行うこと。またバーチャルスライドシステムによる復習を推奨する。					
テキスト・教材・参考書等		新口腔病理学（下野正基ほか）医歯薬出版 Oral and Maxillofacial Pathology(Neville BW ほか) Saunders Oral Pathology(Regezi JA ほか) Saunders					
成績評価の方法		口腔病理学として歯および歯周疾患の病理と合わせて筆記試験にて評価を行う。試験は口腔病理学顕微鏡実習の内容を含む。（再試験は1回まで行う。）					

授業科目	口腔病理			授業担当 責 任 者	熊本 裕行			
授業細目	歯および歯周疾患の病理・顎口腔の病理顕微鏡実習				口腔病理学分野			
曜日一時限	火－１ 水－１・２	対象年次 学期	３年次 ５セメスター		講義室名	B2 実習室	科目番号	DDE-DEN228J
授業の目標並びに目的と概要	目標と目的：歯および歯周組織また顎口腔領域の硬組織、軟組織に発症する多彩な疾病の標本を顕微鏡で観察し、特徴的な病態のスケッチ等を行う。 概要：代表的な疾病の標本を観察し、病理診断名が推察できるようにすることに加え、標本から原因、予後を考える。							
学習の到達目標	一般目標：歯および歯周組織、顎口腔領域の硬・軟組織に発症する多彩な疾病について特徴となる病態をみつけて、診断名を推測できるようにする。 個別目標：各症例の病態分類から原因、予後を考える力をつける。							
授業計画 画	回数	授 業 内 容				担 当 者		
	１・２	歯の発育異常・損傷・付着 【D-3-2-1】				熊本 裕行		
	３・４	齲蝕 【D-3-2-1】						
	５・６	歯髄・根尖部病変 【D-3-2-2】						
	７・８	辺縁性歯周組織病変 【D-3-2-3】						
	９・１０	顎口腔の発育異常 【D-3-1-1-1, D-3-1-1-4】						
	１１・１２	口腔粘膜病変 【D-3-1-4-1】						
	１３・１４	顎骨・顎関節病変【D-3-1-2-5, D-3-1-7-1】						
	１５・１６	嚢胞 【D-3-1-5-1】						
	１７・１８	歯源性腫瘍 【D-3-1-6-1】						
	１９・２０	口腔腫瘍 【D-3-1-6-1, D-3-1-6-2, D-3-1-6-4～6】						
	２１・２２	唾液腺病変【D-3-1-8-1～7】						
アドバイス	口腔領域での疾病に限定するが、口腔内の詳細な正常構造を把握しておく必要があるため、口腔解剖、組織のアトラス等があれば、持参し比較しながら観察を行う方がよい。標本内に含まれる正常組織と比較することも可能である。教員とのディスカッションは理解を深めるのに役立つと思われるので遠慮なく質問をすること。							
授業時間外学習	予習については病理学総論と同様に事前に観察標本の疾患リストを配布するので、各疾患に関する基本的な知識を得てから実習を行うことが望ましい。復習にはアトラス、スケッチ、バーチャルスライドシステムを用いるとよい。							
テキスト・教材・参考書等	口腔病理アトラス（高木 實他）文光堂							
成績評価の方法	口腔病理学として筆記試験に含ませ一括で評価する。（再試験は１回まで行う。）すべての出席を原則とする。欠席時は担当者の指示を仰ぐこと。							

授業科目	口腔修復学Ⅰ			授業担当 責任者	齋藤 正寛 歯科保存学分野		
授業細目	保存修復学						
曜日一時限	木-4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B 3 講義室	科目番号	DDE-DEN301J
授業の目標 並びに目的 と概要	保存修復学の目的、理念、修復に必要な総括的事項： 歯の硬組織疾病の種類と病因、歯髄保存療法、病態の把握に関する基礎知識を習得する						
学習の到達 目標	一般目標：保存修復学における総論的内容を理解する。 個別目標： ① 硬組織疾患を説明できる。 ② 窩洞形成の基本概念を説明できる。 ③ コンポジットレジン修復、グラスアイオノマー修復の手技を説明出来る。 ④ 各種インレーの特徴及び手技を説明出来る。 ⑤ 審美修復、漂白、minimal intervention(MI)の基本知識と手技を説明出来る。 ⑥ 再生医療の概念を説明出来る。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	保存修復学の目的と切削の基本理念【A-1-3)①】				齋藤 正寛	
	2	う蝕の種類およびう蝕以外の硬組織疾患【E-3-3)-(1)①】				"	
	3	治療姿勢、医療面接、検査方法【E-1-1)①】 【E-1-1)②】 【E-1-1)③】 【E-1-1)④】 【E-3-3)-(1)①】				"	
	4	切削の講義、窩洞形成の基本概念【E-3-3)-(1)②】 【E-3-3)-(1)⑥】				鎌野優弥	
	5	歯髄保存療法【E-3-3)-(1)⑤】				"	
	6	アドバンス講義【A-8-1)①】 【A-9-1)②】				特別講師	
	7	直接修復、コンポジットレジンの基礎【D-2-①】 【E-3-3)-(1)③】 【E-3-3)-(1)④】				齋藤 正寛	
	8	直接修復：コンポジットレジン手技 1【E-3-3)-(1)③】 【E-3-3)-(1)④】				"	
	9	直接修復：コンポジットレジン手技 2【E-3-3)-(1)③】 【E-3-3)-(1)④】 【E-3-3)-(1)⑧】				"	
	10	グラスアイオノマー修復の基礎と臨床【D-2-①】 【E-3-3)-(1)③】				特別講師 "	
	11	鑄造修復【D-2-②】 【D-2-③】 【E-3-3)-(1)⑥】 【E-3-3)-(1)⑦】					
	12	コンポジットレジンインレー、ポーセレンインレー【E-3-3)-(1)⑥】 【E-3-3)-(1)⑦】				齋藤 正寛	
	13	補修修復、審美修復、漂白、ベニア【E-3-3)-(1)⑥】 【E-3-3)-(1)⑦】 【E-3-3)-(1)⑧】				"	
	14	再生医療の基本概念【C-5-3)①】				"	
15	アドバンス講義【A-9-1)③】 【A-7-2)②】				特別講師		
アドバイス	● 歯の解剖学、微生物学、免疫学、生化学など基礎歯科医学の用語に耳馴染みがなければ"なぜ病気になりなにをしたら治る"かを理解できない。講義に参加する前にこれらの知識の復習を。 ● 将来の歯科臨床の実践に必須であり、やむを得ない場合を除き遅刻・欠席は認めない。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00に office hour を設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯科保存学分野研究室に質問に来るように。						

授業時間外学習	保存修復学の幅広い学問内容について理解を深めるためには、下記テキスト等による授業の復習は必須である。授業は要約講義であり、配布資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。
テキスト・教材・参考書等	本講義用の資料を毎回配布する。 第6版 保存修復学 21（永末書店、2022） 第7版 保存修復学（医歯薬出版、2019）
成績評価の方法	出席状況、履修態度、実習プロダクト、定期試験結果を総合評価する。

モデル・コア・カリキュラム

授業科目	項目	
口腔修復学ⅠA	A 基本事項	4) ①②③ 6-1) ①②③ 6-2) ①②③④
	D 歯科生体材料と歯科材料・器機	2) ①②③④⑥⑦
	E 臨床歯学教育	3-1) ①②③⑤ 3-2) ①②③④⑤⑥ 3-3) -(1) ①-⑪ -(4) ①

授業科目		口腔修復学Ⅰ		授業担当 責 任 者	齋藤 正寛 ○鎌野 優弥 他 歯科保存学分野		
授業細目		保存修復学実習					
曜日・時限	金-1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN301J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯科診療における基本的な治療姿勢、器材の使用法を理解し、高頻度治療である成形修復治療・接着性修復治療の術式を修得することを目標とする。人工歯、顎模型を用いて一連の治療技術を習得する。					
学習の到達 目標		一般目標：保存修復学における成形充填の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① 歯科治療における基本的な器材を正しく使える。 ② ラバーダム防湿が正しくできる。 ③ う蝕除去が正しくできる。 ④ コンポジットレジン充填が正しくできる。 ⑤ インレー窩洞形成が正しくできる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	Orientation, 器材配布：治療姿勢、器材の使用法、メンテナンス等歯牙植立：人工歯牙植立【F-1-2)①】【F-1-2)②】【F-3-1)①】【F-3-1)②】				鎌野 優弥 他	
	2	実習準備、器具説明、植立模型作製【F-1-2)①】【F-1-2)②】				"	
	3	直接覆髄【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	4	う蝕除去、齲蝕除去歯の成形充填【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	5	窩洞形成、成形修復実習1： 1級コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	6	窩洞形成、成形修復実習2： 3級、4級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	7	窩洞形成、成形修復実習3： 5級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	8	窩洞形成、成形修復実習4： WSD グラスアイオノマー窩洞形成、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	9	窩洞形成、成形修復実習5： 2級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	10	窩洞形成、成形修復実習6： 2級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	11	実技試験1（評価を含む）【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	12	2級メタルインレー窩洞形成法1【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	13	2級メタルインレー窩洞形成法2【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
	14	2級メタルインレー窩洞形成法3【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"	
15	実技試験2（評価を含む）【F-3-1)②】【F-3-3)①】				"		

アドバイス	● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。一人一人が患者さんを診察する想定で実習に臨むこと。すなわち不適切な身なり・服装での実習参加は認めない。またやむを得ない場合を除き欠席、遅刻を認めない。 ● 実習は講義と連動するため、講義内容の理解が不十分だと単に手を動かすだけの時間になってしまい治療技術を習得できないので気をつけること。 ● 実習中の疑問点は実習時間中にライターへ質問することを推奨する。ライターからは答えではなくアドバイスをもらい、自ら復習することで理解を深められる。
授業時間外学習	実習時間は限られているため、基礎知識がなければ処置の意味を理解することも難しい。実習時間を無駄にしないために講義の復習は必須であり、加えてあいまいな基礎歯科医学の知識は必ず復習してから実習に臨んでほしい。
テキスト・教材・参考書等	本実習用の実習書を配布する。 以下参考書 第6版 保存修復学 21（永末書店、2022） 第7版 保存修復学（医歯薬出版、2019）
成績評価の方法	出席状況, 履修態度, 実習プロダクト, 定期試験結果を総合評価する。

モデル・コア・カリキュラム

授業科目	項目	
口腔修復学Ⅰ	A 基本事項	4) ①②③ 6-1) ①②③ 6-2) ①②③④
	D 歯科生体材料と歯科材料・器械	2) ①②③④⑥⑦
	E 臨床歯学教育	3-1) ①②③⑤ 3-2) ①②③④⑤⑥ 3-3) -(1) ①-⑪ -(4) ①②

授業科目		口腔修復学ⅡA		授業担当	江草 宏		
授業細目		クラウンブリッジ補綴学総論		責 任 者	分子・再生歯科補綴学分野		
曜日一時限	月－1 火－3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4講義室	科目番号	DDE-DEN322J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：クラウンブリッジ補綴学における総論的内容を理解する。 概要：クラウンブリッジ補綴学の概論について説明を受け、講義およびPBLを介してクラウンブリッジ治療に必要な診察・検査・診断・治療計画の一連の流れを学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：クラウンブリッジ補綴学の意義・重要性およびクラウンブリッジ治療の診察から治療計画までの流れを理解する。 個別目標： ① クラウンブリッジ補綴学の目的を説明できる。 ② クラウンブリッジの要件、種類を説明できる。 ③ クラウンブリッジ補綴治療の診察から治療計画までの流れを説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	クラウンブリッジ補綴学概説【D-5-3-1-1】【H28:E-3-4)-(1)①】				江草 宏	
	2	クラウンブリッジの種類【D-5-3-1-2】【H28:E-3-4)-(1)②】				江草 宏	
	3	診察、検査、診断 【D-4-2-1】【H28:E-1-1)①～⑧、E-1-2)⑥⑦、E-2-2)①④】				江草 宏	
	4	PBL-1（治療計画）：課題提示【D-4-2-2】【H28:A-4-1)②、F-3-4)①】				江草 宏	
	5～7	PBL-1（治療計画）：グループ討論、発表、全体討論 【D-4-2-3】【E-5-3-4-1-1】【H28:A-4-1)②、F-3-4)①】				江草 宏他	
アドバイス		● 本授業科目では、クラウンブリッジ補綴学を「これ以上歯質や歯の欠損を拡大しないための固定性補綴の学問」としてとらえ、講義内容（総論と各論）が実習と連動する形で行われる。 ● 授業前に各自が分野HPから講義資料をダウンロードし、講義に臨むこと。 ● 授業には必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● PBL形式の授業では、ディベート、グループ・ディスカッション、グループ・ワークへの積極的な参加を心がけ、討議ができるよう準備をして授業に臨むこと。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の16:00-17:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。					
授業時間外学習		クラウンブリッジ補綴学の幅広い内容について理解を深めるためには、下記テキストによる授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、講義資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。					
テキスト・教材・参考書等		クラウンブリッジ補綴学（第6版）医歯薬出版 2021 冠橋義歯補綴学テキスト（第6版）永末書店 2025					
成績評価の方法		形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。					

授業科目	口腔修復学ⅡA			授業担当 責 任 者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野		
授業細目	クラウンブリッジ補綴学各論						
曜日一時限	月－1 火－3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4講義室	科目番号	DDE-DEN322J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：クラウンブリッジ治療の一連の流れを，生物学的，材料学的，審美的な観点から理解する。 概要：各種クラウンブリッジの治療ステップについて，講義および PBL を介してその具体的意義を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：クラウンブリッジの選択および治療過程を，クラウンブリッジの要件と関係づけて理解する。 個別目標： ① クラウンブリッジ治療および技工の各過程を説明できる。 ② クラウンブリッジ治療の一連の流れを説明できる。 ③ クラウンブリッジ治療について生物学観点から説明できる。 ④ クラウンブリッジ治療について材料学的な観点から説明できる。 ⑤ クラウンブリッジ治療について審美的な観点から説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	補綴前処置，支台築造【D-5-3-1-3】【H28:E-3-4)-(1)③】				長崎敦洋	
	3	支台歯形成・プロビジョナルレストレーション 【D-5-3-1-4】【D-5-3-1-8】【H28:D-1③, E-3-4)-(1)④⑦】				原田章生	
	4	印象採得，色調選択【D-5-3-1-5】【D-5-3-1-7】【H28:E-3-4)-(1)⑤⑥】				大川博子	
	5	印象採得物の消毒・院内感染対策【A-4-1-8】【A-4-1-9】 【H28:A-6-1)⑥, A-6-3)①②】				江草 宏	
	6	咬合採得【D-5-3-1-6】【H28:E-3-4)-(1)⑤, E-3-4)-(2)⑧】				江草 宏	
	7	作業用模型・咬合器【D-5-3-1-10】【H28:E-3-4)-(1)⑨⑩】				長崎敦洋	
	8	ワックスパターン形成【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4)-(1)②⑧】				長崎敦洋	
	9	埋没，鋳造，研磨【D-5-3-1-9】【F28:E-3-4)-(1)②⑧】				長崎敦洋	
	10	試適，合着セメント，術後管理【D-5-3-1-12】【D-5-3-1-13】 【H28:D-2③, E-3-4)-(1)⑪～⑬】				長崎敦洋	
11	歯科金属・材料アレルギー【D-6-1-1】【H28:D-1①②】				高 永和 (大阪府開業)		
アドバイス	● 本授業科目では，クラウンブリッジ補綴学を「これ以上歯質や歯の欠損を拡大しないための固定性補綴の学問」としてとらえ，講義内容が実習と連動する形で行われる。 ● 授業前に各自が分野 HP から講義資料をダウンロードし，講義に臨むこと。 ● 授業には必ず出席し，遅刻，居眠りなどしないように。 ● 授業期間中，授業当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習	クラウンブリッジ補綴学の幅広い内容について理解を深めるためには，下記テキストによる授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり，講義資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。						
テキスト・教材・ 参考書等	クラウンブリッジ補綴学（第6版）医歯薬出版 2021 冠橋義歯補綴学テキスト（第6版）永末書店 2025						
成績評価の方法	形成的評価を，授業態度（講義・実習），実習小テスト，実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い，総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では，総論，各論，関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学ⅡA			授業担当 責任者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野		
授業細目	クラウンブリッジ補綴学実習 1						
曜日一時限	月－1 火－3・4	対象年次 学期	3 年次 6 セメスター	講義室名	B 3 実習室 B 4 実習室	科目番号	DDE-DEN322J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：全部鑄造冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通して全部鑄造冠による歯冠修復治療の術式および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：全部鑄造冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① 全部鑄造冠治療の基本的手技を具体的に述べることができる。 ② 全部鑄造冠作製の基本的技工操作を具体的に述べることができる。 ③ 下顎大臼歯の解剖学的な歯冠形態をワックスパターンで説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	実習概説【H28:A-3⑤, A-4-1)②, A-4-2)②】				江草 宏, 他	
	2・3	概形印象採得, 研究用模型作成 【D-5-3-1-5, 10】【H28:F-3-1)⑤⑥】				長崎敦洋, 他	
	4～8	全部鑄造冠支台歯形成 【D-5-3-1-4, E-5-3-4-1-3】【H28:D-1③, F-3-4)③】				長崎敦洋, 他	
	9・10	精密印象採得（シリコーンラバー印象） 【D-5-3-1-5, E-5-3-4-1-4】【H28:F-3-4)⑥】				長崎敦洋, 他	
	11	精密印象採得（寒天アルジネート連合印象）, 咬合採得 【D-5-3-1-5, E-5-3-4-1-4】【H28:F-3-4)⑥, F-3-4)⑧】				長崎敦洋, 他	
	12～15	作業用模型作製, 咬合器装着 【D-5-3-1-10】【H28:E-3-4)-(1)②】				長崎敦洋, 他	
	16～19	全部鑄造冠ワックスパターン形成 【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4)-(1)②】				長崎敦洋, 他	
	20～22	全部鑄造冠埋没, 鑄造 【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4)-(1)②】				長崎敦洋, 他	
アドバイス	23～25	全部鑄造冠試適, 調整, 研磨, 合着 【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4)-(1)②】				長崎敦洋, 他	
	● 模型実習は, 講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり, 模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し, 欠席, 遅刻をしないように。届けでなき欠席は, 1 回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり, 実習書を分野 HP からダウンロードし, 十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中, 実習当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C 棟 7 階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習	限られた実習時間内で理解を深めるためには, 実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう, 十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い, 当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・参考書等	クラウンブリッジテクニック（第 2 版）医歯薬出版 2018 冠橋義歯補綴学テキスト（第 6 版）永末書店 2025 クラウンブリッジ補綴学（第 6 版）医歯薬出版 2021						
成績評価の方法	形成的評価を, 授業態度（講義・実習）, 実習小テスト, 実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い, 総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では, 総論, 各論, 関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目		口腔修復学ⅡA		授業担当 責 任 者	江草 宏			
授業細目		クラウンブリッジ補綴学 関連領域・先端技術論			分子・再生歯科補綴学分野			
曜日－時限		月－1 火－3・4	対象年次 学期	3 年次 6 セメスター	講義室名	B 4 講義室	科目番号	DDE-DEN322J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：自分の目指す歯科医師を想像するために、クラウンブリッジ関連技術を例に先端の 歯科医療技術・研究を知ること、歯科医師の多様なニーズおよびチャンスを意識する。 概要：クラウンブリッジに関連する技術および先端研究について、講義あるいはPBL を介してそ の基礎知識を学び、得た知識を参考に自分の目指す歯科医師を想像する。						
学習の到達 目標		一般目標：自分の目指す歯科医師を想像するために、クラウンブリッジの関連技術を中心に近未 来の歯科医療の動向を理解し、歯科医師という職業のやりがいと魅力を考察する。 個別目標： ① スポーツ歯科の具体的目標について説明できる。 ② デジタルデンティストリーの現状を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		スポーツ歯科【C-5-7】【D-5-1-7】【H28:A-1-3)①, A-5-1)①】				近藤尚知 (岩手医科大学)	
	2		デジタルデンティストリー（CAD/CAM テクノロジー） 【B-3-4】【H28:E-3-4)-(1)②】				馬場一美 (昭和大学)	
アドバイス		● 本授業では、先端のクラウンブリッジ関連技術を学ぶことで、これからの社会にお ける固定性補綴のニーズおよび自分の将来の歯科医師像を考えていく。講義内容を参考 に与えられたテーマにグループで取り組む。 ● グループ作業をはじめ、授業への能動的な参加を求める。積極的な討議ができるよ う、準備をして授業に臨むこと。 ● 授業期間中、授業当日の16:00-17:00 に office hour を設ける。授業内容について 質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習		予習・復習には、下記テキストに加え、図書館、インターネット、フィールドワークか ら得られる情報を活用すること。						
テキスト・教材・ 参考書等		クラウンブリッジ補綴学（第6版）医歯薬出版 2021 冠橋義歯補綴学テキスト（第6版）永末書店 2025						
成績評価の方法		形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL 内容 をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験で は、総論、各論、関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価す る。						

授業科目		口腔修復学ⅡB		授業担当		江草 宏			
授業細目		クラウンブリッジ補綴学各論		責 任 者		分子・再生歯科補綴学分野			
曜日一時限		木ー2	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター		講義室名	B 4 講義室	科目番号	DDN-DEN-323J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：クラウンブリッジ治療の一連の流れを、生物学的、材料学的、審美的な観点から理解する。 概要：各種クラウンブリッジの治療ステップについて、講義および PBL を介してその具体的意義を学ぶ。							
学習の到達 目標		一般目標：クラウンブリッジの選択および治療過程を、クラウンブリッジの要件と関係づけて理解する。 個別目標： ① クラウンブリッジ治療および技工の各過程を説明できる。 ② クラウンブリッジ治療の一連の流れを説明できる。 ③ クラウンブリッジ治療について生物学観点から説明できる。 ④ クラウンブリッジ治療について材料学的な観点から説明できる。 ⑤ クラウンブリッジ治療について審美的な観点から説明できる。							
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容					担 当 者	
	1		レジン前装冠，陶材焼付冠 【D-5-3-1-2】【H28:A-2-2）①～③，D-2②】					原田章生	
	2		オールセラミッククラウン，コンポジットレジンクラウン，ラミネートベニア【D-5-3-1-2】【H28:A-2-2）①～③，D-2②】					小峰 太 (日本大学)	
	3		ブリッジ概説（臨床的意義・構成，支台歯負担・形成） 【D-5-3-1-1】【H28:E-3-4）-(1)①②】					長崎敦洋	
	4		ブリッジの製作（連結法の種類，ろう付け） 【D-5-3-1-2】【H28:E-3-4）-(1)②⑧】					新部邦透	
	5・6		口腔インプラント支台のクラウンブリッジ 【D-5-3-3-5, 6, 7, 8】【H28:D-2⑤，E-3-4）-(3)⑥～⑧】					西村正宏 (大阪大学)， 大川博子	
	7		オーラルアプライアンス【D-3-1-11-6】【H28:E-2-4）-(11)⑥】					大川博子，長崎敦洋	
	8		歯科金属・材料アレルギー【D-6-1-1】【H28:D-1①②】					江草 宏	
アドバイス		● 本授業科目では、クラウンブリッジ補綴学を「これ以上歯質や歯の欠損を拡大しないための固定性補綴の学問」としてとらえ、講義内容が実習と連動する形で行われる。 ● 授業前に各自が分野 HP から講義資料をダウンロードし、講義に臨むこと。 ● 授業には必ず出席し、遅刻，居眠りなどしないように。 ● 授業期間中，授業当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C 棟 7 階）に気軽に質問に来るように。							
授業時間外学習		クラウンブリッジ補綴学の幅広い内容について理解を深めるためには、下記テキストによる授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり，講義資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。							
テキスト・教材・参考書等		クラウンブリッジ補綴学（第 6 版）医歯薬出版 2021 冠橋義歯補綴学テキスト（第 6 版）永末書店 2025							
成績評価の方法		形成的評価を，授業態度（講義・実習），実習小テスト，実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い，総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では，総論，各論，関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。							

授業科目		口腔修復学ⅡB		授業担当 責 任 者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野		
授業細目		クラウンブリッジ補綴学 関連領域・先端技術論					
曜日一時限	木ー 2・3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B4講義室 B3実習室	科目番号	DDN-DEN-323J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：自分の目指す歯科医師を想像するために、クラウンブリッジ関連技術を例に先端の歯科医療技術・研究を知ること、歯科医師の多様なニーズおよびチャンスを意識する。 概要：クラウンブリッジに関連する技術および先端研究について、講義あるいはPBLを介してその基礎知識を学び、得た知識を参考に自分の目指す歯科医師を想像する。						
学習の到達 目標	一般目標：自分の目指す歯科医師を想像するために、クラウンブリッジの関連技術を中心に近未来の歯科医療の動向を理解し、歯科医師という職業のやりがいと魅力を考察する。 個別目標： ① 再生医療を固定性補綴治療と関連して説明できる。 ② MI（ミニマルインターベンション）の観点から、歯周補綴、短縮歯列、接着技術、インプラント治療を説明できる。 ③ 将来の歯科医療において求められる技術実装戦略を、研究・臨床・社会的視点から整理できる。 ④ 先端歯科医療技術や近未来の歯科医療の動向について資料を収集できる。 ⑤ 収集した資料をもとに自分にとって理想的な歯科医師像を考察し、その内容について討議できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	再生医療のクラウンブリッジ治療への展開【H28:A-8-(1)①③】				江草 宏	
	2	歯周病患者におけるクラウンブリッジ治療【H28:E-3-3)-(3)②, A-9-1)①～③】				菅野太郎	
	3	口腔インプラント補綴治療の実際と展望【H28:A-8-(1)①③】				山田 将博	
	4	近未来歯科の実装戦略：科学的根拠と技術の橋渡し【H28:A-8-(1)①③】				二川 宏樹 (広島大学)	
	4	PBL-3（自分の目指す歯科医師像）：概略説明・予習課題提示【H28:A-1-3)①, A-2-1)①～⑤, A-4-1)②, A-9-1)①～③】				江草 宏	
	5・6	PBL-3：グループ分け、予習課題討論、発表課題提示【H28:A-1-3)①, A-2-1)①～⑤, A-4-1)②, A-9-1)①～③】				江草 宏, 他	
	7・8	PBL-3：グループ討論、発表資料作成【PR-01～06】【LL-01～05】【H28:A-1-3)①, A-2-1)①～⑤, A-4-1)②, A-9-1)①～③】				江草 宏, 他	
	9・10	PBL-3：発表、全体討論【PR-01～06】【LL-01～05】【H28:A-1-3)①, A-2-1)①～⑤, A-4-1)②, A-9-1)①～③】				全教員	
アドバイス	● 本授業では、先端のクラウンブリッジ関連技術を学ぶことで、これからの社会における固定性補綴のニーズおよび自分の将来の歯科医師像を考えていく。講義内容を参考に与えられたテーマにグループで取り組む。 ● グループ作業をはじめ、授業への能動的な参加を求める。積極的な討議ができるよう、準備をして授業に臨むこと。 ● 授業期間中、授業当日の16:00-17:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習	予習・復習には、下記テキストに加え、図書館、インターネット、フィールドワークから得られる情報を活用すること。						
テキスト・教材・参考書等	クラウンブリッジ補綴学（第6版）医歯薬出版 2021 冠橋義歯補綴学テキスト（第6版）永末書店 2025						
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目		口腔修復学ⅡB		授業担当 責 任 者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野			
授業細目		クラウンブリッジ補綴学 実習 1						
曜日－時限		木－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 3 実習室 B 4 実習室	科目番号	DDN-DEN-323J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：支台築造，レジン前装冠および CAD/CAM 冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通して支台築造，レジン前装冠および CAD/CAM 冠による歯冠修復治療の術式 および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：支台築造，レジン前装冠および CAD/CAM 冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① コンポジットレジン支台築造における基本的手技を具体的に述べるができる。 ② レジン前装冠治療の基本的手技および技工操作を具体的に述べるができる。 ③ CAD/CAM 冠支台歯形成の要点について具体的に述べるができる。 ④ CAD/CAM 冠治療の一連の流れが説明できる。						
	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
授 業 計 画	1・2	支台築造（ファイバーポストコア） 【D-5-3-1-3, E-5-3-4-1-2】【H28:F-3-4）②】					長崎敦洋，他	
	3・4	レジン前装冠：支台歯形成 【D-5-3-1-4, E-5-3-4-1-3】【H28:F-3-4）③】					長崎敦洋，他	
	5・6	プロビジョナルクラウン作製 【D-5-3-1-8, E-5-3-4-1-7】【H28:F-3-4）⑤】					長崎敦洋，他	
	7～11	CAD/CAM 冠支台歯形成 【D-5-3-1-4, E-5-3-4-1-3】【H28:F-3-4）③】					長崎敦洋，他	
	12～14	CAD 設計，CAM 加工【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4）-(1)②】					長崎敦洋，他	
アドバイス		● 模型実習は，講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり，模擬患者（マネキン）を相手にした臨床 想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身な り・服装に留意し，欠席，遅刻をしないように。届けでなき欠席は，1 回でも履修不 可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり，実習書を分野 HP からダウ ンロードし，十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中，実習当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。実習内容につい て質問があれば担当ライターの部屋（C 棟 7 階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習		限られた実習時間内で理解を深めるためには，実習書および下記テキストによる予 習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう，十分な 予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い，当日行う実 習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・ 参考書等		クラウンブリッジテクニック（第 2 版）医歯薬出版 2018 冠橋義歯補綴学テキスト（第 6 版）永末書店 2025 クラウンブリッジ補綴学（第 6 版）医歯薬出版 2021						
成績評価の方法		形成的評価を，授業態度（講義・実習），実習小テスト，実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い，総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試 験では，総論，各論，関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を 評価する。						

授業科目		口腔修復学ⅡB		授業担当 責 任 者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野			
授業細目		クラウンブリッジ補綴学 実習 2						
曜日一時限		木ー3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 3 実習室	科目番号	DDN-DEN-323J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：ブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通してブリッジによる歯冠修復治療の術式および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：ブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① ブリッジ治療の基本的手技を具体的に述べることができる。 ② ブリッジ作製の基本的技工操作を具体的に述べることができる。						
	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
授 業 計 画	1 ～ 3	ブリッジ支台歯形成 【D-5-3-1-4, E-5-3-4-1-3】【H28:F-3-4】③】				長崎敦洋, 他		
	4	ろう着【D-5-3-1-9】【H28:E-3-4】-(1)⑧】				長崎敦洋, 他		
アドバイス		● 模型実習は、講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1 回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり、実習書を分野 HP からダウンロードし、十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中、実習当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C 棟 7 階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習		限られた実習時間内で理解を深めるためには、実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い、当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・参考書等		クラウンブリッジテクニック（第 2 版）医歯薬出版 2018 冠橋義歯補綴学テキスト（第 6 版）永末書店 2025 クラウンブリッジ補綴学（第 6 版）医歯薬出版 2021						
成績評価の方法		形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目		口腔修復学ⅡB		授業担当 責 任 者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野			
授業細目		クラウンブリッジ補綴学 実習 3						
曜日－時限		木－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 3 実習室	科目番号	DDN-DEN-323J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：口腔インプラント支台のクラウンブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通して口腔インプラントによるクラウンブリッジ治療の術式および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：口腔インプラント支台のクラウンブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① 口腔インプラント支台のクラウンブリッジ治療の手順と基本的技工操作を具体的に述べる ことができる。 ② 口腔インプラント支台のクラウンブリッジ治療における印象採得の手技を習得する。						
	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
授 業 計 画 画	1 ～ 3	口腔インプラント支台のクラウンブリッジ治療における印象採得 【D-5-3-3-5, E-5-3-3-7】【H28:E-3-4)-(3)⑥, ⑦】					新部邦透, 大川博子, 他	
アドバイス		● 模型実習は、講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1 回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり、実習書を分野 HP からダウンロードし、十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中、実習当日の 16:00-17:00 に office hour を設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C 棟 7 階）に気軽に質問に来るように。						
授業時間外学習		限られた実習時間内で理解を深めるためには、実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い、当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・ 参考書等		よくわかる口腔インプラント学（第 4 版）医歯薬出版 2023 冠橋義歯補綴学テキスト（第 6 版）永末書店 2025 クラウンブリッジ補綴学（第 6 版）医歯薬出版 2021						
成績評価の方法		形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよび PBL 内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、関連領域・先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅲ			授業担当 責 任 者	齋藤 正寛 歯科保存学分野			
授業細目	歯内治療学							
曜日一時限	月-2	対象年次 学期	3年次 6セメスター		講義室名	B3講義室	科目番号	DDE-DEN302J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、診断及び根管治療の基本技術、外科的歯内療法および顕微鏡を用いた逆根管治療技術の概念、外傷歯の治療技術を習得する。							
学習の到達 目標	一般目標：根管形態の理解、根管治療その治療の進め方を理解する。 個別目標： ① 歯髄・根尖性歯周組織疾患の病因、病態、診断および治療方法を説明できる。 ② 各歯種における根管形態の特徴を説明できる。 ③ 根管治療の基本技術を説明できる。 ④ 外科的歯内療法を説明できる。 ⑤ 外傷、根未完成歯、病的歯根吸収に対する歯内療法を説明できる。 ⑥ 手術用実体顕微鏡を説明出来る。							
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	歯髄疾患の分子病態メカニズムと臨床症状【C-5-5】①【C-5-5】②【E-3-2】①【E-3-2】⑤【E-3-3】-(2)①					齋藤 正寛	
	2	根尖歯周組織疾患の分子病態メカニズムと臨床症状【C-5-5】①【C-5-5】②【E-2-4】-(3)①【E-3-2】①【E-3-2】⑤【E-3-3】-(2)①					"	
	3	歯髄疾患、根尖歯周組織疾患の診査・検査・診断および治療方針【E-3-3】-(2)①					"	
	4	根管処置1：髄室開拓、根管長測定と作業長の決定【E-3-3】-(2)①					"	
	5	根管処置2：手用切削器具と根管形成【D-2⑥】【E-3-3】-(2)①					"	
	6	根管処置3：根管洗浄と貼薬【E-3-3】-(2)①【E-3-3】-(2)③					"	
	7	根管充填の術式と治癒経過【E-3-3】-(2)②【E-3-3】-(2)④					"	
	8	歯根と歯髄腔の形態およびその変化【E-3-3】-(2)①【E-3-1】④【E-3-1】⑤					鎌野 優弥	
	9	ニッケルチタン製ファイルを用いた根管治療【D-2⑥】【E-3-3】-(2)①					"	
	10	再根管治療の術式、歯内療法の安全対策【E-3-3】-(2)①【E-3-3】-(2)③					齋藤 正寛	
	11	アドバンス講義【A-9-1】②【A-7-2】②					特別講師	
	12	外科的歯内療法と手術用実体顕微鏡を用いた逆根管治療【E-3-3】-(2)⑤					特別講師	
	13	根未完成歯、歯根の病的吸収に対する歯内療法【E-3-3】-(2)⑦					齋藤 正寛	
	14	外傷歯の診断と処置【E-2-4】-(2)③					"	
15	アドバンス講義【A-9-1】③【A-7-2】②					特別講師		
アドバイス	● 歯の解剖学、微生物学、免疫学、生化学など基礎歯科医学の用語に耳馴染みがなければ”なぜ病気になりなにをしたら治る”かを理解できない。講義に参加する前にこれらの知識の復習を。 ● 将来の歯科臨床の実践に必須な知識であり、やむを得ない場合を除き遅刻・欠席は認めない。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯科保存学分野研究室に質問に来るように。							
授業時間外学習	歯内療法学の幅広い学問内容について理解を深めるためには、下記テキスト等による授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、配布資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。							

テキスト・教材・参考書等	本講義用の資料を毎回配布する。 歯内治療学 第6版（医歯薬出版） Cohen' s Pathways of the Pulp 12 th (Elsevier) Endodontics: Principles and Practice 6 th (Elsevier) エンドドンティクス 第5版（永末書店）
成績評価の方法	出席状況, 履修態度, 実習プロダクト, 定期試験結果を総合評価する。

モデル・コア・カリキュラム

授業科目	項目	
口腔修復学Ⅲ	E 臨床歯学教育	3-1) ①②③④⑤ 3-2) ①②③⑥ 3-3) -(1) ⑨ 3-3) -(2) ①-⑧ 3-3) -(4)-①

授業科目		口腔修復学Ⅲ		授業担当 責 任 者	齋藤 正寛 ○鎌野 優弥 他 歯科保存学分野			
授業細目		歯内治療学実習						
曜日－時限		月－3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN302J
授業の目標 並びに目的 と概要		歯内治療の基本的術式を修得することを目標とする。そのため透明根管模型、顎模型を用いて、各歯種の根管処置から根管充填まで一連の治療技術を習得する。						
学習の到達 目標		一般目標：歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の治療のために、根管治療についての知識、技能および態度を修得する。 個別目標： ① 無菌的操作が正しくできる。 ② 髓室開拓、電氣的根管長測定が正しくできる。 ③ 根管形成が正しくできる。 ④ 根管充填が正しくできる。 ⑤ ニッケルチタン製ファイルを用いた根管形成が正しくできる。 ⑥ 手術用実体顕微鏡の基本的使用方法を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1	オリエンテーション、実習準備、器具説明、模型作製【F-1-2)①】 【F-1-2)②】【F-3-1)②】				鎌野 優弥 他		
	2	透明根管模型根管形成、ラバーダム防湿1【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	3	透明根管模型根管充填、ラバーダム防湿2【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	4	小臼歯孤立歯根管形成、根管充填1【F-3-1)②】【F-3-3)③】				〃		
	5	小臼歯孤立歯根管形成、根管充填2【F-3-1)②】【F-3-3)③】				〃		
	6	実習試験1【F-3-1)②】【F-3-3)③】				〃		
	7	ニッケルチタン製ファイルを使用した根管形成 前歯植立模型を用いた根管形成、根管充填1【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	8	電氣的根管長測定 前歯植立模型を用いた根管形成、根管充填2【F-2-2)⑦】【F-3-1)②】 【F-3-1)③】【F-3-3)③】				〃		
	9	小臼歯植立模型を用いた根管形成、根管充填1【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	10	小臼歯植立模型を用いた根管形成、根管充填2【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	11	大臼歯植立模型を用いた根管形成、根管充填1【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	12	大臼歯植立模型を用いた根管形成、根管充填2【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	13	大臼歯植立模型を用いた根管形成、根管充填3【F-3-1)②】【F-3-1)③】 【F-3-3)③】				〃		
	14	再根管治療【F-3-1)②】【F-3-1)③】【F-3-3)③】				〃		
15	実習試験2（評価を含む）【F-3-1)②】【F-3-1)③】【F-3-3)③】				〃			
アドバイス		● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。一人一人が患者さんを診察する想定で実習に臨むこと。すなわち不適切な身なり・服装での実習参加は認めない。またやむを得ない場合を除き欠席、遅刻を認めない。 ● 実習は講義と連動するため、講義内容の理解が不十分だと単に手を動かすだけの時間になってしまい治療技術を習得できないので気をつけること。 ● 実習中の疑問点は実習時間中にライターへ質問することを推奨する。ライターからは答えではなくアドバイスをもらい、自ら復習することで理解を深められる。						

授業時間外学習	実習時間は限られているため、基礎知識がなければ処置の意味を理解することも難しい。実習時間を無駄にしないために講義の復習は必須であり、加えてあいまいな基礎歯科医学の知識は必ず復習してから実習に臨んでほしい。
テキスト・教材・参考書等	本実習用の実習書を配布する。 以下参考書 Cohen's Pathways of the Pulp 12 th (Elsevier) Endodontics: Principles and Practice 6 th (Elsevier) エンドドンティクス 第5版 (永末書店) 歯内治療学 第5版 (医歯薬出版)
成績評価の方法	出席状況、実習プロダクト、筆記試験および実技試験結果を総合評価する。

モデル・コア・カリキュラム

授業科目	項目	
口腔修復学Ⅲ	A 基本事項	4) ① 6-1) ①
	E 臨床歯学教育	3-3) -② ⑨

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ A		授業担当		依田 信裕	
授業細目		歯・周囲組織欠損による 障害とその治療		責 任 者		口腔システム補綴学分野	
曜日一時限		火ー 1・2	対象年次 学期	3 年次 6 セメスター	講義室名	B4 講義室	科目番号 DDE-DEN303J
授業の目標 並びに目的 と概要		1 歯から多数歯の欠損により生じる形態異常・機能障害・社会的障害・心理的障害についての知識を修得し欠損歯列に対する歯科補綴学的治療の意義・目的を理解する。					
学習の到達 目標		一般目標：歯の欠損により生じる形態異常・機能障害・社会的障害・心理的障害についての知識を修得する。 個別目標：欠損歯列に対する歯科補綴学的治療、意義および目的を理解する。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1		補綴歯科学と歯科補綴治療入門【D-5-3-2-1】			依田 信裕	
	2		PBL 症例提示・EBM と文献検索の概説【D-5-3-2-1】			依田 信裕	
	3		歯の欠損により生じる障害【D-5-3-2-1, 13】			依田 信裕	
	4・5		部分欠損補綴治療の目的・生物学的事項 部分床義歯の構成要素【D-5-3-2-2, 3】			天雲 太一	
	6		部分床義歯治療における診査・診断【D-5-3-2-1, 2】			天雲 太一	
	7		部分床義歯の支持・把持・維持機構【D-5-3-2-3】			天雲 太一	
	8		治療方針の立案と部分床義歯の設計【D-5-3-2-3, 9】			白石 成	
	9		部分床義歯における前処置【D-5-3-2-3】			白石 成	
	10		部分床義歯における印象採得、材料と方法【D-5-3-2-4, 5】			白石 成	
アドバイス		講義受講→各授業の課題の把握→課題レポート作成・提出 講義内容は Google Classroom に掲載する 積極的な自習を望む 講義内容と PBL 実習を連動するものとして学習する					
授業時間外学習		PBL 課題の症例に反映させて講義を受講・自主学習を行う					
テキスト・教材・ 参考書等		有床義歯補綴学（山下秀一郎編）永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版（藍 稔編）学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー 第7版（三谷春保編）医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法		出席状況・授業態度・レポート・PBL・定期試験（6セメ）により判定する					

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ A		授業担当		依田 信裕		
授業細目		欠損歯列の診査・診断と治療方針		責 任 者		口腔システム補綴学分野		
曜日・時限		火－ 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4 講義室	科目番号	DDE-DEN303J
授業の目標並びに目的と概要		欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）、さらに可撤性部分床義歯の構成要素を理解する。						
学習の到達目標		一般目標：欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）についての知識を修得する。 個別目標：可撤性部分床義歯用いた欠損補綴、その構成要素・特徴を理解する。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		部分床義歯の咬合採得、材料と方法【D-5-3-2-5】				依田 信裕	
	2・3		調節性咬合器、フェイスボウトランスファー、チェックバイト【D-5-3-2-6】				依田 信裕	
	4		部分床義歯の人工歯選択と咬合様式【D-5-3-2-7, 8, 9, 10】				依田 信裕	
	5		部分床義歯の装着、メンテナンス、修理、リライン【D-5-3-2-11, 12】				山口 洋史	
	6・7		顎口腔系の生体力学、生体力学的要件【D-5-3-2-13】				山口 洋史	
	8		欠 損 歯 列 の 下 顎 位 ・ 下 顎 運 動 の 記 録 法【E-2-2-6, D-5-3-2-1】				庄原 健太	
	9		部分床義歯治療のまとめ【D-5-3-2-1, 2】				依田 信裕	
	10		歯科インプラント【D-5-3-3-1, 2, 3, 5, 6, 7, 8】				庄原 健太	
アドバイス		講義受講→各授業の課題の把握→課題レポート作成・提出 講義内容はGoogle Classroomに掲載する 積極的な自習を望む 講義内容とPBL実習を連動するものとして学習する						
授業時間外学習		PBL課題の症例に反映させて講義を受講・自主学習を行う						
テキスト・教材・参考書等		有床義歯補綴学（山下秀一郎編）永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版（藍 稔編）学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー 第7版（三谷春保編）医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法		出席状況・授業態度・レポート・PBL・定期試験（6セメ）により判定する						

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ A		授業担当		依田 信裕			
授業細目		可撤性部分床義歯補綴学		責 任 者		口腔システム補綴学分野			
曜日一時限		火一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター		講義室名	B4 講義室	科目番号	DDE-DEN303J
授業の目標 並びに目的 と概要		欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）、さらに可撤性部分床義歯の構成要素を理解する。							
学習の到達 目標		一般目標：欠損歯列患者に対する可撤性部分床義歯用いた欠損補綴治療の手順、各構成要素の特徴・その選択方法に関する知識を修得する。 個別目標：可撤性部分床義歯用いた欠損補綴治療の手順、各ステップの詳細を理解する。							
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容					担 当 者	
	1・2		嚥下の生理学【D-5-7-1】 摂食嚥下障害、摂食嚥下リハビリテーション、NST【D-5-7-8, D-6-2-4】					白石 成	
	3		顎顔面補綴治療、インプラント【D-5-3-2-13】，【D-5-3-3-1, 2, 3, 5, 6, 7, 8】					依田 信裕	
	4		歯周病と補綴治療【D-5-3-2-1】					天雲 太一	
	5・6		可撤性部分床義歯の設計（PBL）【D-5-3-2-2, 3】					依田 信裕	
	7・8		可撤性部分床義歯の設計（PBL）【D-5-3-2-2, 3】					依田 信裕	
	9・10		可撤性部分床義歯の設計（PBL）【D-5-3-2-2, 3】					依田 信裕	
アドバイス		講義受講→各授業の課題の把握→課題レポート作成・提出 講義内容はGoogle Classroomに掲載する 積極的な自習を望む PBL実習は所定の時間に、グループメンバーおよびチューターが集まり、PBL学習を行う 最終回は、グループ毎に治療計画・可撤性部分床義歯の設計、英語論文抄読の発表会を行う							
授業時間外学習		講義内容とPBL実習は連動するものとして学習する、それに基づきPBL症例課題の自主学習およびグループ学習を行う							
テキスト・教材・ 参考書等		有床義歯補綴学（山下秀一郎編）永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版（藍 稔編）学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー 第7版（三谷春保編）医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する							
成績評価の方法		出席状況・授業態度・レポート・PBL・定期試験（6セメ）により判定する							

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ B		授業担当 責 任 者	依田 信裕			
授業細目		可撤性部分床義歯治療学 1			口腔システム補綴学分野			
曜日－時限		金－ 3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B3、B4 実習 室・講義室	科目番号	DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要		可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する。						
学習の到達 目標		一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を修得する。 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能を修得する。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		症例提示・診査・診断・設計【D-5-3-2-1, 2, 3】				依田 信裕	
	2		設計・サベイング【D-5-3-2-2, 3】】				天雲 太一	
	3		前処置・印象採得【D-5-3-2-3, 4】				天雲 太一	
	4		サベイング・設計線の記入・咬合床作製【D-5-3-2-3, 5】				天雲 太一	
	5		咬合採得・咬合器装着【D-5-3-2-5, 6】】				庄原 健太	
	6		ワイヤーベンディング・メタルフレーム作成・埋没【D-5-3-2-9】】				山口 洋史	
	7		メタルフレーム鑄造・研磨（ビデオ視聴）、人工歯配列、歯肉形成【D-5-3-2-7, 8, 9】				天雲 太一	
	8		埋没・流口ウ、レジン填入・重合・義歯完成・メインテナンス・義歯修理【D-5-3-2-9, 10, 11, 12】				天雲 太一	
アドバイス		実習時に小テスト(事前告知あり)を実施する予定です。義歯製作ステップの動画をonline上で閲覧し、積極的な自主学習を望みます。						
授業時間外学習		Online を利用した学習						
テキスト・教材・参考書等		実習書、online（Google Classroom）上にアップされた部分床義歯製作過程の各動画 有床義歯補綴学（山下秀一郎編）永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版（藍 稔編）学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー 第7版（三谷春保編）医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法		出席状況・授業態度・小テスト・作製物・定期試験（7セメ）により判定する						

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ B		授業担当		依田 信裕	
授業細目		可撤性部分床義歯治療学2		責 任 者		口腔システム補綴学分野	
曜日－時限		金－ 3・4	対象年次 学期	4年次(半数) 7セメスター	講義室名	B3、B4 実習 室・講義室	科目番号 DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要		可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する。					
学習の到達 目標		一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を修得する。 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能を修得する。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1・2		サベイング/ブロックアウト/設計【D-5-3-2-1, 2, 3】			天雲 太一	
	3・4		設計/クラスプワイヤーベンディング【D-5-3-2-3, 9】			天雲 太一	
	5・6		咬合床作成/咬合採得【D-5-3-2-5】			庄原 健太	
	7・8		咬合器装着/クラスプ waxup【D-5-3-2-6, 9】			天雲 太一	
	9・10		クラスプ waxup/人工歯配列【D-5-3-2-7, 8, 9】			天雲 太一	
	11・12		人工歯配列/歯肉形成【D-5-3-2-7, 8, 9】			天雲 太一	
アドバイス		実習時に小テスト(事前告知あり)を実施する予定です。義歯製作ステップの動画をonline上で閲覧し、積極的な自主学習を望みます。					
授業時間外学習		Online を利用した学習					
テキスト・教材・ 参考書等		実習書、online上(Google Classroom)にアップされた部分床義歯製作過程の各動画 有床義歯補綴学(山下秀一郎編)永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版(藍 稔編)学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー 第7版(三谷春保編)医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法		出席状況・授業態度・小テスト・製作物・定期試験(7セメ)により判定する					

授業科目		口腔機能回復学Ⅰ B		授業担当		依田 信裕	
授業細目		可撤性部分床義歯治療学3		責 任 者		口腔システム補綴学分野	
曜日一時限		金ー 3・4	対象年次 学期	4年次(半数) 7セメスター	講義室名	B3、B4 実習 室・講義室	科目番号 DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要		可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する。					
学習の到達 目標		一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を修得する。 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能を修得する。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1・2		咬合床作成/咬合採得【D-5-3-2-5】			天雲 太一	
	3・4		咬合器装着/クラスプ waxup【D-5-3-2-6, 9】】			天雲 太一	
	5・6		サベイング/ブロックアウト/設計【D-5-3-2-1, 2, 3】			天雲 太一	
	7・8		設計/クラスプワイヤーベンディング【D-5-3-2-3, 9】			天雲 太一	
	9・10		クラスプ waxup/人工歯配列【D-5-3-2-7, 8, 9】			天雲 太一	
	11・12		人工歯配列/歯肉形成【D-5-3-2-7, 8, 9】			天雲 太一	
アドバイス		実習時に小テスト(事前告知あり)を実施する予定です。義歯製作ステップの動画をonline上で閲覧し、積極的な自主学習を望みます。					
授業時間外学習		Onlineを利用した学習					
テキスト・教材・ 参考書等		実習書、online上(Google Classroom)にアップされた部分床義歯製作過程の各動画 有床義歯補綴学(山下秀一郎編)永末書店 2021 スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 第4版(藍 稔編)学健書院 2024 歯学生のパーシャルデンチャー第7版(三谷春保編)医歯薬出版 2024 その他は講義中に説明する					
成績評価の方法		出席状況・授業態度・小テスト・製作物・定期試験(7セメ)により判定する					

授業科目		口腔機能回復学Ⅱ		授業担当	山口哲史			
授業細目		老年歯科学 総論・各論		責 任 者	加齢歯科学分野			
曜日一時限		水－2	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要		加齢や高齢者の概念、高齢者の心理・社会・身体的特徴、顎口腔の加齢変化、高齢者の顎口腔疾患・障害やそれへの対処法、高齢者の顎口腔疾患と全身の健康の相互的關係、高齢者の口腔保健やそれを支える医療や介護の制度を理解する。						
学習の到達 目標		一般目標：高齢者の身体・心理・社会的特徴に配慮した医療・介護を理解する。 個別目標： ① 高齢者と社会状況を説明できる。 ② 老化と老化に関連する疾患や障害を説明できる。 ③ 他職種との連携に基づく歯科保健医療を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
	1・2	老化、老年症候群・老人病・生活習慣病・認知症【A-2-3】 【D-5-7】【H28：C-3-3, E-5-1】					山口哲史	
	3・4	人口の少子高齢化と社会保障へのインパクト【C-4-3-1, 2, 3, 4, 6】【C-6-3】】【H28：B-2-2, B-4-3】					山口哲史	
	5・6	高齢者の健康・ADL が歯科口腔保健に及ぼす影響【C-4-1】 【H28：B-1】					山口哲史	
	7・8	高齢者の歯科口腔保健が健康・ADL・QoL に及ぼす影響【C-4-1】 【H28：B-1】					山口哲史	
	9・10	高齢者の歯科口腔保健の方法【A-2-4-7, 8】【C-1-1-1, 2, 3】 【C-1-2-4】【C-5-1, 2, 3】【D-5-7】【H28：A-1-2-3, A-3, A-4-1-2, B-3-2, E-1-1, E-2-3, E-5-1】					山口哲史	
	11・12	摂食嚥下障害への歯科的対応【A-3-2-4, 10】【A-3-3-1, 3, 4】 【C-4-1】【D-3-1-11-2, 3, 4, 5】【D-5-7】【H28：B-1, E-2-1, E-2-2, E-2-4-11, E-5-1】					山口哲史	
	13～15	多職種連携に基づく高齢者歯科保健【C-1-3-1, 2, 3, 4, 6】【C-4-2-3】 【D-6-1】【D-6-2-1, 3, 4】【H28：A-5-1, A-7-1, B-2-1】					山口哲史	
アドバイス		高齢者の歯科口腔保健に不可欠な知識の範疇は、老年期特有の社会・心理・医学的諸問題の複雑さを反映してきわめて広いことを、本講を通じて理解されるよう希望する。						
授業時間外学習		テキストを用いた予習・復習を求める。						
テキスト・教材・参考書等		老年歯科学 第2版 医歯薬出版 2022 年 よくわかる高齢者歯科学第2版 永末書店 2023 年						
成績評価の方法		授業の 70%以上の出席を前提に、筆記試験を行い、60 点以上の者に単位を認定する。 授業ごとの小試験への回答をもって出席とみなす。						

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ		授業担当	服部佳功			
授業細目	全部床義歯補綴学 総論・各論		責 任 者	加齢歯科学分野			
曜日一時限	火－3・4 水－3・4	対象年次 学期	4年次 7・8 セメスター	講義室名	B4 講義室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	無歯顎者の顎口腔の形態的・機能的特徴を有歯顎者との対比において理解するとともに、無歯顎補綴診療の意義や特徴、全部床義歯補綴の臨床術式や、全部床義歯に特化した補綴概念を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：全部床義歯製作の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ①全部床義歯製作の工程を説明できる。 ②全部床義歯の支持、維持、安定に係る理論と方法を説明できる。 ③全部床義歯補綴における下顎運動記録、ならびに下顎運動と調和した咬合付与の理論と方法を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯の欠損の生物学的影響【A-2-4】【D-5-7】【H28：E2-3），E-5-1】無歯顎補綴診療の意義と特徴				服部佳功	
	2	無歯顎の口腔解剖【A-3-3】【H28：E-2-2】 全部床義歯学の基本概念【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】無歯顎補綴診療の基本				猪狩洋平	
	3	無歯顎の印象採得【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】				伊藤佳彦	
	4	咬合採得【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】				服部佳功	
	5	下顎運動の記録と咬合器による再現【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】				服部佳功	
	6・7	人工歯の選択と排列（前歯・臼歯）【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】				服部佳功	
	8	義歯の装着と管理【D-5-3-2】【H28：E-3-4）-（2）】				猪狩洋平	
	9	種々の無歯顎補綴【D-5-3-2】【D-5-3-3】【H28：E-3-4）-（2），（3）】				服部佳功	
アドバイス		全部床義歯補綴学が含む平衡咬合などの独自の概念を十分に理解されるよう期待する。					
授業時間外学習		テキストを用いた予習・復習を求める。					
テキスト・教材・参考書等		無歯顎補綴治療学 第4版 医歯薬出版 2022年					
成績評価の方法		授業の70%以上の出席を前提に、筆記試験を行い、60点以上の者に単位を認定する。					

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ		授業担当	田中恭恵			
授業細目	全部床義歯補綴学実習		責 任 者	加齢歯科学分野			
曜日一時限	火－３・４ 水－３・４	対象年次 学期	４年次 ７・８ セメスター	講義室名	Ｂ４実習室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	全部床義歯作製のほぼ全過程をファントムにて再現する実習を通じ、全部床義歯補綴の諸概念、とりわけ維持安定に関わる咬合平衡などの考え方に習熟する。						
学習の到達 目標	一般目標：全部床義歯製作の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標： ① 咬合器を適切に操作できる。 ② 審美的、機能的に調和のとれた全部床義歯の人工歯排列ができる。 ③ 全部床義歯に適切な研磨面形態を付与できる。 ④ 埋没、流蟬、填入、重合、割り出し、咬合器再装着ができる。 ⑤ 平衡咬合の概念を理解して全部床義歯の咬合調整ができる。 ⑥ 義歯の形態を理解して全部床義歯を完成させることができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１～４	咬合床製作、咬合器装着【D-5-3-2-5, D-5-3-2-6】 【H28：E-3-4）-(2)】				服部佳功 山口哲史 田中恭恵 猪狩洋平 小宮山貴将 伊藤佳彦 伊藤有希	
	５～１８	人工歯排列【D-5-3-2-7, D-5-3-2-8】 【H28：E-3-4）-(2)】					
	１９～２５	歯肉形成【D-5-3-2-9】 【H28：E-3-4）-(2)】					
	２６～３３	埋没・流蟬、填入、重合、割り出し、咬合器再装着 【D-5-3-2-9】 【H28：E-3-4）-(2)】					
	３４～３９	咬合調整【D-5-3-2-8】 【H28：E-3-4）-(2)】					
	４０～４５	形態修正・研磨【D-5-3-2-10】 【H28：E-3-4）-(2)】					
	４６～４７	デジタル技術を用いた全部床義歯製作					
アドバイス	両側性平衡咬合など全部床義歯補綴に特化した咬合の概念や、義歯の維持安定に関して、座学によって会得することは困難な知識、技術を、実習を通して理解されるよう希望する。 進行状況によって授業時間は変更の可能性がある。						
授業時間外学習	講義用テキスト、デモ動画を用いた予習を求める。						
テキスト・教材・ 参考書等	加齢歯科学分野、実習の手引き、（配布） 無歯顎補綴治療学 第４版 医歯薬出版 ２０２２年						
成績評価の方法	実習への参加と課題の提出を前提に、実習中の態度、製作義歯に反映された全部床義歯学の知識や技能に基づいて評価する。						

授業科目	口腔機能回復学Ⅱ		授業担当	田中恭恵			
授業細目	老年歯科学実習		責 任 者	加齢歯科学分野			
曜日一時限	水－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名	B４実習室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	高齢化の進行に伴い、歯科医療従事者には、要介護高齢者への対応、口腔機能の維持・向上によるフレイルの予防、安心・安全な食事のための助言など、幅広い機能を果たすことが求められている。本実習を通して学生が、要介護高齢者の移乗の介助方法や顎口腔機能が低下した高齢者に対する検査の方法について理解できるようになることを目的とする。						
学習の到達 目標	一般目標：高齢者に頻発する身体的機能の変化を理解し、検査方法や介助方法を理解する。 個別目標： ① 安全かつ適切な移乗を実施できる。 ② 口腔機能低下症の診断に必要な検査を実施できる。 ③ 摂食嚥下障害のスクリーニングテストを実施できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	移乗【D-5-7-7】【E-5-6-1】【H28：E-5-1）】				服部佳功 山口哲史 田中恭恵 猪狩洋平 小宮山貴将 伊藤佳彦 伊藤有希	
	2～3	口腔機能低下症の検査【B-3-3】【D-3-1-11-1】【D-5-7-3】【D-5-7-4】【H28：E-5-1）】					
	4	摂食嚥下障害のスクリーニング・検査【D-3-1-11-2】【D-5-7-8】【E-5-6-4】【H28：E-5-1）】					
アドバイス		高齢者における口腔機能低下は、低栄養などを介して全身機能へも影響を与えることが、近年の研究によって明らかになってきている。それだけに、最新の情報の参照が望ましい。					
授業時間外学習		配布資料や参考書を用いた復習を望む。					
テキスト・教材・参考書等		老年歯科医学 診療参加型臨床実習マニュアル 「口腔機能低下症の検査」「摂食嚥下障害のスクリーニング検査」「移乗」					
成績評価の方法		実習への参加と課題の提出を前提に、実習中の態度や実習によって得られた知識や技能に基づいて評価する。					

授業科目		口腔機能回復学Ⅲ		授業担当		山田 聡		
授業細目		歯周病学		責 任 者		歯内歯周治療学分野		
曜日一時限		水-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE- DEN315J
授業の目標 並びに目的 と概要		デンタルプラークに起因する慢性感染症である歯周病の発症過程においては、歯周組織の構造の特殊性から、他の慢性炎症性疾患にみられない特徴的な病態が形成される。本授業においては、歯周病の原因、誘因および特徴的な発症・進展機構について理解することを目標とする。						
学習の到達 目標		一般目標：歯周組織の常態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。 個別目標： ① 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。 ② 歯周組織の病因と病態を説明できる。 ③ 歯周疾患の症状を説明できる。 ④ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		歯周病学概論・歯周組織の構造【A-3-4】【H28:E-3-1】				山田 聡	
	2		歯周病の病態【D-3-2-3, 4】【H28:E-3-2】				山田 聡	
	3		歯周病の検査・診断【D-5-2-3-2】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	4		歯周治療の組み立て【D-5-2-3-2】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	5		歯周基本治療1【D-5-2-3-3】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	6		歯周基本治療2【D-5-2-3-3】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	7		分岐部病変・歯内歯周疾患【D-5-2-3】				山田 聡	
	8		歯周外科1【D-5-2-3-4】【H28:E-3-3-2, 3】				山田 聡	
	9		歯周外科2【D-5-2-3-4】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	10		歯周外科3【D-5-2-3-4】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	11		歯周外科4【D-5-2-3-4】【H28:E-3-3-3】				山田 聡	
	12		先進的歯周治療【D-5-2-3-3】【H28:E-3-3】				山田 聡	
	13		口腔機能回復治療【D-5-2-3-5】【H28:E-3-3】				山田 聡	
	14・15・16		アドバンス講義【D-5-2-3-1】【H28:E-3-2】				特別講師	
	17		SPT【D-5-2-3-2】【H28:E-3-3】				山田 聡	
	18		ペリオドンタルメディスン【D-5-2-3-1】【H28:E-3-3-2, 3】				山田 聡	
	アドバイス		授業を理解していくためには、これまでに学習した基礎歯科医学の知識を確実に修得していることが必要である。授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。授業期間中、授業当日の16:30～17:30にoffice hourを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯内歯周治療学分野研究室に質問に来るように。					
予習・復習		基礎医学の基盤なしには臨床医学を理解することはできない。関連する基礎医学を徹底的に復習しておくことが必須である。また、講義中に適宜紹介するテキスト等により、授業の予習および復習を心掛けること。						
テキスト・教材・参考書等		教材として毎回プリントを配布する。第3版 臨床歯周病学 医歯薬出版						
成績評価の方法		出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判定する。出席は特に厳しく評価する。						

授業科目	口腔機能回復学Ⅲ			授業担当 責任者	山田 聡 ○ 根本 英二 他 歯内歯周治療学分野		
授業細目	歯周病学実習						
曜日一時限	水・3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN315J
授業の目標 並びに目的 と概要	本授業では、歯周病学（歯周病態学・臨床歯周病学）で学んだ知識を治療に具現化していくために、基本的な治療術式について体得し、さらにその知識を深めることを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：歯周疾患の治療のために、歯周治療についての知識、技能および態度を修得する。 個別目標： ① 歯周組織疾患の検査および診断が正しくできる。 ② 診断に基づいて適切な治療計画を立案できる。 ③ 適切な歯周基本治療、歯周外科治療ができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	オリエンテーション、歯周組織検査【E-2-2-5】【H28：E-3-3-3】				根本 英二 他	
	2	暫間固定法、咬合調整【E-5-3-3-5】【H28：E-3-3-3】				根本 英二 他	
	3～5	スケーリング・ルートプレーニング実習、シャープニング【E-5-3-3-3】				根本 英二 他	
	6	歯周外科実習（歯肉切除術）【E-5-3-3】【H28：E-3-3-3】				根本 英二 他	
	7～11	歯周外科実習（歯肉剥離搔爬術、根分割術、他）【E-5-3-3】【H28：E-3-3-3】				根本 英二 他	
	12	歯周外科実習（歯周組織再生療法）【E-5-3-3】【H28：E-3-3-3】				根本 英二 他	
	13・14	治療計画立案【E-4-2-1】【H28：E-3-3】				根本 英二 他	
	15	実技試験・実習筆記試験				根本 英二 他	
	なお歯周病学講義を本実習時間に実施する場合があるので注意すること。詳細な予定は別途配布する。						
アドバイス	本授業で修得する歯周治療の基本的術式は将来の歯科臨床の実践に必須のものである。したがって、やむを得ない場合を除き、遅刻や欠席は認めない。授業期間中、授業当日の16：30～17：30にオフィス・アワーを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯内歯周治療学分野研究室に来るように。						
予習・復習	講義内容と実習と連動する形で行われるため、講義で配布したプリントによる入念な復習はもちろん、実習書による予習ならびに復習は必須である。						
テキスト・教材・ 参考書等	本実習書用テキスト。参考書は特に指定しないが、授業中に適宜紹介する。						
成績評価の方法	出席状況、授業態度、及び実習に関する試験（筆記及び実技試験）により総合的に評価する。出席は特に厳しく評価する。						

授業科目	社会歯科学			授業担当	小関健由		
授業細目	医の原則と社会との関わり			責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	木－3・1	対象年次 学期	3 年次 5・6 セメスター	講義室名	B 3 講義室 B 1 講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：適切な歯科医療を社会で実践するために、歯科医師の基本的理念と関連法規の知識および歯科法医学の概要を習得する。 概要：歯科医師として社会での医療保健活動を実践する際に必要な、医療人としての基本的理念、守るべき関連法規等の社会の決まりと歯科法医学を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科医師の基本的理念と関連法規、歯科法医学を理解する。 到達目標： ① 歯科医師の基本的理念と医の原則を説明する。 ② 歯科関連法規とその項目を列挙する。 ③ 歯科法医学の意義を説明する。						
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者	
	1・2	歯科医師としての基本的な考え方や倫理観を養い、歯科医師が必要な基本的な医の原則を身につける【C-1】【C-3】【C-4-1】【PR】【S0】【H28：A-1-1)】【H28：A-1-2)】【H28：A-1-3)】				小関健由	
	3・4	医療法、歯科医師法等の医事法制の理解【C-3】【C-4-2】【C-5】【D-4-3】【H28：B-2-1)】				小関健由	
	5・6	社会保障制度と医療保険制度の理解【C-4-3】【H28：B-2-2)】				小関健由	
	7・8	歯科法医学【C-4-3-5】【C-4-3-8】【C-4-4】【H28：B-2-3)】【H28：B-4-3)】				鈴木敏彦	
アドバイス	医療人は、人の命を預かる使命から、医の原則を守り通さなければならない。歯科医師も同様にその責務を持つ。さらに、歯科医療特有の様々な関連法規や決まり事があるので、これも完全に理解しなければならない。歯科医療を行う基本の心構えの授業であるので、内容を確実に学ぶこと。 東日本大震災時には、多くの歯科医師は医療救護を行う一方で、身元確認にも携わった。歯科的な身元確認は法医学を専門としない歯科医師にとっても必須のスキルであり、社会から期待される貢献であるので、その基本を理解すること。 本授業に関する様々なニュースや話題がメディア上で注目を浴びている。これらの情報を良く理解し、社会における歯科医師の責務を深く考察して欲しい。						
授業時間外学習	予習は、法規等の概念的な内容が多くを占めることから、指定許可書を確実に理解してから授業に臨むこと。授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。						
テキスト・教材・参考書等	スタンダード社会歯科学第8版、学建書院						
成績評価の方法	出席状況、およびレポートを総合評価する。						

授業科目	社会歯科学			授業担当	小関健由		
授業細目	歯科の歴史と現在の医療			責任者	予防歯科学分野		
曜日・時限	木・3・1	対象年次 学期	3年次 5・6セメスター	講義室名	B3講義室 B1講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：現在までの医療の歴史を学び、歯科医療保健を歴史面から理解する。 概要：医療の歴史を学ぶことから、医療の本質を考え、さらに現行の医療システムへ視線を移すことで、日本の医療の特徴と問題点、歯科管理学を把握する。						
学習の到達 目標	一般目標：医の成り立ちと歴史、現在の歯科管理学を理解する。 到達目標： ① 主な歯学史の出来事を列挙する。 ② 日本の医療制度を説明する。 ③ 歯科管理学の項目を列挙する。						
授 業 計 画	回数	授業内容					担当者
	1・2	歯科管理学総論【C-3-1】【C-3-2】【C-3-3】【C-4-2】【C-4-3】 【H28：A-1-2）】【H28：A-1-3）】【H28：A-4-2）】【H28：A-6-1）】 【H28：A-6-2）】【H28：A-6-3）】					小関健由
	3・4	歯科医学史【C-1】【C-2】【C-4-1】 【H28：A-1-1）】【H28：A-1-2）】【H28：A-1-3）】					小関健由
	5・6	全身の健康と医科歯科連携【C-1-3】【D-2-4】【D-6】【IP】 【H28：A-5-1）】					小関健由
	7・8	高齢者と社会【C-4-3】【S0】					服部佳功
アドバイス		歯科医療・保健の歴史的経緯と発展を理解し、歯科の歴史を訪ねることは、将来の歯科臨床の場においても必ず生かされる。これらの経験を重ねて、安全安心の歯科医療を実施できる歯科管理学が発展してきた。この授業を通して、この基本的概念を学んでほしい。歯科に関わる様々なニュースや話題がメディア上で注目を浴びている。これらの情報を良く理解することは授業の理解を深めるであろう。					
授業時間外学習		予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。					
テキスト・教材・参考書等		授業に際して指定する。 スタンダード社会歯科学第8版、学建書院					
成績評価の方法		出席状況、およびレポートを総合評価する。					

授業科目	社会歯科学			授業担当	小関健由		
授業細目	医療保障と歯科			責任者	予防歯科学分野		
曜日・時限	木・3・1	対象年次 学期	3年次 5・6セメスター	講義室名	B3講義室 B1講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯科医療を行うために、日本の医療システムと医療保障を理解する。 概要：歯科医療を行う際に必須である医療システムと医療保障の仕組みを理解すると共に、世界の医療事象を把握して日本の医療をグローバルな視点から理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：日本の医療システムと医療保障を理解する。 到達目標： ① 日本の医療システムを説明できる。 ② 日本の医療保障の制度を説明できる。 ③ グローバルな視点から日本の医療の特徴を説明できる。 ④ 災害医療の意義を説明する。						
授業 計画	回数	授業内容					担当者
	1・2	国際協力のあり方について【C-7】【H28：A-7-1）】【H28：A-7-2）】					小坂健
	3・4	社会保障制度・医療保障と歯科保健【C-4-3】【C-7】【H28：B-2-2）】					小坂健
	5・6	歯科医療統計学【IT】【C-6】					竹内研時
画	7・8	災害歯科医学【S-06】【C-4-3-7】【C-4-3-8】【C-4-4】【H28：B-2-3）】【H28：B-4-3）】					鈴木敏彦
	アドバイス	歯科医師は多彩な国際的活動を実践している。これらの活動をとおして、日本の歯科医療をグローバルな視点から見つめた場合の特徴と問題点を理解する。さらに、社会保障制度・医療保障を理解し、歯科医療・保健のあり方を考える。 本講義の話題に関する様々なニュースや話題がメディア上で注目を浴びている。これらの情報を良く理解して欲しい。これは授業の理解を深めるであろう。					
	授業時間外学習	予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。					
	テキスト・教材・参考書等	スタンダード社会歯科学第8版、学建書院					
	成績評価の方法	出席状況、およびレポートを総合評価する。					

授業科目		口腔保健学		授業担当 責任者	小関健由		
授業細目		環境学			予防歯科学分野		
曜日一時限		月－2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B 1 講義室	科目番号 DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：ひとの活動を取り巻く環境の意義と重要性を理解する。 概要：日常生活を取り巻く環境の役割を理解し、国民の生活と健康を衛る歯科医療活動との関連を学習する。					
学習の到達 目標		一般目標：環境と歯科医療活動の関連を理解する。 到達目標： ①環境を成り立たせる要因を説明する。 ②環境と歯科医療活動の関連を説明する。 ③環境維持保全の意義を説明する。					
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者	
	1	衛生学・公衆衛生学序論【C-5】【H28：B-3-1）】				小関健由	
	2	環境衛生総論【C-4-5】【H28：B-2-4】				小関健由	
	3	環境衛生 1：自然環境・人工環境【C-4-5-1】【C-4-5-4】【H28：B-2-4】【H28：B-2-4】				小関健由	
	4	環境汚染【C-4-5-2】【C-4-5-3】【H28：B-2-4】				小関健由	
	5						
アドバイス		ひとを取り巻く環境への理解は、人類の生態系を保全し環境負荷を与えないといったひととしての義務レベルの理解、医療従事者としての環境が生体に及ぼす影響として医学レベルの理解、さらに将来歯科医院を開設する場合には事業所としての環境負荷に関する理解といった、幾つかの理解のレベルがある。これを念頭に置いて予習を行い、授業に取り組んで欲しい。 環境に関する様々なニュースや話題がメディア上で連日注目を浴びている。これらの情報を良く理解し、社会における人の営みとの関連を深く考察して欲しい。これは授業の理解を深めると共に、ひととしての自ら律した行動を選択することに繋がるであろう。					
授業時間外学習		予習は、教科書の該当範囲を読むと共に、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。					
テキスト・教材・ 参考書等		シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂 新編衛生学・公衆衛生学（安井利一・尾崎哲則・埴岡隆・森田学・山下喜久・岸光男・嶋崎義浩編）医歯薬出版					
成績評価の方法		出席状況、および定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	口腔保健学			授業担当	小関健由		
授業細目	疫学・栄養学			責任者	予防歯科学分野		
曜日一時限	月－2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：公衆衛生の意義とその基盤となる疫学と栄養学を理解する。 概要：公衆衛生の基盤となる理論と疫学の重要性を理解し、さらに国民の栄養状態と健康の関係を理解し、 歯科保健活動との関連を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：公衆衛生の基本的理論と疫学を理解する。 到達目標： ①公衆衛生と疫学の基本的手法を列記する。 ②公衆衛生の基本となる人口と生活基盤を説明する。 ③健康を支える食を説明する。						
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者	
	1	疫学総論【C-6-1】【H28：B-4-1)】				小関健由	
	2	疫学・衛生統計【C-6-2】【H28：B-4-2)】				小関健由	
	3	人口論【C-4-3】【H28：B-4-2)】				小関健由	
	4	栄養学【A-2-2】【H28：B-1】				小関健由	
	5	食品衛生【C-5】【H28：B-1】				小関健由	
	6	生活習慣病とその予防【C-4-1】【H28：B-4-2)】				寶澤篤 (医学系研究科)	
アドバイス	公衆衛生は、人類の生命線を支える食や疾病予防等の最低限生きるために必要な要素から高次の社会システムの構築まで、様々なレベルの足り組みを含む。食の確保といった、現代日本では当たり前 の社会保障も含めて、基本的人権に含まれる健康を考える機会として予習を行い、授業に取り組んで欲しい。 世界の食糧問題や健康・保健に関する様々なニュースや話題がメディア上で連日注目を浴びている。これらの情報を良く理解し、社会における人の営みとの関連を深く考察して欲しい。これは授業の理解を深めると共に、社会を衛るための行動を選択する資質を養う事になるであろう。						
授業時間外学習	予習は、教科書の該当範囲を読むと共に、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。						
テキスト・教材・ 参考書等	シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂 新編衛生学・公衆衛生学（安井利一・尾崎哲則・埴岡隆・森田学・山下喜久・岸光男・嶋崎義浩編）医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目		口腔保健学		授業担当 責任者	小関健由			
授業細目		衛生学実習			予防歯科学分野			
曜日一時限		月－2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B 1 講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：ライフステージ毎の身体の状態・身体を取り巻く環境と口腔保健医療の関連を理解する。 概要：特に考慮を必要とする妊婦・高齢者の身体状態を疑似体験し、さらに環境測定等により人に為害性の無い環境を理解し、歯科医療活動との関連を学習する。						
学習の到達 目標		一般目標：ライフステージ毎の身体の状態・身体を取り巻く環境を理解する。 到達目標： ①妊婦の身体的特徴を説明する。 ②高齢者の身体的特徴と車いすの注意事項を説明する。 ③歯科医院内外の環境に関わる注意点を説明できる。						
授 業 計 画	回数		授業内容				担当者	
	1・2		環境の測定・水の環境衛生・生体測定【C-4-5】【H28：B-2-4】				小関健由 石河理紗 瀬名浩太郎	
	3・4		妊婦について・高齢者体験・車いす体験【C-4-3-4】【D-5-7-1】 【D-5-8-1】【H28：E-5-1】【H28：E-5-2】				田辺圭子 佐藤由記子 畠山博之 丹田奈緒子	
アドバイス		街に出ると、子ども連れの母親や妊婦、杖を使っている高齢者や車いすの方々を目にする機会が多い。命ある限り人の通過するライフステージであるが、これらの方には周りの方々が一定の配慮を行うことが社会の安心と信頼を繋ぐやさしい社会のありかたであろう。本実習では、医療人として妊婦・高齢者の医学的な特徴を理解すると共に、疑似体験を通してそれを実感して欲しい。この体験を元に、諸君の社会での行動にやさしさがあふれればと思う。さらに環境測定・生体計測では、自身にも環境にもやさしく、考え行動する自分を考えて欲しい。 実習は、建物の外に出ても寒くなく、体験スーツを着用できる運動しやすい服装である事。詳細は、実習前のガイダンス時に説明。						
授業時間外学習		予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。						
テキスト・教材・参考書等		実習書を配布する。 新編衛生学・公衆衛生学（安井利一・尾崎哲則・埴岡隆・森田学・山下喜久・岸光男・嶋崎義浩編）医歯薬出版						
成績評価の方法		出席状況、実習プロダクト、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目		予防歯科学		授業担当 責 任 者	小関 健由 予防歯科学分野		
授業細目		歯口の健康					
曜日一時限	火－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯口の健康と異常を理解し、疾患の予防に役立てる基礎を理解する。 概要：口腔の疾病を予防し、口腔の健康を高く維持する保健・医療を提供するために、健全な発育と健康な状態、それに対する疾病の病因論を学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：健全な口腔の発達とそれを脅かす疾病の病因論を理解する。 到達目標： ① 健全な口腔の発育段階を説明する。 ② 口腔の疾病とその病因を列挙する。 ③ 口腔清掃の意義を説明する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	予防歯科学総論【C-5】【D-3-2】【D-5-1】【H28：B-3-1）】				小関 健由	
	2	歯口の発達と機能【D-5-1-4】【H28：B-3-1）】				小関 健由	
	3	歯口の異常について【D-3-2】【D-5-1-1】【H28：B-3-1）】				小関 健由	
	4	歯口の環境【D-5-1-1】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	5	口腔の不潔物【D-3-2-4】【【D-5-1-3】【D-5-1-5】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	6	プラークコントロール【D-5-1-3】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	7	歯口清掃の効果【D-5-1-3】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	8	歯口清掃の術式【D-5-1-3】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
アドバイス		予防歯科学は、他の臨床系の多くの学問体系と異なり、疾病よりも健康をその学問の中心に据える。よって、『公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする（歯科医師法）』歯科医師の使命において、最も基本的で真摯な学問であるとも言える。 口腔保健の維持に重要な口腔清掃は、まずは自身の口腔の管理を日々実践することから手技を覚え、臨床への患者教育へ展開していくので、まずは自身の口腔への関心を高めて欲しい					
授業時間外学習		本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしたい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。					
テキスト・教材・参考書等		口腔保健・予防歯科学 第２版、医歯薬出版社					
成績評価の方法		出席状況、および定期試験結果を総合評価する。					

授業科目		予防歯科学		授業担当 責 任 者	小関 健由 予防歯科学分野		
授業細目		う蝕とその予防					
曜日一時限	火－3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：国民の口腔保健の向上のために、齲蝕の病因論と予防法を理解する。 概要：口腔の二大疾患の齲蝕に関して、生活者の視点や臨床の視点からその病因の発生要因を理解し、臨床での実際のう蝕の予防法を学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：齲蝕の発生と予防法を臨床の立場から総合的に理解する。 到達目標： ① 生活者の視点からう蝕の発生要因を列挙する。 ② 各ライフステージのう蝕の予防法を説明する。 ③ う蝕予防におけるフッ化物の応用法を説明する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	齲蝕の病因【D-3-2-1】【D-5-1-1】【D-5-2-1-1】【H28：B-3-2）】【H28：E-3-3）-(1)】【H28：E-4-2）】				小関 健由	
	2	齲蝕の予防【D-3-2-1 s】【D-5-1-1】【D-5-2-1-1】【H28：B-3-2）】【H28：E-3-3）-(1)】【H28：E-4-2）】				小関 健由	
	3	フッ化物と健康【D-5-1-2】【D-5-1-6】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	4	フッ化物の齲蝕予防機序【D-5-1-2】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	5	フッ化物の齲蝕予防への応用【D-5-1-2】【H28：B-3-2）】				小関 健由	
	6	フッ化物の応用と地域歯科保健【D-5-1-2】【H28：B-3-2）】				葭原 明弘	
	7	齲蝕のリスクアセスメント【D-5-1-5】【H28：B-3-2）】【H28：B-4-1）】				小関 健由	
アドバイス		近年、小児期における齲蝕発生は大きく減少してきた。これには、国民の口腔保健に取り組む意識の変化と、齲蝕予防法の社会への浸透が大きな効果を上げたからと考える。本講義で、齲蝕発生要因と予防法を、局所の生化学的反応から社会学としての生活習慣までの様々なレベルで捉え、臨床や一般社会の中での効果的な予防の取り組みを学ぶこと。人類の健康を学問の中心に据える予防歯科学は、「歯科医師」として最も基本的で身近な学問である。					
授業時間外学習		本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしたい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。さらに、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。					
テキスト・教材・参考書等		口腔保健・予防歯科学 第2版、医歯薬出版社					
成績評価の方法		出席状況、および定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	予防歯科学			授業担当	小関 健由		
授業細目	歯周疾患の予防と疫学			責 任 者	予防歯科学分野		
曜日－時限	火－3－4	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：国民の口腔保健の向上のために、歯周疾患の病因と予防法、さらに、疫学手法を理解する。 概要：口腔の二大疾患の歯周疾患に関して、生活者の視点や臨床の視点からその病因の発生要因を理解し、臨床での実際の歯周疾患の予防法を学ぶ。さらに、口腔に関する疫学手法を学び、適確な口腔内評価法を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯周疾患の病因と予防法、さらに、疫学手法を理解する。 到達目標： ① 生活者の視点から歯周疾患の発生要因を列挙する。 ② 歯周疾患の予防法と全身との関連について説明する。 ③ 口腔内評価法を目的ごとに列挙する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯周疾患の発症【D-3-2-3】【D-5-1-1】【D-5-2-3】【H28：B-3-2)】【H28：E-3-3)－(3)】				小関 健由	
	2	歯周疾患の予防【D-5-1-1】【D-5-2-3】【H28：B-3-2)】【H28：E-3-3)－(3)】				小関 健由	
	3	口臭治療の基礎と臨床【D-3-2)】【H28：B-3-2)】				小関 健由	
	4	歯科疾患の統計と疫学（総論）【C-6-1)】【C-6-2)】【H28：B-4-1)】				小関 健由	
	5	歯科検診と齲蝕の疫学【C-6-1)】【C-6-2)】【H28：B-4-2)】				小関 健由	
	6	口腔衛生と歯周病の疫学【C-6-2)】【H28：B-4-2)】				小関 健由	
	7	不正咬合と口腔内疾患の疫学【C-6-2)】【H28：B-4-2)】				小関 健由	
アドバイス		歯周疾患は、歯の喪失のみならず、全身疾患の発病要因となり QOL を低下させる。歯周疾患を理解することは、口腔管理と疾病予防に極めて重要であり、国民の QOL の維持・向上に直結するため深く学ぶこと。本講義で、歯周疾患の発生要因と予防法を、局所の生体防衛反応から社会学としての生活習慣までの様々なレベルで捉え、臨床や一般社会の中での効果的な予防の取り組みを学ぶこと。					
授業時間外学習		歯周疾患は、歯科の二大疾患の一つであり、様々な分野との総合的な学習が必要となる。さらに口腔と全身の QOL に直結するので、日常生活の中での歯周疾患の予防を考え、実践して学びを深めること。					
テキスト・教材・参考書等		口腔保健・予防歯科学 第2版、医歯薬出版社					
成績評価の方法		出席状況、および定期試験結果を総合評価する。					

授業科目	予防歯科学			授業担当 責 任 者	小関 健由 予防歯科学分野		
授業細目	口腔保健と社会						
曜 日 ー 時 限	火ー 3 ・ 4	対象年次学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯科保健の理念とシステムを、社会の中での予防歯科を理解する。 概要：ライフステージに於いて、様々な口腔保健活動が取り組まれている。これらの社会システムを理解し、効果的な健康増進への取り組みを理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔保健実践の社会システムを理解する。 到達目標： ① 日本の歯科保健の現状を列挙する。 ② 各ライフステージの口腔保健の社会システムを説明する。 ③ 社会の中での歯科医師の使命を説明する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯科疾患の動向・歯科疾患実態調査【C-6-2】【H28：B-3-2)】				小関 健由	
	2	母子歯科保健【C-4-3-4】【D-5-1-4】【D-5-6-8】【H28：B-2-2)】				小関 健由	
	3	高齢者歯科保健【C-4-3-4】【D-5-1-4】【D-5-7-5】【H28：B-2-2)】				石河 理紗	
	4	産業歯科・障害者歯科【C-4-3-4】【D-5-1-4】【D-5-7-3】【D-5-8-4】【D-5-9-1】【H28：B-2-2)】				瀬名 浩太郎	
	5	歯科衛生教育と援助【C-5】【H28：B-2-2)】				小関 健由	
アドバイス	歯周疾患は、歯の喪失のみならず、全身疾患の発病要因となり QOL を低下させる。歯周疾患を理解することは、口腔管理と疾病予防に極めて重要であり、国民の QOL の維持・向上に直結するため深く学ぶこと。本講義で、歯周疾患の発生要因と予防法を、局所の生体防衛反応から社会学としての生活習慣までの様々なレベルで捉え、臨床や一般社会の中での効果的な予防の取り組みを学ぶこと。						
授業時間外学習	本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしたい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。さらに、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。						
テキスト・教材・参考書等	口腔保健・予防歯科学 第2版、医歯薬出版社						
成績評価の方法	出席状況， および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目		予防歯科学		授業担当 責 任 者	小関 健由 予防歯科学分野			
授業細目		予防歯科学実習						
曜日一時限		火－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		学齢期の口腔管理を実施できる歯科医師になるためには、学校歯科保健活動に関わる知識を身に付け、実際の教育現場で歯科保健教育に関わるための技能や態度が求められる。本授業では、実際の学校歯科保健活動の現場に参画することにより、これらの素養を身に付ける。						
学習の到達 目標		一般目標：学齢期の口腔管理を実施できる歯科医師になるために、学校歯科保健活動に必要な知識・技能・態度を習得する。 到達目標： ① 学校歯科保健活動を説明する。 ② 学校歯科保健の教材を説明する。 ③ 学校歯科保健教育を実施する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容						担 当 者
	１・２	学校歯科保健教育の教材について【D-5-1-2】【D-5-1-3】【H28：A-7-1)】【H28：B-3-2)】【H28：E-4-2)】						小関 健由
	３・４	学校歯科保健教育の実際【D-5-1-3】【H28：A-7-1)】【H28：B-3-2)】【H28：E-4-2)】						小関 健由
アドバイス		学齢期は成長が著しく、個々の児童・生徒の身体と心の発育を把握しながら、適切な情報提示とコミュニケーションをとる能力が求められる。子どもへの適切な歯科保健と医療を提供するために、実際の学校歯科保健指導の現場を体験して、多くの子どもたちとの関わり合いを学んで欲しい。また、実習は地域の小学校で実施するので学外での実習となり、歯科保健の社会活動のデビューの場となるであろう。よって、この実習では成人した社会人としての基本的な身なりや行動が先ず求められ、さらに現場から歯科医師の社会的責務を実感して戴きたい。						
授業時間外学習		学校歯科健康診断の経験を思いだし、学校歯科保健活動と子どもの身体と心の発育を調べ、予習しておくこと。 授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。						
テキスト・教材・参考書等		口腔保健・予防歯科学 第２版、医歯薬出版社						
成績評価の方法		出席状況、および実習態度、レポートを総合評価する。						

授業科目		口腔発育学Ⅰ		授業担当 責 任 者	齋藤 幹 小児発達歯科学分野		
授業細目		小児歯科の講義と実習					
曜日一時限	月－3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室 B3 講義室 B3 実習室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：小児の発育に関する知識を習得し、阻害因子や疾病に関する知識を習得する。治療法についての理論・方法・手技を理解し、習得する。 概要：小児歯科臨床に必要な一連の知識を習得し、問題点の抽出・治療方針の立案・処置の実技を通して、小児歯科疾患についての理論および方法を理解、習得する。					
学習の到達 目標		一般目標：小児歯科治療についての評価法・診断・治療方針の立案を習得する。 個別目標：小児の成長と発達について説明できる。 小児の病因の特定や診断、対応法について説明できる。 小児歯科治療の手順について説明でき、実践できる。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	1・2・3 11・12		小児の歯科保健医療・全身の成長発達・頭蓋顎顔面の発育【A-2-2】 【A-2-4】 齲蝕治療・歯周疾患・口腔保健【D-3-1-3】【D-5-2】			齋藤 幹	
	4		口腔機能の発達【A-2-4】			日野 綾子	
	5・6・7		歯の発育と異常・小児への歯科的対応・小児の歯科診療の流れ【D-2-1-2】			千葉 雄太	
	8・9・10 13—15		歯列咬合の発育と異常・小児期の歯・歯周組織の特徴・医療安全・齲蝕予防【D-3-2】【D-5-6】 外傷・軟組織疾患・外科・咬合誘導・有病者や全身疾患【D-3-1-2】 【D-3-1-4】【D-5-5】【D-5-6】【D-5-8】			丸谷 由里子	
	16・17		写真・模型分析と評価・治療計画の立案【D-5-6】【H28:E-4-2】 【H28:F-3-6】ラバーダム装着【D-5-6-4】【H28:E-4-2】【H28:F-3-6】			千葉 雄太	
	18－30		可撤式保隙装置・クラウンループの作成【D-5-6-9】【H28:E-4-2】 【H28:F-3-6】【D-5-6-9】【D-5-6-9】【H28:E-4-2】【H28:F-3-6】 修復窩洞形成・歯髄切断法【D-5-6-3】【H28:E-4-2】【H28:F-3-6】 【D-5-6-4】【H28:E-4-2】【H28:F-3-6】			千葉 雄太	
アドバイス		小児から成人への発育変化について理解する。分野問わず、小児と大人の違い、乳歯と永久歯の違いを理解する。また、模型を通して、分析や治療方針の立案を行い、治療の手順や技術を習得するため、事前の予習が重要。 基本的に、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席で受験資格を失うので注意。					
授業時間外学習		講義1回につき手書きレポートを1枚提出。実習は手順を事前に予習しておかなければ、時間が不足するので注意。					
テキスト・教材・参考書等		小児歯科学 第6版 医歯薬出版					
成績評価の方法		出席状況、履修態度、筆記試験、実習制作物により総合的に判断する。					

授業科目	口腔発育学Ⅰ (障害者歯科)		授業担当	高橋 温			
授業細目	障害児者の歯科医療		責 任 者	障がい者歯科治療部			
曜日一時限	木－１・２	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名	B3 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：障害のある人の QOL を高める歯科医療および健康支援を行うために必要な知識を習得する。 概要：障害のある人の口腔保健および歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、ニーズに対応した健康支援法や治療法について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：障害者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。 個別目標： ① 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 ② 障害者の行動調整法と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ③ 障害者における口腔のケアの必要性和留意点を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	障害者歯科学総論【H28:B-2-2)-⑥ E-5-7-2】【R4 コアカリ併記】				高橋 温	
	2	障害者歯科で対象とする代表的な疾患 1 【H28:E-5-2)】【H28:E-5-3)-⑤ D-5-8-3】【R4 コアカリ併記】				長沼 由泰	
	3	障害者歯科で対象とする代表的な疾患 2 【H28:E-5-2) D-5-8-3】【R4 コアカリ併記】				長沼 由泰	
	4	行動調整法 診療時の患者対応【H28:E-5-2)】【H28:E-1-4)-(2), (4) E-5-7-1 D-5-8-2 D-5-8-3】【R4 コアカリ併記】				長沼 由泰	
	5	ま と め【H28:E-5-2)】【H28:E-1-4)-(2), (4)】 【H28:B-2-2)-⑥】【R4 コアカリ併記】				高橋 温	
アドバイス		歯科医療を行う上で口腔内だけではなく基礎疾患の特性を踏まえた対応を理解する必要があります。歯科医療そのものの知識だけではなく関連分野を含めて巨視的に俯瞰した歯科治療のアプローチを考えてみてください。					
予習・復習		広い視点を持って歯科医療をどのように行うのかを考えることが多いので、関連範囲は多岐にわたります。特に復習は重要です。					
テキスト・教材・参考書等		スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版（医歯薬出版） 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学（医歯薬出版）					
成績評価の方法		筆記試験、出席状況を鑑みて総合的に評価します。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ		授業担当 責 任 者	金高 弘恭 顎口腔矯正学分野			
授業細目		咬合形成に関わる生物学						
曜日一時限		火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要		咬合の成り立ちについて理解を深める。咬合に関わる頭蓋各部の成長発達、正常咬合の条件、不正咬合の分類について理解する。						
学習の到達 目標		一般目標：歯科矯正学における総論的内容を理解する。 個別目標： ① 矯正歯科治療の目的と意義を説明できる。 ② 頭部の成長発達を説明できる。 ③ 正常咬合の定義と成立条件について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		歯科矯正学総論・歯科矯正学の目的と意義【 E-4-1) ① 】				金高 弘恭	
	2		顎・顔面・頭蓋部の成長発育Ⅰ・全身成長の評価および頭蓋冠の成長、頭蓋底の成長・鼻上顎複合体の成長【 C-3-4)-(2) 】				金高 弘恭	
	3		顎・顔面・頭蓋部の成長発育Ⅱ・下顎骨の成長、下顎頭軟骨の特徴【 C-3-4)-(2) 】				金高 弘恭	
	4		顎・顔面・頭蓋部の成長発育Ⅲ・歯の萌出と咬合形成のメカニズム、成長発育の意義【 C-3-4)-(2) 】				金高 弘恭	
	5		正常咬合の定義と成立条件【 E-4-1) ② 】				金高 弘恭	
アドバイス		解剖学、組織学、生化学などの基礎的知識が必要とされるので、1, 2年に学んだ基礎系科目をよく復習しておくこと。						
授業時間外学習		下記にあるテキスト・教材による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めること。						
テキスト・教材・参考書等		歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法		一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔発育学Ⅱ		授業担当 責 任 者	金高 弘恭 顎口腔矯正学分野			
授業細目	顎顔面頭蓋部の成長発育						
曜日一時限	火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	不正咬合の定義と分類に関する知識を習得する。不正咬合の分類、不正咬合の原因、矯正診断学総論および矯正力に対する生体反応について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：不正咬合の分類や原因、治療に関する知識を習得する。 個別目標： ① 不正咬合の定義と種類について説明できる。 ② 不正咬合の原因について説明できる。 ③ 矯正診断の基本について説明できる。 ④ 矯正力や整形力に対する生体反応について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	正常咬合・不正咬合の分類【 E-4-1) ②、③ 】				金高 弘恭	
	2	不正咬合の原因【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	3	先天異常と不正咬合【 E-2-4) ① 】【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	4	矯正診断学総論【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	5	矯正力に対する生体反応【 E-4-1) ⑥、⑦ 】				北浦 英樹	
アドバイス		解剖学、組織学、生化学などの知識が必要とされるので、1, 2 年に学んだ基礎系科目をよく復習しておくこと。					
授業時間外学習		下記にあるテキスト・教材による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。					
テキスト・教材・参考書等		歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法		一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ		授業担当 責 任 者	金高 弘恭			
授業細目		矯正歯科診断学			顎口腔矯正学分野			
曜日一時限		火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		不正咬合がもたらす様々な障害と、治療による改善効果について解説し、矯正歯科治療の意義について理解を深める。診断のための調査、診査、各種検査、分析法と総合診断から治療計画立案、治療、治療効果も評価にいたる一連のプロセスについて講義を行う。また、矯正歯科治療における抜歯および矯正装置や材料について解説する。						
学習の到達 目標		一般目標：矯正歯科学における診断についての総論的内容を理解する。 個別目標： ① 矯正診断と治療計画の立案のプロセスを理解し説明できる。 ② 矯正診断に必要な検査および分析法（セファロ分析、模型分析、成長分析。機能分析）を理解し説明できる。 ③ 矯正歯科治療における抜歯の必要性和分析法について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	1		不正咬合の分類-2【 E-4-1）②、③ 】			金高 弘恭		
	2		矯正診断総論、セファロ分析Ⅰ【 E-4-1）③ 】			金高 弘恭		
	3		セファロ分析Ⅱ【 E-4-1）③ 】			金高 弘恭		
	4		模型分析、成長分析、機能分析【 E-4-1）③ 】			金高 弘恭		
	5		矯正歯科治療における抜歯【 E-4-1）③ 】			金高 弘恭		
アドバイス			基礎知識として、「頭蓋骨の解剖」と「頭蓋骨の成長」の内容を復習しておくこと。					
授業時間外学習			下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。					
テキスト・教材・参考書等			歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法			一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ		授業担当 責 任 者	金高 弘恭			
授業細目		矯正歯科治療学			顎口腔矯正学分野			
曜日一時限		火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		矯正歯科治療に必要な基礎知識を習得する。成長期の矯正治療について理解を深める。また、為害作用および保定について講義を行う。						
学習の到達 目標		一般目標：矯正歯科治療に必要な基礎知識を習得する。 個別目標： ① 矯正力や整形力に対する生体反応と偶発症を説明できる。 ② 歯の移動の生体力学について説明できる。 ③ 21種類の矯正装置について説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		抜歯分析、連続抜去【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	2		不正咬合の原因-2【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	3		歯の移動様式と固定源【 E-4-1) ⑥ 】				金高 弘恭	
	4		矯正力に対する生体反応と偶発症【 E-4-1) ⑥、⑦ 】				金高 弘恭	
	5		矯正装置Ⅰ【 E-4-1) ⑤ 】				金高 弘恭	
アドバイス			「骨改造に関わる組織学、分子生物学」および「生体材料学」に関する基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
授業時間外学習			下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。					
テキスト・教材・参考書等			歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法			一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ		授業担当		金高 弘恭			
授業細目		不正咬合 1		責 任 者		顎口腔矯正学分野			
曜日一時限		火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター		講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要		矯正治療に必要な基礎的な知識を習得する。成人期および唇・顎・口蓋裂に代表される先天異常の矯正治療について理解を深める。また、患者管理について講義を行う。							
学習の到達 目標		一般目標：矯正歯科治療に必要な基礎的な知識を習得する。 個別目標： ① 動的治療後の後戻りの原因、保定の必要性および保定方法について説明できる。 ② 各不正咬合に対する矯正治療の基礎的な知識を取得し説明できる。 ③ 成人期の矯正治療について知識を取得し説明できる。 ④ 口唇・口蓋裂に代表される先天異常の矯正治療について知識を取得し説明できる。							
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容					担 当 者	
	1		矯正装置Ⅱ【 E-4-1) ⑤ 】					金高 弘恭	
	2		保定（静的治療）の必要性和方法【 E-4-1) ⑤、⑥ 】					金高 弘恭	
	3		成人期の矯正歯科治療（通常のエッジワイズ治療）、矯正用材料と器具【 E-4-1) ③ 】					金高 弘恭	
	4		成人期の矯正歯科治療（外科的矯正治療）【 E-4-1) ③ 】					金高 弘恭	
	5		成人期の矯正歯科治療（歯周・補綴・MTM）【 E-4-1) ③ 】					北浦 英樹	
アドバイス			「矯正診断学」、「矯正歯科治療学総論」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
授業時間外学習			下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等			歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法			一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔発育学Ⅱ		授業担当 責 任 者	金高 弘恭			
授業細目	不正咬合 2			顎口腔矯正学分野			
曜日一時限	火－１・２	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について理解する。 個別目標： ① 顎口腔機能の評価に関する知識を取得し説明できる。 ② 顎関節の形態と顎口腔機能の関係について知識を取得し説明できる。 ③ 矯正力が骨に作用した際の生体反応を理解し説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	顎顔面骨格形態の分類と下顎骨の成長【 E-2-3) ①、②、③				金高 弘恭	
	2	顎口腔機能評価【 E-2-2) ④ 】【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	3	口唇・口蓋裂の矯正歯科治療【 E-4-1) ③ 】				金高 弘恭	
	4	先天異常の基礎と臨床【 E-2-4)-(1) 】				金高 弘恭	
	5	顎関節の成長と発育【 E-2-3) ①、②、③ 】				金高 弘恭	
アドバイス		「矯正診断学」、「矯正歯科治療学総論」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。					
授業時間外学習		下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。					
テキスト・教材・参考書等		歯科矯正学（第7版、医歯薬出版）。講義レジュメを配布する。					
成績評価の方法		一括試験（筆答）と出席により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ (実習)		授業担当 責 任 者	金高 弘恭		
授業細目		矯正診断学実習 (1)			顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	木－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスタ ー	講義室名	B3 講義室 B3 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要		初診時の資料を学生に配布し、各所見、分析値および重ね合わせ図から、その症例の分析、 診断方法についてマルチメディアシステム（PC）を介して学習する。					
学習の到達 目標		一般目標：矯正診断に必要な知識と技術を習得する。 個別目標： ① 矯正歯科診断に必要な検査に関して理解する。 ② 矯正歯科診断に必要な分析の基本的な手技を会得する。 ③ 分析結果を評価できる知識を会得し診断の技術を習得する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１、２	オリエンテーション 診断実習Ⅰ-(１)（パノラマ、エックス線写真および模型分析） 【 E-4-1) ③ 】				教員全員	
	３、４	診断実習Ⅰ-(２)（セファロ分析）【 E-4-1) ③ 】				〃	
	５、６	診断実習Ⅰ-(３)（成長分析・総合診断）【 E-4-1) ③ 】				〃	
アドバイス		7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
授業時間外学習		実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マ ニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じ く下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと 心得ておくこと。					
テキスト・教材・ 参考書等		歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法		ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ (実習)		授業担当 責 任 者	金高 弘恭 顎口腔矯正学分野		
授業細目		矯正診断学実習（２）					
曜日－時限		木－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名 B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要		第一段階治療終了時の資料を学生に配布し、各所見、分析値および重ね合わせ図から、その症例の治療経過およびその評価についてマルチメディアシステム（PC）を介して学習する。					
学習の到達 目標		一般目標：矯正診断に必要な知識と技術を習得する。 個別目標： ① 矯正歯科診断に必要な検査に関して理解する。 ② 矯正歯科診断に必要な分析の基本的な手技を会得する。 ③ 分析結果を評価できる知識を会得し診断の技術を習得する。					
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者	
	１、２		診断実習Ⅱ－（１） （治療後パノラマ、エックス線写真および模型分析）【E-4-1）③】			教員全員	
	３、４		診断実習Ⅱ－（２）（治療後セファロ分析）【E-4-1）③】			〃	
	５、６		診断実習Ⅱ－（３）（治療結果評価・治療計画再立案）【E-4-1）③】			〃	
アドバイス		7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
授業時間外学習		実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。					
テキスト・教材・参考書等		歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法		ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目		口腔発育学Ⅱ (実習)		授業担当 責 任 者	金高 弘恭 顎口腔矯正学分野		
授業細目		矯正治療学実習（１）					
曜日一時限		木－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名 B4 講義室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要		舌側弧線装置や保定装置の作成に必要なワイヤー屈曲や自在鑑着の基本的な手技を修得する。					
学習の到達 目標		一般目標：ワイヤー屈曲や自在ろう着の技術を習得する。 個別目標： ① ワイヤー屈曲の基本的な技工操作ができる。 ② 自在鑑着の基本的な技工操作ができる。					
授業 計画 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１、２	治療学実習の説明 基本手技（ワイヤー屈曲・自在ろう着）【 E-4-1) ④、⑤ 】				教員全員	
	３、４	ワイヤー屈曲・自在ろう着の基本手技の試験【 E-4-1) ④、⑤ 】				〃	
アドバイス		7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
授業時間外学習		実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。					
テキスト・教材・ 参考書等		歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法		ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目	口腔発育学Ⅱ (実習)		授業担当 責 任 者	金高 弘恭 顎口腔矯正学分野			
授業細目	矯正治療学実習 (2)						
曜日一時限	木－3・4	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯の移動、保隙、保定等に使用頻度の高い舌側弧線装置の作製方法を修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：舌側弧線装置作製の技工操作を習得する。 個別目標： ① 舌側弧線装置作製の基本的構造を理解する。 ② 舌側弧線装置作製の基本的技工操作ができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1	舌側弧線装置の作製(1) (タイポドントセットアップ、材料および器具の確認) 【 E-4-1) ④、⑤ 】					教員全員
	2	舌側弧線装置の作製(1)-2 (バンド試適、印象、作業模型の作製) 【 E-4-1) ④、⑤ 】					〃
	3、4	舌側弧線装置の作製(2) (ST ロックのろう着) 【 E-4-1) ④、⑤ 】					〃
	5、6	舌側弧線装置の作製(3) (脚部、主線の屈曲、補助弾線の付与) 【 E-4-1) ④、⑤ 】					〃
	7、8	舌側弧線装置の作製(4) (舌側弧線装置の装着) 【 E-4-1) ④、⑤ 】					〃
アドバイス		7 セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。					
授業時間外学習		実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。					
テキスト・教材・参考書等		歯科矯正学実習マニュアル					
成績評価の方法		ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。					

授業科目		口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)		授業担当	飯久保 正弘		
授業細目		放射線物理学		責任者	歯科医用情報学分野		
曜日・時限	水－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線（とくにエックス線）の性質について理解する。 概要：放射線について理解し、放射線を利用する際の利益と不利益（害）について学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：歯科医療における放射線物理学の役割について理解し実践する。 個別目標： ① 放射線の定義について説明できる。 ② 放射線の性質について説明できる。 ③ 放射線を利用することの利益と不利益（害）について説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	放射線って何？ (身近な放射線、放射線の歴史、放射線利用の利益と不利益（害）、医学と放射線) [D-2-5-1] [D-2-5-3]				飯久保 正弘	
	2	エックス線って何？ (原子の構造、エックス線と放射線、エックス線と電磁波、エックス線の発生) [A-1-1-3] [D-2-5-1]				飯久保 正弘	
	3	エックス線の性質、エックス線の減弱、 エックス線と物質との相互作用 [D-2-5-1] [D-2-5-4]				飯久保 正弘	
	4	歯科用エックス線撮影装置、写真処理、デジタル画像 [D-2-5-4] [D-2-5-5]				飯久保 正弘	
	5	エックス線画像の成り立ち、画像診断のコツ [D-2-5-4]				飯久保 正弘	
アドバイス		物理が苦手な学生にもわかりやすいように、当分野ではやさしいテキストを作成しています。ビジュアルな講義で、臨床例をたくさん供覧しますから講義には必ず出席してください。					
予習・復習		当分野では、学生に分かりやすいテキスト（Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition）を作成している。このテキストを用いて予習復習するとよい。					
テキスト・教材・ 参考書等		・Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition（当分野オリジナル） ・歯科放射線学第7版（岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集）医歯薬出版株式会社 ・歯科国試パーフェクトマスター 歯科放射線学（飯久保正弘、村上秀明 編著）医歯薬出版株式会社					
成績評価の方法		授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。					

授業科目		口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)		授業担当 責 任 者	飯久保 正弘 歯科医用情報学分野				
授業細目		放射線生物学							
曜日－時限		水－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN318J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯科医療において放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線の人体に対する影響と放射線防護の方法ならびに放射線治療について理解する。 概要：放射線防護と管理について学ぶ。							
学習の到達 目標		一般目標：放射線の防護と管理について理解する。 個別目標： ① 放射線障害について説明できる。 ② 放射線障害の予防について説明できる。 ③ 放射線治療の特徴について説明できる。							
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者			
	1		【放射線防護と管理】 (放射線障害の防止に関する法令、核医学、放射線の単位、放射線の測定、放射線防護の原則 [D-2-5-1])			小嶋 郁穂			
	2		【放射線生物学】 (放射線の生物作用、放射線感受性、確定的影響と確率的影響、早期影響と晩発影響、遺伝的影響) [D-2-5-2]			飯久保 正弘			
	3		【放射線治療】 (外部照射と組織内照射、放射線治療と歯科治療) [D-3-1-6-3] [D-5-4-6]			飯久保 正弘			
アドバイス		物理・化学が苦手な学生にもわかりやすいように、当分野ではやさしいテキストを作成しています。ビジュアルな講義で、臨床例をたくさん供覧しますから講義には必ず出席してください。							
予習・復習		当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition) を作成している。このテキストを用いて予習復習するとよい。							
テキスト・教材・ 参考書等		・Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第7版 (岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集) 医歯薬出版株式会社 ・歯科国試パーフェクトマスター 歯科放射線学 (飯久保正弘、村上秀明 編著) 医歯薬出版株式会社							
成績評価の方法		授業への出席、態度および筆記試験等を参考に総合的に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。							

授業科目	口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)		授業担当	飯久保 正弘			
授業細目	画像診断学		責 任 者	歯科医用情報学分野			
曜日一時限	水－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 2 講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：疾患を的確に診断するために必要な画像検査法の特徴と適応について学習し画像を解釈する。 概要：歯科放射線学の基礎および臨床の概論について学び、画像診断に必要な知識および技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔診断学における画像診断の役割について理解し実践する。 個別目標： ① 画像診断の目的を説明できる。 ② 画像検査法及び適応症について説明できる。 ③ 画像情報の正しい利活用を学ぶ						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	放射線診断学・画像診断学 [D-2-5-6～9]				飯久保 正弘	
	2	放射線物理学・放射線管理学・放射線治療学 [D-2-5-2] [D-2-5-3] [D-2-5-5]				飯久保 正弘	
	3	歯科放射線撮影学 [D-2-5-1] [D-2-5-4] [D-2-5-5]				飯久保 正弘	
	4	口腔診断学 [D-2-2] [D-3-1-10]				飯久保 正弘	
	5	画像情報管理と AI [IT-01～06, C-6-3-1～4]				飯久保 正弘	
アドバイス	● 疾患を診断するために画像情報は必要不可欠である。様々な画像診断の特徴および適応について十分に理解し、臨床に役立ててほしい。 ● 授業へのモチベーションを高めるために、授業毎に毎回小テストを行う。授業には必ず出席し、配布するテキストを用いて復習を行うこと。 ● 授業では学生に対して質問を行い、その回答をみて授業を工夫する（双方向的授業）。ためらわずに自分の考えを発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の 16:30-17:20 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C 棟 6 階）に気軽に質問に来るように。						
予習・復習	当分野では、学生に分かりやすいテキスト（Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition）を作成している。このテキストを用いて予習復習するとよい。						
テキスト・教材・ 参考書等	・Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition（当分野オリジナル） ・歯科放射線学 7 版（岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集）医歯薬出版株式会社 ・歯科国試パーフェクトマスター 歯科放射線学（飯久保正弘、村上秀明 編著）医歯薬出版株式会社						
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に総合的に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。						

授業科目		口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)		授業担当	飯久保 正弘		
授業細目		画像診断学実習		責 任 者	歯科医用情報学分野		
曜日・時限	水－3・4	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B 2 講義室 B 2 実習室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：疾患を正しく診断するために、歯科臨床で用いられるエックス線画像の正常像および病態像の読影能力を身につけ、画像を解釈することができる。 概要：画像診断の重要性について学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：解剖学的構造がどのように画像所見として現れるかについて理解する。 個別目標： ① 画像の正常像について解釈できる。 ② 画像の異常像について説明できる。 ③ 画像の異常像と疾患の特徴について理解できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口内法正常像 [D-2-5-7]				当分野教員全員	
	2	口内法病態像 [E-2-5-4]				当分野教員全員	
	3	口外法正常像 [D-2-5-7]				当分野教員全員	
	4	口外法病態像 [E-2-5-4]				当分野教員全員	
アドバイス		歯科臨床において、エックス線写真は疾患の診断と治療効果の判定に必要不可欠である。エックス線写真の読影の基礎を十分に身につけ臨床に役立ててほしい。					
予習・復習		当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition) を作成している。このテキストを用いて予習復習するとよい。					
テキスト・教材・ 参考書等		・Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第7版 (岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集) 医歯薬出版株式会社 ・歯科臨床における画像診断アトラス (日本歯科放射線学会)、医歯薬出版株式会社 ・臨床イメージノート (小林馨、笹野高嗣ら)、永末書店					
成績評価の方法		実習態度および実習成績等を参考に評価する。					

授業科目		口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)		授業担当		飯久保 正弘	
授業細目		口腔診断学		責 任 者		歯科医用情報学分野	
曜日一時限		水－３・４	対象年次 学期	４年次 ７セメスター	講義室名	B２講義室	科目番号 DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：疾患を的確に診断するための臨床診断および画像診断のプロセスについて習得し全人的かつ論理的な診断能力を身につける。 概要：問診、臨床所見、検査所見から疾患を診断するプロセスについて学ぶ。					
学習の到達 目標		一般目標：問診、臨床所見、検査所見の重要性について理解する。 個別目標： ① 患者さんを大切にしたい医療面接ができる。 ② 問診、臨床所見、検査所見をもとに総合的に疾患を診断することを理解する。 ③ 全人的見地から疾患を診断する知識・技術・態度を身につける。 ④ 治療方針および予後について説明できる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯および歯周組織の診断 [D-3-2-1] [D-3-2-5]				飯久保 正弘	
	2	顎骨の診断（奇形、外傷、炎症） [D-3-1-2] [D-3-1-3]				飯久保 正弘	
	3	顎骨の診断（嚢胞、腫瘍） [D-3-1-5] [D-3-1-6]				小嶋 郁穂	
	4	顎関節の診断 [A-3-2-8] [D-3-1-7]				飯久保 正弘	
	5	鼻腔・副鼻腔の診断 [A-3-3-8]				小嶋 郁穂	
	6	軟組織の画像診断 [D-2-5] [D-3-1]				小嶋 郁穂	
	7	検査診断学 [D-2-3-1] [D-2-3-6]				新垣 理宣	
	8	医療面接の基礎（実習を含む） [D-2-1-1] [E-2-1-1]				総合歯科診療部	
アドバイス		問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える歯科医師」を目指してほしい。ここでは診断のプロセスについてわかりやすく解説する。					
予習・復習		当分野では、学生に分かりやすいテキスト（Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition）を作成している。このテキストを用いて予習復習するとよい。					
テキスト・教材・参考書等		・Oral Diagnosis and Radiology 9 th edition（当分野オリジナル） ・歯科放射線学第7版（岡野友宏、小林馨、有地榮一郎 編集）医歯薬出版株式会社					
成績評価の方法		授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。					

授業科目		口腔病態外科学 II		授業担当 責任者	山内健介		
授業細目		手術学 小手術、顎関節疾患			顎顔面口腔再建外科学分野		
曜日一時限	月-1, 2	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	B 4 講義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：手術の特徴、管理方法を理解する。小手術、顎関節疾患を理解する。 概要：手術学、抜歯などの小手術の管理、顎関節疾患について理解する。					
学習の到達 目標		一般目標：手術の適応と管理を理解する。顎関節疾患の診断、治療を理解する。 個別目標： ①手術の特徴、器具を理解する。 ②炎症・アレルギー疾患について理解する。 ③抜歯の方法および偶発症を理解する。 ④顎関節疾患の診断と治療を理解する。					
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者	
	1	手術学総論[D-5-4-1], [D-5-4-4], (旧 E-1-5-1, E-1-5-6)				山内健介	
	2～6	手術学各論（抜歯と歯牙移植および小手術、創傷治癒、嚢胞、膿瘍切開、硬・軟組織）[D-5-4-3], [D-5-4-5], [D-3-1-5-1], [D-3-1-5-2], (旧 E-1-5-3, E-1-5-9, E-2-4-3-2)				瀬瀬衆・江副祐史・柳沢佑太、齊藤志都	
	7～10	口腔顎顔面の炎症（MRONJ を含む）とアレルギー[D-3-1-3-1～7], [D-3-1-10-3] (旧 E-2-4-3-1)				武田裕利、井本和宏、黒田加奈子	
	11, 12	抜歯と偶発症[D-5-4-2] (旧 E-1-5-2)				柳沢佑太	
	13	処置時の注意、バイタルサイン[D-2-3-2], [D-5-4-6] (旧 E1-4-1-1, E1-4-1-4)				武田裕利	
	14～17	顎関節疾患[D-3-1-7-1], [D-3-1-7-2] (旧 E-2-4-7-1, E-2-4-7-2)				江副祐史	
アドバイス		●必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ●授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ●授業期間中、授業当日の 17:00-18:00 に officehour を設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C 棟 5 階）に気軽に質問に来るように。					
予習・復習		下記に示す成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づく治療法を理解して欲しい。					
テキスト・教材・参考書等		最新口腔外科学（総論・各論）口腔外科学（宮崎正） 口腔外科ハンドマニュアル（クインテッセンス出版）TMD を知る					
成績評価の方法		筆記試験、講義出席回数					

授業科目		口腔病態外科学 II		授業担当	山内健介		
授業細目		高度医療を要する口腔顎顔面領域の疾患		責任者	顎顔面口腔再建外科学分野		
曜日一時限	月-1,2	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	B4 講義室	科目番号	DDE-DEN319J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：口腔顎顔面領域の疾患のうち、特に専門的な治療を要する疾患の病態、診断、治療を理解する 概要：口腔顎顔面の先天異常、後天異常、外傷、インプラント外科治療、補綴前外科処置を理解する。					
学習の到達 目標		一般目標：口腔顎顔面領域の疾患のうち、特に専門的な治療を要する疾患を理解する。 個別目標： ①先天異常の診断と治療を理解する。 ②後天異常の診断と治療を理解する。 ③外傷の診断と治療を理解する。 ④インプラント外科治療、補綴前外科処置を理解する。					
授 業 計 画	回数	授業内容			担当者		
	1～3	口腔顎顔面領域の先天異常[D-3-1-1-1], [D-3-1-1-2], [D-3-1-1-4] [H28：E-2-4)-(1)①、②]			黒田佳奈子		
	4～6	口腔顎顔面領域の後天異常[D-3-1-1-3] [H28：E-2-4)-(1)③、④]			山内健介		
	7～9	口腔顎顔面領域の外傷[D-3-1-2-1～5] [H28：E-2-4)-(2)①～⑤]			山内健介・柳沢佑太・井本和宏		
	10	デンタルインプラント[D-5-3-3-1～4] [H28：E-3-4)-(3)①～⑧]			森島浩允		
	11	補綴前外科処置[B-2-6]			森島浩允		
アドバイス		●必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ●授業中에서도不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ●授業期間中、授業当日の17:00-18:00にofficehourを設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C棟5階）に気軽に質問に来るように。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法、医科との連携について理解して欲しい。					
予習・復習		下記に示す成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づく治療法を理解して欲しい。					
テキスト・教材・参考書等		最新口腔外科学（総論・各論）口腔外科学（宮崎正） インプラントのための骨造成法（高橋哲, 医学情報社）					
成績評価の方法		筆記試験、講義出席回数					

授業科目	口腔病態外科学 III		授業担当 責任者	杉浦 剛			
授業細目	口腔外科診療の基本			顎顔面口腔腫瘍外科学分野			
曜日一時限	水ー1・2	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：口唇・口腔・顎顔面領域に症状を生じる各種疾患を診断するために必要な基本的診察と医療安全、院内感染対策について理解する。 概要：基本的診察方法、臨床検査、医療安全、院内感染対策、有病者の口腔外科処置を学ぶ						
学習の到達 目標	一般目標：基本的診察と各種検査、医療安全、院内感染対策について理解する。 個別目標： ① 病歴の聴取と身体所見の記載について理解する。 ② 臨床検査の意義およびその概要を理解する。 ③ 医療安全と院内感染対策について理解する。 ④ 有病者の口腔外科処置を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔外科学総論（口腔外科学診断法）[D-2-2-1] [H28:E-1-1-①②]				杉浦 剛	
	2	医療安全と院内感染対策 [A-4-1-7～9] [H28:C-4-1-②④⑤], [C-3-1-1～4] [H28:A-6-1-①～⑤], [C-3-2-1～6] [H28:A-6-2-①～⑥]				杉浦 剛	
	3	口腔外科疾患の基本的診察（病歴採取と身体所見の記載法）[D-2-2-2] [H28:E-1-1-④], [D-2-3-2] [H28:E-1-4-(1)-①], [D-2-3-3] [H28:E-1-4-(1)-②③], [D-2-3-4] [H28:E-1-4-(1)-④], [D-2-3-5] [H28:E-1-3-③], [D-2-3-8] [H28:E-1-4-(1)-⑥]				宮腰昌明	
	4	臨床検査学（血液、生化学、血清、尿、心電図）[D-2-3-1] [H28:E-1-3-①], [D-2-3-6] [H28:E-1-3-⑤]				江副祐史	
	5	有病者の口腔外科処置 [D-2-3-7] [H28:E-1-4-(1)-⑤], [D-2-4-1] [H28:A-5-1-①～③] [H28:E-6-①②]				江副祐史	
アドバイス	● 口腔外科の基本となる診察法と臨床検査、医療安全、院内感染対策について学ぶ重要な講義となる。 ● 必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C棟5階）に気軽に質問に来るように。						
予習・復習	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。主要な診断方法、医療安全・院内感染対策の重要性を理解して欲しい。また講義の内容を整理して覚えること。						
テキスト・教材・参考書等	口腔外科学 第4版（宮崎 正） 臨床研修イラストレイテッド基本手技「診察と検査」 薬を飲んでいる患者への歯科治療（高橋 哲，クインテッセンス出版 2019）						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目		口腔病態外科学 III		授業担当 責 任 者	杉浦 剛			
授業細目		腫瘍および類似疾患			顎顔面口腔腫瘍外科学分野			
曜日一時限	水-1, 2	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患の診断と治療について理解する。 概要：腫瘍および腫瘍類似疾患、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患						
学習の到達 目標		一般目標：腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患の診断と治療について理解する。 個別目標： ① 腫瘍および腫瘍類似疾患について理解する。 ② 口腔粘膜疾患の種類と特徴を理解する。 ③ 唾液腺疾患の診断と治療を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1～16	腫瘍および腫瘍類似疾患（治療法・切除法）[D-3-1-6-1～5] 【H28：E-2-4-(6)①、②、③、④、⑤】				杉浦 剛・宮腰昌明・梶田倫功、外部講師		
	17, 18	悪性腫瘍に関する再建（硬組織・軟組織）[D-3-1-6-3] 【H28：E-2-4-(6)③】				山内健介・杉浦 剛		
	19	悪性腫瘍に関する放射線治療・化学療法 [D-3-1-6-3] 【H28：E-2-4-(6)③】				宮腰 昌明		
	20	緩和ケア [C-1-3-6], [D-3-1-6-3] 【H28：E-2-4-(6)】 【H28：E-2-4-(6)③】				東 友太郎		
	21, 22	口腔粘膜疾患 [D-3-1-4-1], [D-3-1-4-2], [D-3-1-6-6] 【H28：E-2-4-(4)①、②】 【H28：E-2-4-(6)⑥】				杉浦 剛		
	23, 24	唾液腺疾患 [D-3-1-8-1～7], 【H28：E-2-4-(8)】				黒羽根壮・外部講師		
アドバイス		● 必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の 17:00-18:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C 棟 5 階）に気軽に質問に来るように。						
予習・復習		成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法を理解して欲しい。						
テキスト・教材・参考書等		口腔外科学 第4版（宮崎 正）						
成績評価の方法		筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態外科学 III		授業担当	杉浦 剛			
授業細目	口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患		責任者	顎顔面口腔腫瘍外科学分野			
曜日一時限	月－1、2 金 2	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：口腔・顎顔面領域の各疾患の特徴、治療を理解する。 概要：口腔内科的疾患、機能障害とリハビリテーション、口腔顎顔面領域の嚢胞						
学習の到達 目標	一般目標：口腔内科的疾患、機能障害とリハビリテーション、嚢胞性疾患を理解する。 個別目標： ① 口腔内科的疾患。 ② 精神・心身医学的疾患。 ③ 機能障害とリハビリテーション ④ 口腔顎顔面領域の嚢胞						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～3	口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患（症候群を含む）[D-3-1-10-1～11 H28：E-2-4] (10)①～⑪]				宮腰昌明・斉藤志都 黒田佳奈子	
	4	口腔乾燥と味覚障害 [D-3-1-11-4 H28：E-2-4)-(11)④], [D-3-1-11-5 H28：E-2-4)-(11)⑤]				黒羽根壮	
	5～8	口腔顎顔面領域の神経性疾患と口腔顔面痛 [D-3-1-9-1～5 H28：E-2-4) (9)①～④]				梶田倫功・東友太郎	
	9	精神・心身医学的疾患 [D-5-9-1～7 H28：E-5-3) ①～⑥]				柳沢佑太	
	10, 11	口腔顎顔面領域の機能障害とリハビリテーション [D-3-1-11-3 H28：E-2-4)-(11)④]				山内健介・森島浩允	
	12	摂食嚥下と睡眠時無呼吸症候群 [D-3-1-11-2 H28：E-2-4)-(11)②], [D-3-1-11-6 H28：E-2-4)-(11)⑥]				斉藤志都	
アドバイス	● 必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の 17:00-18:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C 棟 5 階）に気軽に質問に来るように。						
予習・復習	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。						
テキスト・教材・参考書等	最新口腔外科学（総論・各論） 口腔外科学（宮崎 正） MOFP を知る サイコ・デンティストリー						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態外科学Ⅳ A			授業担当	水田健太郎		
授業細目	歯科麻酔学Ⅰ （臨床生理と麻酔・全身管理の基礎）			責 任 者	歯科口腔麻酔学分野		
曜日一時限	金－1	対象年次 学期	4 年次 7 セメスター	講義室名	A1 講義室 または Web	科目番号	DDE-DEN321J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：基礎医学（生理学・薬理学）をベースにした麻酔科学の基礎について理解する。 概要：（１）周術期全身管理に必要な生理学・薬理学、（２）ペインクリニック、（３）局所麻酔法について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：麻酔・周術期・疼痛管理に必要な生理学・薬理学について学ぶ。 個別目標： ① 生理学・薬理学に根ざした基礎麻酔科学とモニタリングについて理解する。 ② 麻酔薬・麻酔関連薬の薬理作用について理解する。 ③ 局所麻酔について説明できる。						
	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1	麻酔科学とは【D-1-2】					水田 健太郎
	2	麻酔薬の薬理学（１）【D-1-2-2-3】【D-1-2-3-2】					水田 健太郎
	3	麻酔薬の薬理学（２）【D-1-2-2-3】【D-1-2-3-2】					佐々木 晴香
	4	全身管理に必要な呼吸生理学【D-1-2】【D-2-3】					佐々木 晴香
	5	全身管理に必要な循環生理学（１）【D-1-2】【D-2-3】					水田 健太郎
	6	全身管理に必要な循環生理学（２）【D-1-2】【D-2-3】					水田 健太郎
	7	生体情報モニタリング（呼吸、循環、体温、中枢神経系、筋弛緩）【D-2-3】					花本 博 広島大学
	8	全身管理に必要な肝・腎・代謝生理学【D-1-2】					星島 宏
	9	全身管理に必要な神経・内分泌生理学【D-1-2】					田中 志典
	10	輸液管理と輸血【D-1-2】					水田 健太郎
	11	局所麻酔薬【D-1-2-1】					水田 健太郎
	12	局所麻酔法【D-1-2-1】					水田 健太郎
	13	予備					水田 健太郎
	14	予備					水田 健太郎
	15	予備					水田 健太郎
アドバイス	● 講義内容に応じてオンライン型講義を併用する。 ● 指定教材による予習を行ってから授業に臨むこと。 ● 麻酔科学を学ぶ上で生理学・薬理学の知識は必須である。生理学・薬理学を復習した上で受講すること。						
授業時間外学習	限られた授業時間内で理解を深めるためには、麻酔科学の成書のみならず生理学・薬理学・内科学の成書による予習・復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等	【推薦図書】歯科麻酔学 第9版（医歯薬出版）、臨床歯科麻酔学 第6版（永末書店）、歯科麻酔・生体管理学第2版（学建書院） 【参考図書】標準麻酔科学（医学書院）、麻酔の科学（講談社ブルーバックス）、ギャノン生理学（丸善出版）、NEW 薬理学（南江堂）						
成績評価の方法	筆記試験及び講義後レポートで評価する。尚、成績不良者に対して再試験を行う場合があるが、成績は本試験の結果とともに評価するため、試験を正当な理由なく欠席した場合には自動的に単位は認定できなくなる。						

授業科目		口腔病態外科学ⅣB (4年生)		授業担当	水田健太郎			
授業細目		歯科麻酔学Ⅱ (麻酔・全身管理の臨床)		責 任 者	歯科口腔麻酔学分野			
曜日一時限		金ー1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1講義室 またはWeb	科目番号	DDE-DEN332J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：麻酔・周術期管理の臨床について理解する。 概要：周術期の麻酔管理方法、小児・高齢者、様々な基礎疾患を有する患者の麻酔管理について学ぶ。 また心肺蘇生法、全身的偶発症への対処、口腔顔面痛治療について学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：実臨床で用いられる麻酔法、周術期管理法について学ぶ。 個別目標： ① 全身麻酔法・鎮静法の適応とその手順を説明できる。 ② 小児、高齢者、障害者、基礎疾患を有する患者の麻酔管理を理解する。 ③ ペインクリニックについて説明できる。 ④ 歯科における救急処置について理解し説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1	全身麻酔法【D-1-2-3】				水田 健太郎		
	2	精神鎮静法【D-1-2-2】				水田 健太郎		
	3	気道管理【D-1-2-3】				水田 健太郎		
	4	呼吸器疾患を有する患者の麻酔 【D-1-2】【D-2-3】【D-6-1】				水田 健太郎		
	5	肝・腎疾患を有する患者の麻酔 【D-1-2】【D-2-3】【D-6-1】				星島 宏		
	6	内分泌・代謝系疾患、血液疾患を有する患者の麻酔 【D-1-2】【D-2-3】【D-6-1】				佐々木 晴香		
	7	循環器疾患を有する患者の麻酔 【D-1-2】【D-2-3】【D-6-1】				川人 伸次 徳島大学教授 歯科麻酔科学分野		
	8	ショック【D-1-1】				水田 健太郎		
	9	高齢者・障がい者の麻酔管理 【D-1-2】【D-5-7】【D-5-8】【D-5-9-6】				星島 宏		
	10	小児の麻酔管理【D-1-2】【D-5-6】				蔵谷紀文 埼玉県立小児医療センター麻酔科		
	11	口腔顔面痛の病態と診断・治療【D-3-1-9】				山内 正憲 医学系研究科教授 麻酔科学・周術期医学分野		
	12	心肺蘇生法（一次、二次救命処置）【D-1-1】				星島 宏		
	13	歯科治療時の全身的偶発症【D-1-1】				水田 健太郎		
	14	予備				水田 健太郎		
15	予備				水田 健太郎			
アドバイス		● 講義内容に応じてオンライン型講義を併用する。 ● 指定教材による予習を行ってから授業に臨むこと。 ● 麻酔科学を学ぶ上で生理学・薬理学の知識は必須である。生理学・薬理学を復習した上で受講すること。						
授業時間外学習		限られた授業時間内で理解を深めるためには、麻酔科学の成書のみならず生理学・薬理学・内科学の成書による予習・復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等		【推薦図書】歯科麻酔学 第9版（医歯薬出版）、臨床歯科麻酔学 第6版（永末書店）、歯科麻酔・生体管理学第2版（学建書院） 【参考図書】標準麻酔科学（医学書院）、麻酔の科学（講談社ブルーバックス）、ギャノン生理学（丸善出版）、NEW 薬理学（南江堂）						
成績評価の方法		筆記試験及び講義後レポートで評価する。尚、成績不良者に対して再試験を行う場合があるが、成績評価は本試験とともに評価するため、試験を正当な理由なく欠席した場合には自動的に単位は認定できなくなる。						

授業科目		隣接医学		授業担当 責任者	学部教務委員会			
授業細目								
曜日一時限	時間割 を参照	対象年次 学期	4 年次 7・8 セメスター	講義室名	A 1 講義室 B 1 講義室	科目番号	DDE-DEN333J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：歯科医療を全身からとらえ、全身と口腔との関連を理解する。 概要：内科学及び外科学を学ぶとともに、歯学領域と関連が深く歯科医療を遂行する上で必要となる耳鼻咽喉科学、眼科学、皮膚科学、小児科学、婦人科学及び精神科学等を統合的に学ぶ。これらの講義においては、頻度の高い疾患に関する確実な知識と口腔領域との関連性を理解するとともに、治療上の留意点を学ぶ。						
学習の到達 目標		一般目標：歯科医療を全身からとらえ、全身と口腔との関連を把握する。 個別目標： ①内科学的な観点から、全身と口腔との関連を説明できる。 2 外科学的な観点から、全身と口腔との関連を説明できる。 3 耳鼻咽喉科学、眼科学、皮膚科学等、隣接医学の観点から口腔との関連を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授業内容				担当者		
		詳細は、別途通知する。【A】 【H28:E-6】						
アドバイス		授業には必ず出席すること。近年の歯科医師国家試験では本授業科目で学ぶ項目からの出題が増えている。歯科医療を遂行する上でも必ず役に立つ授業科目である。基礎系科目の知識も活用し、深く理解する姿勢が大事である。						
授業時間外学習		範囲が膨大であるため、復習を欠かさないこと。						
テキスト・教材・ 参考書等		別途指示する。						
成績評価の方法		出席及び試験により評価する。						

授業科目	総合歯科学Ⅰ（４年生）			授業担当	小川 徹		
授業細目	態度・臨床技能実習（１）			責 任 者	総合歯科学分野		
曜日一時限	月－３・４ 金－３・４	対象年次 学期	４年次 ８セメスター	講義室名	B 2 実 B 3 講義室 PBL ルーム	科目番号	DDE-DEN334J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：本授業の目標は、歯学部学生が医療現場で信頼される人材になるためのコミュニケーション能力の向上を目指す。臨床に入った際、意図を理解し正しく行動したり、考えを正確に伝えチーム医療を円滑に行ったりできるようにする。 概要：本授業は、課題に積極的に取り組むほど向上につながる。客観的に自分のコミュニケーションの取り方を評価し、言語・非言語の両面からコミュニケーション能力の向上を目指す。						
学習の到達 目標	一般目標：客観的に自分のコミュニケーションの取り方を見極め、チーム医療や患者との会話の際、より良く取り組めるようにする。 個別目標： 1. 寄り添うことを徹底的に突き詰め、自分の価値観や先入観、同時に他者との違いを知る。 2. 言語・非言語の両面から、コミュニケーション能力の向上に必要な要素を学ぶ。 3. 教員、学生、患者とコミュニケーションを「より良く」とれるように、相手の意図を理解したり、正確に伝えたりする能力を向上させる。 4. 医療面接の目的・基本を理解する。医療面接に必要な態度・知識・技能を修得する。医療面接から疾患を類推し、臨床推論の基本を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１・２	コミュニケーション概論：客観視するために価値観や先入観を自分の中から見つけだす。【C-1-3-4】				高山香織	
	３・４	言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの両面から多種多様なコミュニケーション方法があることを学び、今まで自分が身につけてきた「当たり前の殻」を破る。【D-2-1-1】				高山香織	
	５・６・７	効果的なコミュニケーション、意図をくみ寄り添う聞き方を参加型授業で徹底的に練習する。【E-2-1-1-2】				高山香織	
	８・９	医療面接と診断、医療面接の目的・基本（進め方と評価項目、ロールプレイ実習）【D-2-1-1】				小川 徹	
	１０・１１	医療面接実習１（ロールプレイ実習、疾患の類推）【D-2-1-1】				小川 徹	
	１２・１３	医療面接実習２（ロールプレイ実習、疾患の類推）【D-2-1-1】				小川 徹	
アドバイス	● 臨床で自信を持って話したり、寄り添った傾聴をしたりする際、エラーが起きるのは医師にも患者にも病院にもプラスが無い。授業内ではエラーを怖がらず「自分なりに」考えて言動にうつすこと。 ● コミュニケーション能力は経験数が多いほど成長の機会になるので、授業内では積極的にコミュニケーションをとること。						
予習・復習	俯瞰で自分のコミュニケーションについて見えるようになることが望ましいので、生活すべての中で、自分の話し方や他者への態度について気に掛けること。						
テキスト・教材・参考書等	講師より指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	出席状況、授業内での課題への参加意欲、レポートで評価する。						

授業科目		総合歯科学Ⅱ		授業担当 責任者	小川 徹 総合歯科学分野			
授業細目		態度・臨床技能実習（１）						
曜日一時限	月・水・金 －３・４	対象年次 学期	５年次 ９セメスター	講義室名	B2実 B3講・実 B4講・実	科目番号	DDE-DEN334J	
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：臨床実習に参加する学生に必要とされる態度と基本的臨床技能を習得する。 同時に、コア科目の知識を整理する。 概要：臨床実習を開始するために必須の臨床能力を実習によって習得する。						
学習の到達 目標		一般目標：臨床実習に必要な基本的臨床能力を習得する。 個別目標： ① 医療面接ができる。 ② 患者への説明・指導ができる。 ③ 基本的な臨床手技ができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	１・２	総合歯科学オリエンテーション、共用試験（CBT／OSCE）について【D-5-1】				小川 徹 CBT 実施責任者 OSCE 実施責任者		
	３・４	ブラッシング指導【D-5-1-3】、フッ化物塗布【D-5-1-2】				予防歯科学		
	５・６	保護者へのブラッシング指導【D-5-1-3】、予防填塞【D-5-1-2】、保隙装置の説明【D-5-6-9】				小児発達歯科学		
	７・８	矯正装置の説明【D-5-5-4】				顎口腔矯正学		
	９・１０	バイタルサイン【D-2-3-2,3】、心肺蘇生【D-1-1-2】				歯科口腔麻酔学		
	１１・１２	口腔内状態の記録【D-2-2】				歯科医用情報学		
	１３・１４	エックス線撮影の説明【D-2-5-1,2,3】				歯科医用情報学		
アドバイス		実習の順番は担当分野の都合により変更されるので、初回オリエンテーションで配布する授業日程に従うこと。						
予習・復習		下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修した科目についてしっかりと復習すること。						
テキスト・教材・参考書等		臨床実習開始前の「共用試験ガイドブック」第22版（令和6年）（デジタル版）（初回に必ず持参のこと）。その他適宜紹介する。						
成績評価の方法		出席状況、履修態度、共用試験（CBT／OSCE）の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。						

授業科目		総合歯科学Ⅱ		授業担当	小川 徹		
授業細目		態度・臨床技能実習（２）		責 任 者	総合歯科学分野		
曜日一時限	月・水・金 －３・４	対象年次 学期	５年次 ９セメスター	講義室名	B 2 実 B 3 講・実 B 4 講・実	科目番号	DDE-DEN334J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：臨床実習に参加する学生に必要とされる態度と基本的臨床技能を習得する。 同時に、コア科目の知識を整理する。 概要：臨床実習を開始するために必須の臨床能力を実習によって習得する。					
学習の到達 目標		一般目標：臨床実習に必要な基本的臨床能力を習得する。 個別目標： ① 医療面接ができる。 ② 患者への説明・指導ができる。 ③ 基本的な臨床手技ができる。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	１・２	歯周病の病状の説明【D-5-2-3-1】、スケーリング・ルートプレーニング【D-5-2-3-3】				歯内歯周治療学	
	３・４	手洗いと滅菌グローブ装着【D-5-4-4】、普通抜歯【D-5-4-1, 3】				顎顔面・口腔外科学	
	５・６	縫合【D-5-4-3】、頭頸部の診察【D-2-2-1, 2】				顎顔面・口腔外科学	
	７・８	初診患者の医療面接（急性症状／慢性症状）【D-2-1-1】				総合歯科学	
	９・１０	う蝕象牙質の除去【D-5-2-1-1】				歯科保存学	
	１１・１２	コンポジットレジン充填【D-5-2-1-1, 2, 3, 4】、修復用隔壁の装着【D-5-2-1-4】				歯科保存学	
	１３・１４	ラバーダム防湿／根管治療【D-5-2-2-1, 2, 3, 4】				歯科保存学	
アドバイス		実習の順番は担当分野の都合により変更されるので、初回オリエンテーションで配布する授業日程表に従うこと。					
予習・復習		下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修した科目についてしっかりと復習すること。					
テキスト・教材・参考書等		臨床実習開始前の「共用試験ガイドブック」第 22 版（令和 6 年）（デジタル版）（初回に必ず持参のこと）。その他適宜紹介する。					
成績評価の方法		出席状況、履修態度、共用試験（CBT／OSCE）の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。					

授業科目	総合歯科学Ⅱ		授業担当 責 任 者	小川 徹 総合歯科学分野			
授業細目	態度・臨床技能実習（3）						
曜日一時限	月・水・金 － 3・4	対象年次 学期	5 年次 9 セメスター	講義室名	B2 実 B3 講・実 B4 講・実	科目番号	DDE-DEN334J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：臨床実習に参加する学生に必要とされる態度と基本的臨床技能を習得する。 同時に、コア科目の知識を整理する。 概要：臨床実習を開始するために必須の臨床能力を実習によって習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：臨床実習に必要な基本的臨床能力を習得する。 個別目標： ① 医療面接ができる。 ② 患者への説明・指導ができる。 ③ 基本的な臨床手技ができる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	15・16	概形印象採得、プロビジョナルレストレーションの製作【D-5-3-1-8】				分子・再生歯科補綴学 口腔システム補綴学 加齢歯科学	
	17・18	支台歯形成【D-5-3-1-4】、レストシートの形成【D-5-3-2-3】				分子・再生歯科補綴学 口腔システム補綴学 加齢歯科学	
	19・20	CBT 事前体験テスト				CBT 実施責任者	
	21・22	CBT ： 令和8年6月6日（月） 予定				CBT 実施責任者	
	23・24	OSCE ： 令和8年6月15日（土） 予定				OSCE 実施責任者	
アドバイス		実習の順番は担当分野の都合により変更されるので、初回オリエンテーションで配布する授業日程に従うこと。					
予習・復習		下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修した科目についてしっかりと復習すること。					
テキスト・教材・参考書等		臨床実習開始前の「共用試験ガイドブック」第22版（令和6年）（デジタル版）（初回に必ず持参のこと）。その他適宜紹介する。					
成績評価の方法		出席状況、履修態度、共用試験（CBT／OSCE）の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。					

授業科目	アドバンスⅠ（生体材料学）			授業担当 責 任 者	○岡田 正弘、鈴木 治 生体材料理工学分野 （歯科生体材料学分野）		
授業細目	生体材料科学						
曜日一時限	火－2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN801J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科医療の最前線で使われる歯科生体材料やデバイスの基礎を理解し、材料の特性を踏まえた臨床応用を学習する。						
学習の到達 目標	歯科医療の最前線で使われる歯科生体材料やデバイスの基礎及び材料特性を踏まえた臨床応用例を説明できる。						
授 業 計 画	回 数		授業内容		担 当 者		
	1		生体用高分子材料【B-2-2】 【B-2-3】 【H28：D-1②、D-2①②③⑤⑥】		洪 光 （歯学イノベーション リエゾンセンター）		
	2		ジルコニアと医療機器【B-3-2】 【H28：D-1①②③、D-2①②⑤⑥】		中村圭祐 （先端フリーラジカル制御学 共同研究講座）		
	3		歯科インプラントの臨床応用【B-1-3】 【B-2-6】 【H28：D-1①②、D-2⑤】		山田将博 （医工学研究科 メカノ医歯工学分野）		
	4		チタンとチタン合金、磁性材料とデバイス【B-2-1】 【B-2-1】 【B-2-2】 【B-3-2】 【B-2-6】 【H28：D-1①②、D-2②③④⑤】		高田雄京 （株式会社ケディカ）		
	5		チタン合金の応用【B-2-1】 【B-2-6】 【H28：D-1②、D-2②③④⑤】		高橋正敏 （北海道医療大学）		
アドバイス			興味のある先端技術があればインターネットなどで情報を収集し、講義に出席すること。出席を重視する講義なので欠席しないこと。担当教員により、遠隔講義となる場合がある。				
予習・復習			関心を持った内容について、自主的にさらに深く学ぶこと。教員への積極的な質問を心掛けること。				
テキスト・教材・参考書等			授業で随時紹介する。				
成績評価の方法			レポート、出席率、小テストなど。 アドバンスⅠとして一括で評価する。				

授業科目	アドバンスⅠ (アントレプレナーシップ)			授業担当	赤司 征大 WHITE CROSS 株式会社 代表取締役社長		
授業細目				責任者			
曜日・時限	水曜 1時限	対象年 次学期	4年生 後期	講義 室名		科目番号	D
授業の目標並びに目的と概要	目的：現代社会において、常に変化する環境や直面する困難に対して、自らの枠を超えて自律的・積極的に考えて行動を積み重ねていく精神（アントレプレナーシップ）はあらゆる局面において求められる。歯科医師も例外ではない。卒後は、臨床・研究・開業・その他を問わず、自らの意思で人生を切り開いていくことになる。当授業の目的は、歯科医療をベースとしながらも欧米のビジネススクール教育を模した一連の授業を通じて、アントレプレナーシップを体得することにある。						
学習の到達目標	一般目標：アントレプレナーシップを体感し、自律的・積極的に考え行動する姿勢を身につける。 個別目標： 1. ビジネスにおける基礎的な知識を身につける 2. チームでビジネスプランを考えて発表する 3. 招聘講師の人生のストーリーを通じて、先達を突き動かしてきたアントレプレナーシップを擬似体験する 4. ケーススタディを通じて、自ら積極的に発言し、柔軟な頭の使い方や異なる意見を集約していく過程を経験をする						
授業計画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	第1回 10月7日	【座学1】歯科医療の展望				赤司 征大	
	第2回 10月14日	【座学2】経営学の基礎				寺田 曜	
	第3回 10月21日	【座学3】ビジネスビルド				寺田 曜	
	第4回 10月28日	【グループワークショップ1】 起業アイデア出し				赤司 征大	
	第5回 11月4日	【座学4】会計基礎				木村 泰久	
	第6回 11月11日	Eye Opener - 招聘講師 - 対談①「大学でのキャリアを極めるアントレプレナーシップ」				赤司 征大 佐々木 啓一	
	第7回 11月18日	【グループワークショップ2】 ビジネスモデルキャンバス作成				赤司 征大	
	第8回 11月25日	Eye Opener - 招聘講師 - 対談②「日本最大の歯科医院の起業からバイアウトまで」： 2限目へ変更依頼が必要				赤司 征大 鈴木純二	

	第 9 回 12 月 2 日	【グループワークショップ 3】 ピッチ資料	赤司 征大
	第 10 回 12 月 9 日	Eye Opener - 招聘講師 - 対談③「歯科医療の社会的価値を面として高める」	赤司 征大 高橋 英登
	第 11 回 12 月 16 日	【グループワークショップ 4】 最終プレゼンテーション	赤司 征大
	第 12 回 12 月 23 日	【ケーススタディ 1】AI の活用と倫理、そして歯科医療	赤司 征大
	第 13 回 1 月 6 日	【ケーススタディ 2】リーダーシップ & マネジメント	赤司 征大
	第 14 回 1 月 13 日	Eye Opener - 招聘講師 - 対談④「歯科治療を極めて世界に挑戦する」	赤司 征大 船登 彰芳
	第 15 回 1 月 20 日	【ケーススタディ 3】アントレプレナーシップ&総括	赤司 征大
グループワークショ ップとは	数人ずつのグループに分かれて、議論や制作などを行う活動であり、海外の ビジネススクールでは日常的に行われる学習方法です。お互いの強みを活か し合いながらチームワークを身につけることができ、今回は、起業のビジネ スプランを立てる目的で行われます。		
ケーススタディとは	ビジネスにおいて起きた実際の事例を分析・検討して、問題解決方法を探 る、ビジネススクールでは日常的に行われる学習方法です。		
アドバイス	・ インタラクティブな授業になります。間違いや失敗は賞賛されますので、積極的に発言をしてください。失敗という成長の積み重ねこそが、アントレプレナーシップ体得の根源です ・ 楽しむ心を持って臨んでください		
授業時間外学習	・ ケーススタディの予習・課題は徹底してください。コールドコール（積極的に当てられて発言が求められる）があります。		
テキスト・教材 ・参考書等	・ 各自名前のわかるネームプレートを作成の上、授業中は自身の席の前に教員から見えるようにしておくこと ・ ケース購入「組織改革の危険性と落とし穴：若きマネージャーの経営再建の旅」が必要です。購入方法等は 1 回目の講義で説明する		
成績評価の方法	・ 授業への出席 ・ グループワークショップのプレゼンの質とチームメイトからの評価 ・ ケーススタディの予習レポートの質と授業中の発言（回数・質）を元に数字評価し、S/A/B/C を割り振る		

授業科目	アドバンスⅡ・Ⅲ (再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ)		授業担当 責 任 者	鈴木 治 生体材料理工学分野 (顎口腔機能創建学分野)			
授業細目	再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ						
曜日一時限	火-1, 2	対象年次 学期	9セメスター	講義室名	B3 講義室	科目番号	DDE-DEN811J DDE-DEN812J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：プレ大学院授業として、再生・創建医歯学の基盤となる研究を分かり易く紹介し、さらに関連する学術情報に自主的に触れさせることで研究意識を涵養する。 概要：ティッシュ・エンジニアリング（組織工学）および組織再生に用いるバイオマテリアル（生体材料）に関する広範な研究分野の講義を受講し（Ⅰ）、さらに演習で関連する学術情報を収集して課題についてレポートを纏める（Ⅱ）。						
学習の到達 目標	一般目標：再生・創建医歯学の基盤となる学術情報に触れる。 個別目標： ① ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアルの学術情報を概説できる。 ② 関連する学術情報の収集方法を学ぶ。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（１）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				鈴木 治	
	3	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（２）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				岡田正弘	
	4	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（２）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				塩飽由香利 (山田歯科)	
	5	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（３）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				濱井 瞭	
	6	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（４）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				川井 忠 (岩手医科大学歯学部)	
	7	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（５）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				川下将一 (東京科学大学 総合研究院 生体材料工学研究所)	
	8	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（６）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				天雲太一 (東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野)	
	9	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル 講義（７）【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				穴田貴久 (九州大学 先端物質化学研究所)	
	10	Ⅰ ティッシュ・エンジニアリングとバイオマテリアル （８）課題説明 【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				鈴木 治	
	11	Ⅱ 演習説明 【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				鈴木 治	
	12 以降	Ⅱ 演習 【B-1-1】【B-1-2】【B-1-3】【C-2-1】				鈴木 治 濱井 瞭	
アドバイス	● 新聞や科学雑誌等から各自の関心のあるティッシュ・バイオロジーやティッシュ・エンジニアリング、バイオマテリアルの情報を収集しておくことが望ましい。						
授業時間外学習	● 関心を持った内容について、自主的にさらに深く学んでほしい。教員への積極的な質問を歓迎する。						
テキスト・教材・ 参考書等	授業で随時紹介する。						
成績評価の方法	出席とレポート提出による。						

授業科目	アドバンス IV (口腔病態外科学 II)		授業担当	顎顔面口腔再建外科学分野			
授業細目	口腔と全身		責任者	山内健介			
曜日・時限	金-2	対象年次 学期	5 年次 9 セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN814J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：口腔と全人的歯科医療を実践するために、口腔と全身との双方向的な関わりについて理解させる。 概要：口腔病変を引き起こす全身疾患、全身疾患を引き起こす口腔病変、全身疾患と口腔機能、顎機能、有病者、高齢者の治療、歯科疾患における全身的偶発症について学ぶ						
学習の到達 目標	一般目標：口腔と全人的歯科医療を実践するために、口腔と全身との双方向的な関わりについて理解する。 個別目標： ① 口腔病変を引き起こす全身疾患を理解する。 ② 全身疾患を引き起こす口腔病変を理解する。 ③ 口腔機能および顎機能と全身の関係を理解する。 ④ 有病者、高齢者の特徴と歯科治療上の問題を理解する。 ⑤ 歯科疾患における全身的偶発症を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1 (4 月 10 日)	全身疾患と口腔病変 1. 口腔病変を引き起こす全身疾患 [D-3-1-10]				飯久保正弘 (歯科医用情報学分野)	
	2 (4 月 17 日)	全身疾患と口腔病変 2. 全身疾患を引き起こす口腔病変 [D-3-1-10]				飯久保正弘 (歯科医用情報学分野)	
	3 (5 月 1 日)	全身疾患と口腔病変 3. 全身疾患と口腔機能 [D-3-1-10]、[D-3-1-11]				佐藤しづ子 (総合歯科診療部)	
	4 (5 月 8 日)	全身疾患と口腔病変 4. 全身疾患と画像所見 [D-3-1-10]、[D-3-1-4]、[D-3-1-6]				飯久保正弘 (歯科医用情報学分野)	
	5 (5 月 15 日)	顎関節の機能と疾患 [D-3-1-7]、[H28: E-2-4)-(7)]				武田裕利 (顎顔面口腔再建外科学分野)	
	6 (5 月 22 日)	有病者・高齢者への治療 [D-5-7]、[H28: E-5-1)]				黒田佳奈子 (顎顔面口腔再建外科学分野)	
	7 (5 月 29 日)	口腔癌と免疫機構 [D-3-1-6]、[H28: E-2-4)-(6)]				梶田倫功 (顎顔面口腔腫瘍外科学分野)	
	8 (6 月 5 日)	口腔顎顔面領域の慢性痛 [D-3-1-9]、[H28: E-2-4)-(9)]				江副祐史 (顎顔面口腔再建外科学分野)	
	9 (6 月 12 日)	顎顔面の変形・奇形と健康 [D-3-1-1]、[H28: E-2-4)-(1)①]				齊藤志都 (顎顔面口腔再建外科学分野)	
	10 (6 月 19 日)	口腔顎顔面の再建外科治療 [D-5-3-3-2]、[D-5-3-3-3]、[H28: E-3-4)-(3)②、③、④]				山内健介 (顎顔面口腔再建外科学分野)	
	11 (6 月 26 日)	小児病院における小児・障がい者歯科治療 [C-1-2]、[D-5-9]				御代田浩伸 宮城県立こども病院 歯科口腔外科・矯正歯科	
	12 (7 月 3 日)	現代の麻酔管理の実践 [D-1-2]				水田健太郎	

アドバイス	全身疾患の部分症状あるいは初発症状が口腔に現れることがある。逆に、口腔病変が原因となり全身疾患を引き起こす場合もある。全身と口腔の関わりを理解することは、診断および治療を行う上で重要である。
授業時間外学習	下記テキストで該当部分の内容について予習、復習を行い理解を深める。
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology(口腔診断学分野製作) 有病者・高齢者歯科治療マニュアル(医歯薬出版)、歯科麻酔学第8版(医歯薬出版)
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数

授業科目	アドバンスⅤ (災害歯科医学)		授業担当 責 任 者	鈴木 敏彦 災害・環境歯学研究センター 歯科法医学情報学分野			
授業細目	災害歯科医学総論・各論						
曜日一時限	月-1・2 木-3・4	対象年次 学期	5 年次前期	講義室名	B1 講義室 B2 講義室	科目番号	DDE-DEN822J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：災害と災害における歯科保健医療の役割を理解する。 概要：災害の種類やその対策、災害時における歯科の関わり方について学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：災害時の歯科医療について理解する。 個別目標： ①災害の捉え方と、災害対応の概略を理解する。 ②災害による健康被害と、災害時に求められる医療について理解する。 ③災害時の歯科保健活動について理解する。 ④歯科所見による身元確認の理論と実践を理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	災害の定義と分類【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				鈴木敏彦	
	2	災害対応にかかわる法律と政策【C-4-3-7】 【C-4-3-8】 【C-1-2-5】				鈴木敏彦	
	3	災害歯科保健医療における法律と政策【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				中久木康一	
	4	災害と健康被害【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				鈴木敏彦	
	5・6	災害医療活動の体制【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				鈴木敏彦	
	7	災害時の歯科医療総論【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				鈴木敏彦	
	8	災害時の地域歯科保健医療の体制とアセスメント（実習を含む）【C-4-3-7】 【C-4-4-1】				中久木康一	
	9	災害サイクルと災害医療【C-4-3-7】 【C-4-3-8】				中久木康一	
	10	災害時の個別対応時の留意点とアセスメント（実習を含む）【C-4-3-6】 【E-6-2-3】				中久木康一	
	11～14	災害時における法医学と歯科的身元確認（実習を含む）【C-4-2-2】 【C-4-4-1】 【C-4-4-2】 【C-4-4-3】				鈴木敏彦 他	
	15	確認テスト				鈴木敏彦	
アドバイス	災害が発生した場合、医療関係者には、自らの生存と他者に対する支援を両立させることが求められる。災害大国日本において、生命・健康面のみならず、社会的にも孤立せずに生き延びる方策を考える端緒にしたい。 ※実際の講義日程・講義内容は指示に従うこと。						
授業時間外学習	講義担当者から別途指示される場合があるのでそれに従うこと。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：災害歯科医学（医歯薬出版） 参考書：口腔保健・予防歯科学 第2版（医歯薬出版） 災害時の歯科保健医療対策（一世出版） 大規模災害時医療（スーパー総合医シリーズ）（中山書店） 法歯科医学 基礎知識から臨床・災害時の対応まで（永末書店）						
成績評価の方法	出席状況、課題完成状況、確認テストの成果によって総合的に評価する。						

授業科目	合同講義			授業担当	○学部教務委員会		
授業細目				責 任 者	西村壽晃・頭蓋顔面先天異常学分野 金高弘恭・顎口腔矯正学分野		
曜日一時限	水－3・4	対象年次 学期	5 年次 9 セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN815J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科領域の疾患・治療等に関するテーマについて、複数の専門領域にわたる知識や問題点の総合的な理解を図り、学際的な問題への取り組み方、問題解決能力を習得する。基礎系及び臨床系複数分野の教員がそれぞれの立場から講義・解説する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科領域の疾患・治療等に関する諸問題への学際的な取り組みを理解する。 個別目標： ① 歯科領域の疾患・治療等に関する学際的な背景や問題点を説明できる。 ② これらの学際的な問題への取り組み方や解決方法を説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床【A-2-1】【A-5-1】 【D-3-1-1-1】【D-3-1-1-2】【D-5-5】【D-6-1】				頭蓋顔面先天異常学	
	3・4	顎関節症の疼痛、成因、診断、治療【A-3-2】 【D-3-1-7-1】【D-3-1-7-2】				加齢歯科学	
	5・6	メカノバイオロジーの歯学臨床と基礎【RE】【A-1-5】 【A-5-2】【A-6-2】【D-5-5】				顎口腔矯正学	
	7・8	歯科インプラントの臨床【B-2】【A-3-2】【D-5-3】 【D-5-3-3】				顎顔面口腔再建外科学	
	9・10	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療【D-3-1-11-6】				総合歯科診療部	
	11・12	味覚からのヘルスプロモーション【C-4-1】【A-3-1-5】 【A-3-1-6】【D-3-1-11-4】【E-5-2】				歯科医用情報学 総合歯科診療部	
	13・14	歯周病巣局所における host-parasite interaction【A-1-2】 【A-1-3】【A-4-1】【A-4-2】【D-3-2-3】【D-5-2-3】				歯内歯周治療学	
アドバイス		講義の担当分野、内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。					
授業時間外学習		講義担当分野より別途指示される場合があるので、それに従うこと。					
テキスト・教材・ 参考書等		講義担当分野より別途指示される場合があるので、それに従うこと。					
成績評価の方法		担当教員の評価を集計して判定する。					

授業科目	医の倫理・社会の倫理			授業担当	○歯学部教務委員会 (授業取りまとめ：鈴木敏彦(歯科法医情報学分野))		
授業細目				責任者			
曜日・時限	月-1,2 木-3,4	対象年次 学期	9 セメスター	講義室名	B 2 講義室 B1 講義室	科目番号	DDE-DEN816J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：臨床実習を目前に控えた時期に、社会性および職業観について深く考え将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持たせ、倫理観を醸成する機会とする。 概要：学外から招聘する講師の講義を受講し、「生命倫理」「医療倫理・医療安全」「社会倫理」「研究倫理」等に関して広く学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：多彩な分野の講師から直接講義を受け、医療者として具備すべき倫理について学ぶ。 個別目標： ① 生命倫理、医療倫理・医療安全の基本について概説できる。 ② 社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。 ③ 将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持つ。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担 当 者
	1	医療倫理と医療安全 I 【C-1-1】					総合歯科診療部 予防歯科学分野 歯科医用情報学分野 歯科薬理学分野
	2	医療倫理と医療安全 II 【C-1-1-1】 【C-1-1-2】 【C-1-1-3】					伊藤道哉(東北医科薬科大学 医学部 臨床教授)
	3	先天異常にかかわる倫理 【C-1-1】 【C-1-1-2】 【C-1-1-3】 【C-1-1-5】					安田峯生(広島大学 名誉教授)
	4	薬害が繰り返されない未来に 【C-1-1】					山口美智子 (薬害肝炎 全国原告団前代表)
	5	聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと 【C-1-1】 【C-1-1-3】 【C-1-1-4】					松崎 文(宮城教育 大学 教授)
	6	ゲノム医療の倫理的課題 【C-1-1】					武藤香織(東京大学 医科学研究所 教授)
	7	学術研究の倫理 【C-1-1】 【C-1-2】 【C-1-1-5】 【C-1-1-6】					羽田貴史(東北大学 名誉教授)
	8	救急科からみた医療安全と緊急対応 【C-3-1】 【C-3-2】					伊関 憲(福島県立 医科大学 医学部救急 医療学講座 教授)
	9	新生児の倫理：生と死の臨床における歯科医療 【C-1-1】 【C-1-1-2】 【C-1-2】 【C-1-3】					武田康男(東アジア グリーフの集い 代表)
アドバイス		● 実際の講義日程・講義内容は、各講師のスケジュール等によって変動するため、指示に従うこと。 ● 多彩な講師の講義を直接受講できる貴重な機会なので、自覚をもって授業に臨むこと。 ● 質問等による授業への積極的な参加を期待する。					
予習・復習		関心を持った内容について、自主的にさらに深く学んでほしい。					
テキスト・教材・参考書等		講師より指示される場合があるので、それに従うこと。					
成績評価の方法		出席とレポート提出により評価する。					

授業科目	イノベティブ基礎歯学			授業担当 責 任 者	○千葉 美麗 歯学イノベーションリエゾンセンター ○小坂 健 国際歯科保健学分野		
授業細目	未来型歯学・歯科医療						
曜日一時限	火ー 1	対象年次 学期	4 年次 8 セメスター	講義室名	A 1 講義室 B 3 実習室	科目番号	DDE-DEN802J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：超少子高齢社会の日本において必要となる、あらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療のための基礎的知識を習得する。 概要：異分野融合型歯学、先端歯科医療、医療コミュニケーション、統合的硬組織バイオロジー、咀嚼・嚥下機能、要介護高齢者に対する歯科訪問診療・摂食嚥下支援、スポーツ歯学、周術期歯科医療など、これからの歯学・歯科医療において、緊急性・重要性の高い領域について学ぶ。 ※五大学連携事業：課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」（文部科学省事業：平成 26 年度～平成 30 年度）で行われたコア科目をベースに講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。 個別目標： ① 異分野融合型の歯学および先端歯科医療について説明できる。 ② 適切な患者対応を行うためのコミュニケーションに関する知識、技能、態度を習得する。 ③ 硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置づけを確認する。 ④ 正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能について理解する。 ⑤ 要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。 ⑥ スポーツ歯学、周術期の歯科医療について理解する。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	課題解決型高度医療人材養成プログラムが目指すこと【LL】【RE】【PS】【SO】【H28: A-7-1), A-8-1), A-9-1)】				東北大学 先端教育開発部門教員	
	2	異分野融合型先端歯学・歯科医療：先端的歯科医療とは【LL】【RE】【PS】【SO】【H28: A-8-1), A-9-1)】				宮城大学佐々木 啓一	
	3	異分野融合型先端歯学・歯科医療：異分野融合型歯学とは【LL】【RE】【PS】【SO】【H28: A-8-1), A-9-1)】				東北大学高橋 信博	
	4・5	テイラード・コミュニケーション概論【CM】【H28:A-4-1), A-4-2)】				東京歯科大学	
	6・7	長寿を支える硬組織バイオロジー【RE】【A-3-1】【H28:A-8-1), C-3-4)】				東京医科歯科大学	
	8・9	摂食嚥下のメカニズム【RE】【A-3-1】【A-3-2】【H28: A-8-1), C3-4), E-2-1)】				新潟大学	
	10・11	地域連携と摂食支援【C-1-3】【D-6】【E-5-6】【E-6】【H28: A-5-1), A-7-1), B-2-2), E-2-1), E-5-1), F-3-7)】				日本歯科大学	
	12・13	スポーツ歯学【C-5】【D-1-1】【D-2-2】【D-3-1】【H28: E-2-4)】				東北大学小川 透	
14・15	周術期の歯科医療【GE】【D-2-4】【D-6】【E-6-1】【H28: A-5-1)】				東北大学病院 周術期口腔支援センター		
アドバイス	講義の内容および講師、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。 最初の授業や Google Classroom を介して説明するので、確認すること。						
授業時間外学習	準備学習および理解度確認のための課題等を求めることがある。						
テキスト・教材・ 参考書等	別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	出席、レポート等から総合的に判断する。						

授業科目		イノベティブ展開歯学		授業担当	○千葉 美麗 歯学イノベーションリエゾンセンター			
授業細目		未来型歯学・歯科医療		責 任 者	○小坂 健 国際歯科保健学分野			
曜日一時限		水－１・２	対象年次 学期	５年次 ９セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN817J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：超少子高齢社会の日本において必要となる、あらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療のための基礎的知識を習得する。 概要：異分野融合型歯学、先端歯科医療、再生医療、食と健康、口腔ケア・リハビリテーション、医療・介護・福祉における他職種連携、地域包括ケアシステムや災害医療における対応など、これからの歯学・歯科医療において、緊急性・重要性の高い領域について学ぶ。 ※五大学連携事業：課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」（文部科学省事業：平成 26 年度～平成 30 年度）で行われた大学別科目をベースに講義を行う。						
学習の到達 目標		一般目標：将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。 個別目標： ① 歯科医療に応用可能な生体材料、医療機器に求められる諸性質ならびにその臨床応用に向けて必要な研究および承認申請等について理解する。 ② 口腔衛生状態の維持向上、ならびに口腔機能の維持回復を目的とする口腔のケア・リハビリテーションにおいて、歯科医療専門職種が医療・介護・福祉など他領域の専門職種と連携を行う必要性を理解する。 ③ 口から始まる健康長寿社会の実現に向けて、歯学・食品学・栄養学などの最新の臨床および研究から、食や健康の入り口となる口腔について理解する。 ④ 幹細胞研究やバイオテクノロジーの進展をふまえたこれからの歯科医学に必要となる再生医療の基礎知識を学ぶ。 ⑤ 社会との関わりの中で歯科医療・口腔科学の役割について、地域包括ケアシステムや災害医療における対応を理解し、説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容					担当代表者	
	１・２	歯学発の医療機器・技術イノベーション【RE】【B-2】【B-3】【H28：A-8-1), D-1), D-2)】					鈴木 治	
	３・４	異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション【IP】【C-1-3】【C-4-3】【D-6-2】【E-6-1】【H28：A-5-1), A-7-1), B-2-2), E-2-1), E-5-1), F-3-7)】					小関 健由	
	５・６	口腔が支える食と健康【RE】【IP】【H28：A-8-1), B-1)】					若森 実	
	７・８	口腔から始まる再生医療【RE】【A-5-3】【H28：A-8-1), C-5-3)】					江草 宏	
	９・１０	社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理【IT】【C-4】【C-6】【E-6-2】【H28：A-7-1), B-2-2), B-2-3), B-4-1), B-4-2)】					小坂 健	
アドバイス		講義の担当者、内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。						
授業時間外学習		準備学習および理解度確認のための課題等を求めることがある。						
テキスト・教材・参考書等		別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法		担当教員の評価を集計して判定する。						

授業科目	歯学臨床ゼミ			授業担当 責 任 者	小川 徹 総合歯科診療部 小林 洋子 歯科医療管理部			
授業細目	歯科医療管理学							
曜日一時限	木ー 1・2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	D棟 合同講義室	科目番号	DDE-DEN819J	
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：信頼される安全・安心な歯科医療を提供するためには患者安全対策に配慮する必要がある。本授業の目的は、歯科診療を実施するために必要な患者安全・感染対策・診療記録および研究倫理に関する知識の習得し、グループワークを通じてより理解を深めることである。 概要：本授業は講義・実習とグループワークを複合した形式で実施する。							
学習の到達 目標	一般目標：患者安全・感染対策・診療記録に関する知識を習得するとともに、グループ討議、成果報告のプロセスを通じて、自ら考察する能力、目標に向けて他者と協調して行動する態度を身につける。 個別目標： ① 患者安全について説明できる。 ② 感染対策について説明できる。 ③ 診療記録について説明できる。 ④ 研究倫理および責任ある研究活動について説明できる。							
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者		
	1	歯科医療管理学概論【PS-09】【C-3】				小林 洋子		
	2	world café ①【PS-09】【C-3】				小林 洋子 倉内 美智子		
	3	院内感染とは【PS-09】【CS-07】【E-1-1】				江草 宏		
	4	歯科における院内感染対策【PS-09】【CS-07】【E-1-1】				江草 宏		
	5	標準予防策【PS-09】【CS-07】【E-1-1】				小林 洋子		
	6	PPE 着脱、ラッピング実習【PS-09】【CS-07】【E-1-1】				小林 洋子 倉内 美智子		
	7	ヒューマンエラー【PS-09】【CS-07】【C-3-1】				田畑 雅央 医療安全推進室長		
	8	グループワーク① 誤飲・誤嚥を考える【PS-09】 【CS-07】【C-3-2】				小林 洋子 倉内 美智子		
	9	安全文化【PS-09】【CS-07】【C-3-1】				杉浦 剛		
	10	歯科におけるインシデント【PS-09】【CS-07】【C-3-2】				杉浦 剛		
	11	針刺し切創体液曝露対策【PS-09】【CS-07】【C-3-3】 【E-1-1】				小林 洋子		
12	医療廃棄物の取扱い、AMR 対策【PS-09】【CS-07】 【C-3-3】【E-1-1】				小林 洋子			

13	歯科医療機器の安全【PS-09】【CS-07】【C-3-1】	倉内 美智子
14	グループワーク② 粘膜損傷を考える【PS-09】【CS-07】【C-3-2】	小林 洋子 倉内 美智子
15	滅菌・消毒・洗浄【PS-09】【CS-07】【E-1-1】	倉内 美智子
16	グループワーク③ 熱傷を考える【PS-09】【CS-07】【C-3-2】	小林 洋子 倉内 美智子
17	医療情報とカルテ記載【CS-09】【D-4-1】【D-4-2】	倉内 美智子
18	グループワーク④ 誤認を考える【PS-09】【CS-07】【C-3-2】	小林 洋子 倉内 美智子
19	インフォームドコンセントとセカンドオピニオン【PS-09】【CS-07】【C-1-1】【D-4-3】	小林 洋子
20	world café ②【PS-09】【C-3】	小林 洋子 倉内 美智子
21	研究倫理教育教材を用いたグループディスカッション①【PS-09】【C-1-1】【C-3-2】	小川 徹 重光 竜二
22	研究倫理教育教材を用いたグループディスカッション②【PS-09】【C-1-1】【C-3-2】	小川 徹 重光 竜二
アドバイス	医療の不確実性を認識することで、安全で質の高い歯科医療を提供するために必要なことは何かを知識として習得するとともに、グループワークで他者から学ぶ姿勢やプロセスに能動的に参加する態度を養ってほしい。	
予習・復習	関連範囲は多岐にわたる。特に臨床において必須の内容なので、復習をしっかりと行ってほしい。	
テキスト・教材・参考書等	・ 知っておきたい歯科における医療安全対策～大学病院での医科・歯科双方の視点から（前田嘉信、塚原宏一、窪木拓男 監修）デンタルダイヤモンド社 ・ 歯科医療安全管理マニュアル（今井裕、栗田浩 編集）医歯薬出版株式会社 ・ 歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト（ICHG 研究会編）医歯薬出版株式会社 ・ JST 研究倫理教育教材	
成績評価の方法	授業への出席を前提に、授業への積極的かつ能動的な参加状況および小テストやレポートの内容で総合的に評価する。	

授業科目	基礎研究実習 (アントレプレナーシップ教育)		授業担当 責 任 者	口腔生化学 歯科薬理学 口腔微生物・免疫学 口腔器官解剖学 口腔生理学 国際歯科保健学 口腔病理学 顎口腔組織発生学 歯科法医学情報学 生体材料理工学			
授業細目							
曜日一時限	木-2, 3, 4 金-1, 2, 3, 4	対象年次 学期	3 年次 6 セメスター	講義室名	各分野 研究室	科目番号	DDE-DEN820J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：プレ大学院授業として、基礎系分野で歯学研究を体験させることで、リサーチマインドの涵養を目指す。さらに研究実習の一環として、研究倫理の基本を修得させる。 概要：基礎系分野で研究実習に取り組む。一般財団法人公正研究推進協会 (APRIN) の研究倫理教育 e ラーニングプログラムを受講後、各分野における研究を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：実習を通じて、研究における責任感と研究心を養成し、研究遂行に必要な基礎的能力を身につける。 個別目標： ① 研究倫理(利益相反、研究不正、データ管理等)の基本原則を説明できる。 ② 研究における課題設定、研究立案、実施、まとめ、報告等のプロセスを概説できる。 ③ 英語学術論文の基本構造を理解し、研究の背景を文献から調査できる。 ④ 実験・解析の手順を実験ノートに記録できる。 ⑤ 研究結果を口頭または書面で報告できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	第 1 回	APRIN 研究倫理教育 e ラーニングプログラム受講【RE-01】 【RE-02】【RE-03】【RE-04】【LL-01】【LL-04】【H28: A-1-1】 【H28: A-2-2】【H28: A-2-3】				多田 浩之 (歯学部教務委員会)	
	第 2 回	英語学術論文の基本構造【RE-05】				多田 浩之	
	第 3 回～	各分野での研究実習【RE-01】【RE-02】【RE-03】【RE-04】 【RE-05】【RE-06】【LL-01】【LL-04】【H28: A-1-1】【H28: A-2-2】【H28: A-2-3】				各分野担当教員	
アドバイス		● 具体的な研究実習内容は各分野担当者が説明する。APRIN 研究倫理教育 e ラーニングプログラムの受講期間・修了証提出期限等は Google Classroom で通知する。					
授業時間外学習		● 各分野担当者が指導する。					
テキスト・教材・参考書等		各分野担当者が適時紹介する。					
成績評価の方法		以下の要件をすべて満たした場合に単位を認定する。 ① APRIN 研究倫理教育 e ラーニングプログラムの修了証を指定期限までに授業担当責任者へ提出すること。 ② 所定の出席時間数を満たすこと。 ③ 実験記録を担当教員の指定する期限までに提出すること。					

授業科目	臨床シミュレーション実習			授業担当 責任者	○山田 聡 石幡浩志		
授業細目	歯科治療の基礎 (統合型実習)						
曜日一時限	月－３・４ 水－３・４ 金－３・４	対象年次 学期	５年次 ９セメスター	講義室名	B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要	統合型実習模型とシナリオを用いて、基本的な歯科治療における診査、診断、外科的処置を含め、保存的治療、補綴的治療に至るまでの一連の治療の流れを修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：高頻度歯科診療を実践するための基本的知識・技能および態度を、シミュレーション実習（統合型模型実習）を通して修得する。 個別目標： ① 口腔内所見とエックス線検査所見から治療計画を立案できる。 ② 模型上で髄腔開拓から根管充填の基本操作を行うことができる。 ③ 模型上で歯石探査と SRP の基本操作を行うことができる。 ④ 模型上でう蝕除去および窩洞形成の基本操作を行うことができる。 ⑤ 模型上で普通抜歯および縫合の基本操作を行うことができる。 ⑥ 模型上でコンポジットレジン充填の基本操作を行うことができる。 ⑦ 模型上で前歯部プロビジョナルブリッジ製作（直接法）の基本操作を行うことができる。						
授 業 回 数	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	統合型実習の説明、診査、診断、治療計画立案 診査、診断、治療計画立案（歯科医用情報学分野）[E-4-2-1, E-4-2-2, E-2-5-4]				歯科医用情報学分野教員	
	2	統合型実習（保存系：歯科保存）[D-5-2-2-1, D-5-2-2-2], [E-5-1-2, E-1-1-4, E-5-3-2-2]				保存系教員	
	3	統合型実習（保存系：歯科保存）[D-5-2-1-1, D-5-2-1-2], [E-5-1-2, E-5-3-1-1, E-5-3-1-2]				"	
	4	統合型実習（保存系：歯内歯周）[D-5-2-3-1～4], [E-5-1-2, E-5-3-3-3]				"	
	5	統合型実習（口腔外科系）[D-5-4-1, D-5-4-3] [E-5-1-2, E-5-3-5-1, E-5-3-5-3]				口腔外科系分野教員	
	6	統合型実習（保存系：歯内歯周）[D-5-2-3-1～4], [E-5-1-2, E-5-3-3-3]				保存系教員	
	7	統合型実習（補綴系：口腔システム補綴学分野）[D-5-3-2-3], [E-5-1-2, E-5-3-4-2-1, -2]				補綴系教員	
	8	統合型実習（補綴系：口腔システム補綴学分野）[D-5-3-2-3], [E-5-1-2, E-5-3-4-2-1, -2]				"	
	9	統合型実習（補綴系：分子・再生歯科補綴学分野）[D-5-3-1-8], [E-5-1-2, E-5-3-4-1-7]				"	
	10	統合型実習（補綴系：分子・再生歯科補綴学分野）[D-5-3-1-8], [E-5-1-2, E-5-3-4-1-7]				"	

アドバイス	● 近い将来に待ち受ける臨床実習では、実際の患者と接し、コミュニケーションを構築し、インフォームド・コンセントを行うなどの態度が重要である。また、基本的な診察・臨床技能について自験を通して習得していくことが求められる。従って臨床実習に進む前に、臨床能力の知識だけでなく態度および技能について本シミュレーション実習を通して十分に訓練する必要性を自覚して実習に臨むこと。 ● 本実習は、模擬患者模型を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。
授業時間外学習	限られた実習時間内で理解を深めるために、関連するこれまでの授業で用いた教科書および実習書について十分に予習・復習をした上で実習に臨むこと。
テキスト・教材・参考書等	これまでに履修した各分野の実習書 Oral Diagnosis and Radiology 8th edition クラウンブリッジテクニック（第2版）医歯薬出版 2018（分子再生歯科補綴分野） スタンダード部分床義歯学（第2版）学研書院 2010 保存修復学 21（第5版）永末書店 2017
成績評価の方法	本実習への出席を必須とし、実習中の行動、態度および理解度、制作物等により総合的に評価する。実習中にこのままでは将来、患者の診療に関わらせることができないと考えられるようなアンプロフェッショナルな行動や態度があり、指導者が繰り返し指摘しても変わらない場合には単位取得を不可とする。共用試験（CBT・OSCE）の合格を単位修得の要件とする。

授業科目	臨床シミュレーション実習			授業担当 責 任 者	○飯久保 正弘 小川 徹		
授業細目	診断学実習 (単独型実習)						
曜日一時限		対象年次 学期	5 年次 10 セメスター	講義室名	B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科疾患を診断するための臨床推論および画像診断のプロセスを総合的に修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科疾患の画像診断ができる。 個別目標： ① 歯科で用いられる画像検査の所見を述べ、正常像と異常像を読影することができる。 ② 臨床所見をもとに病態を解釈することができる。						
授 業 回 数	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	画像診断実習 [D-2-5-9], [E-2-5-3, E-2-5-4]				歯科医用情報学分野 教員全員	
	2	臨床推論実習 [D-2-1], [D-3-1], [E-3-2]				飯久保・小川	
アドバイス		問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える 歯科医師」を目指してほしい。ここでは口腔診断のプロセスについて総合的に解説する。					
授業時間外学習		これまでの授業で用いた教科書および実習書について十分に予習・復習をした上で実習に臨む こと。					
テキスト・教材・ 参考書等		・Oral Diagnosis and Radiology 8th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学 (古本啓一、岡野友宏、小林馨 編)、医歯薬出版株式会社 ・臨床イメージノート (小林馨、笹野高嗣ら)、永末書店					
成績評価の方法		本実習への出席を必須とし、実習中の行動、態度および理解度、制作物等により総合的に評価 する。実習中にこのままでは将来、患者の診療に関わらせることができないと考えられるよう なアンプロフェッショナルな行動や態度があり、指導者が繰り返し指摘しても変わらない場合 には単位取得を不可とする					

授業科目		臨床シミュレーション実習		授業担当 責 任 者	○金高 弘恭			
授業細目		歯科矯正学・インフォームド ンセント実習 (単独型実習)						
曜日一時限			対象年次 学期	5 年次 10 セメスター	講義室名	B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要		矯正歯科臨床に特徴的な初診面接（矯正相談）ならびにインフォームドコンセントの重要性および医療 面接技術を理解する。						
学習の到達 目標		一般目標：インフォームドコンセントおよび面接技術の基本的知識・技能および態度を理解する。 個別目標：① インフォームドコンセントの重要性を理解する。 ② インフォームドコンセントをロールプレイで体感して理解を深める。 ③ 初診面接をロールプレイで体感して面接技術を理解する。						
授 業 回 数	回 数		授 業 内 容				担 当 者	
	1		インフォームドコンセント[C-1-1-4], [E-2-1-1-1～8, E-4-3-1 ～4]				顎口腔矯正学分野 教員全員	
	2		初診面接（矯正相談）[C-1-1-4] , [E-2-1-1-1～8, E-4-3-1～4]				〃	
アドバイス			本実習は、模擬患者（学生同士）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診 る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届け出 なき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。					
授業時間外学習			インフォームドコンセントとは何かを理解しておく。また、講義で配布される講義レジュメを 用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。					
テキスト・教材・ 参考書等			テキストは別途配布する。					
成績評価の方法			本実習への出席を必須とし、学習到達目標の達成度をチェックリストにより評価する。実習中 にこのままでは将来、患者の診療に関わらせることができないと考えられるようなアンプロフ ェッショナルな行動や態度があり、指導者が繰り返し指摘しても変わらない場合には不合格と する。					

授業科目	臨床講義A			授業担当 責任者	臨床実習総責任者		
授業細目							
曜日・時限	金一3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN401J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するため 概要：日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～20	各科・部の指導者による講義				各科・部教員	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習							
テキスト・教材・ 参考書等							
成績評価の方法	出席、レポート等により総合的に評価。						

授業科目		臨床講義B		授業担当 責 任 者	臨床実習総責任者			
授業細目								
曜日一時限		金－3・4	対象年次 学期	6年次 11～12セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN211
授業の目的 と概要		目標と目的：歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するため。 概要：日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。						
学習の到達 目標		一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回 数		授 業 内 容			担 当 者		
	21～67		各科・部の指導者による講義			各科・部教員		
アドバイス		詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習								
テキスト・教材・ 参考書等								
成績評価の方法		出席、レポート等により総合的に評価。 なお、本科目を修得できない場合は、臨床講義Aを再度履修する必要がある。						

授業科目	臨床実習 A			授業担当	臨床実習総責任者		
授業細目				責 任 者			
曜日一時限	月～金－ 1～4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	東北大学病院 及び A1講義室	科目番号	DDE-DEN402J
授業の目的と概要	目標と目的・概要：基本的な診察や技能を修得し、歯科医学・医療の進歩と改善に資するために、臨床を通して研究意欲と基礎的素養を身に付け、卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養する。						
学習の到達目標	一般目標：一口腔単位の歯科治療を行うために患者情報の収集・分析、診断、治療計画、記録についての知識・技能及び態度を修得する。歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染対策についての知識、技能及び態度を修得する。歯科診療を実践するための基本的臨床手技を修得する。法令を遵守し、保健・医療・福祉・介護制度を理解し、チーム医療、地域医療、病診連携についての知識、技能及び態度を修得する。臨床実習を通して患者中心の医療を実践し、歯科医師として必要な医の倫理、患者の権利についての知識、態度を修得する。 個別目標： ① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。 ② 診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。 ③ 主観的所見、客観的所見、評価、計画(SOAP)による診療録及び指示書を作成できる。 ④ 患者の訴え、また指導医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。 ⑤ 医療安全対策（標準予防策、感染予防、医療機器の操作等を含む）を実践できる。 ⑥ 一次救命処置(BLS)を実施できる。 ⑦ 薬剤耐性(AMR)に配慮した適切な抗菌薬の処方ができる。 ⑧ 局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。 ⑨ 永久歯の単純拔牙を実施できる。 ⑩ 軟組織の小手術を実施できる。 ⑪ う蝕その他の歯の硬組織疾患（象牙質知覚過敏症を含む）の保存修復治療ができる。 ⑫ 歯髄・根尖性歯周疾患の治療ができる。 ⑬ 歯周基本治療ができる。 ⑭ 歯質の欠損に対する歯冠補綴治療ができる。 ⑮ 歯の欠損に対する補綴治療ができる。 ⑯ 口腔衛生指導を実施できる。 ⑰ 歯科疾患を予防するための処置ができる。 ⑱ 小児に対する歯科予防処置を実施できる。 ⑲ 模型及び頭部エックス線規格写真等を分析、診断し、歯科矯正治療の計画を立案できる。 ⑳ 地域医療・地域保健（在宅医療（訪問歯科診療を含む）、地域包括ケアシステム）を経験する。 ㉑ 病診連携、病病連携を経験する。 ㉒ 多職種連携（歯科衛生士、歯科技工士、医師、薬剤師、看護師、その他の関連職種並びに介護職）によるチーム医療を経験する。 ㉓ 根拠に基づいた医療(EBM)、Narrative-based Medicine (NBM)に基づいた患者中心の医療を実践する。 ㉔ インフォームド・コンセントを得ることができる。						
授業計画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
		詳細については、臨床実習要項を参照のこと [PR-01～06, GE-01～05, LL-01～05, CS-01～09, CM-01～05, IP-01～04, SO-01～07]					
アドバイス		詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
予習・復習		詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
テキスト・教材・参考書等		詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
成績評価の方法		各科(部)の実習要項に記載の評価、レポート、修了認定試験等により総合的に評価。出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。					

授業科目		臨床実習B		授業担当		臨床実習総責任者		
授業細目				責 任 者				
曜日－時限		月～金－ 1～4	対象年次 学期	6年次 11～12セメスター	講義室名	東北大学病院 および A1講義室	科目番号	DDE-DEN412J
授業の目的 と概要		目標と目的・概要：基本的な診察や技能を修得し、歯科医学・医療の進歩と改善に資するために、臨床を通して研究意欲と基礎的素養を身に付け、卒業後に歯科医師としての資質・能力を涵養する。						
学習の到達 目標		一般目標：一口腔単位の歯科治療を行うために患者情報の収集・分析、診断、治療計画、記録についての知識・技能及び態度を修得する。歯科診療を実施するために必要な医療安全・感染対策についての知識、技能及び態度を修得する。歯科診療を実践するための基本的臨床手技を修得する。法令を遵守し、保健・医療・福祉・介護制度を理解し、チーム医療、地域医療、病診連携についての知識、技能及び態度を修得する。臨床実習を通して患者中心の医療を実践し、歯科医師として必要な医の倫理、患者の権利についての知識、態度を修得する。 個別目標： ① 歯科・口腔疾患を正しく診断し、治療方針・治療計画の立案、予後の推測ができる。 ② 診断並びに治療方針・治療計画を患者にわかりやすく説明できる。 ③ 主観的所見、客観的所見、評価、計画(SOAP)による診療録及び指示書を作成できる。 ④ 患者の訴え、また指導医からの指摘事項も参考に、治療結果を適正に評価できる。 ⑤ 医療安全対策(標準予防策、感染予防、医療機器の操作等を含む)を実践できる。 ⑥ 一次救命処置(BLS)を実施できる。 ⑦ 薬剤耐性(AMR)に配慮した適切な抗菌薬の処方ができる。 ⑧ 局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ⑨ 永久歯の単純抜歯を実施できる。 ⑩ 軟組織の小手術を実施できる。 ⑪ う蝕その他の歯の硬組織疾患(象牙質知覚過敏症を含む)の保存修復治療ができる。 ⑫ 歯髄・根尖性歯周疾患の治療ができる。 ⑬ 歯周基本治療ができる。 ⑭ 歯質の欠損に対する歯冠補綴治療ができる。 ⑮ 歯の欠損に対する補綴治療ができる。 ⑯ 口腔衛生指導を実施できる。 ⑰ 歯科疾患を予防するための処置ができる。 ⑱ 小児に対する歯科予防処置を実施できる。 ⑲ 模型及び頭部エックス線規格写真等を分析、診断し、歯科矯正治療の計画を立案できる。 ⑳ 地域医療・地域保健(在宅医療(訪問歯科診療を含む)、地域包括ケアシステム)を経験する。 ㉑ 病診連携、病病連携を経験する。 ㉒ 多職種連携(歯科衛生士、歯科技工士、医師、薬剤師、看護師、その他の関連職種並びに介護職)によるチーム医療を経験する。 ㉓ 根拠に基づいた医療(EBM)、Narrative-based Medicine (NBM)に基づいた患者中心の医療を実践する。 ㉔ インフォームド・コンセントを得ることができる。						
授業 計画	回 数	授 業 内 容					担 当 者	
		詳細については、臨床実習要項を参照のこと [PR-01～06, GE-01～05, LL-01～05, CS-01～09, CM-01～05, IP-01～04, SO-01～07]						
アドバイス			詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
予習・復習			詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
テキスト・教材・参考書等			詳細については、臨床実習要項を参照のこと					
成績評価の方法			各科(部)の実習要項に記載の評価、レポート、修了認定試験等により総合的に評価。出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。なお、本科目を修得できない場合は、臨床実習Aを再度履修する必要がある。					

授業科目		歯学海外研修		授業担当	洪 光		
授業細目				責 任 者	歯学イノベーションリエゾンセンター 国際連携推進部門		
曜日一時限	集中講義	対象年次 学期	1～6年次 全セメスター	講義室名	C1 セミナー室	科目番号	DDE-DEN901J
授業の目標 並びに目的 と概要		目標と目的：本授業の目標は、歯学部学生が世界の歯学基幹校との交流を通し、世界各国の口腔保健医療、歯学教育研究、歯科医療現場を体験・実践することにより、国際的視野を養い、学生レベルでの歯学・歯科医療国際ネットワークを早期構築し、歯学部での国際化推進学生リーダーを養成することである。 概要：本授業は、歯学部で行っている海外短期派遣留学プログラム（バーチャルプログラムも含む）に参加することにより、海外連携校指導教員、学生と共に海外の口腔医療、歯科医療現場に参画し、体験型学習を行う。さらに、派遣地の歯学教育研究に関しても体験を行う。					
学習の到達 目標		一般目標：国際的視野を養い、国際交流に積極的に取り組むことができる。 個別目標： 1. 歯科医療事情の相互理解：派遣先国々の歯科医療事情を理解し、日本との相違を説明できる。 2. 世界各国における歯学教育・研究現状を把握し、それぞれの地域の歯学・歯科レベル向上のために、今からできることを説明できる。 3. 英語によるコミュニケーション能力の向上及び国際化視点の涵養：積極的に派遣先の教員、学生とコミュニケーションがとれ、議論するための必要なコミュニケーション能力を向上する。 4. 参加学生が帰国後、連携校との交流を継続し、リアルタイムに情報交換を行うなど、歯学・歯科医療 国際ネットワークを形成する。					
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	詳細は、別途通知する。 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム：【C-7-1)】 【C-7-2)】【C-7-3)】【C-7-4)】				洪 光 Juan Ramón Vanegas Sáenz Bao Gao-Wa He Yu-Wen	
アドバイス		● 海外短期派遣留学プログラムには JASSO による奨学金支援プログラムもあり、奨学金支給資格は GPA による判断されるため、各学年で優秀な成績を収めるよう心がけること。 ● 海外派遣には英語力が要求されるが、流暢に話すことよりも、コミュニケーション能力が大事なので、自信を持って取り組むこと。					
授業時間外学習		派遣先の大学情報、国情報などについて事前に予習することが望ましい。					
テキスト・教材・参考書等		講師より指示される場合があるので、それに従うこと。					
成績評価の方法		派遣先教員からの評価レポート及び海外研修終了後のレポートを基に判定する。成績は AA, A, B, C, D 判定とする。					